研　究　紀　要

第８号

2015

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団は、1992 年に財団法人として発足し、以来、高速自動車道・国道・北陸新幹線に関連した遺跡の発掘調査を実施しております。1996 年 10 月には、新潟県埋蔵文化財センターが設立され、新潟県教育委員会の委託により当事業団が管理を行ってまいりました。

当事業団はセンター業務として、埋蔵文化財の調査・研究、整理・保存、情報収集、専門職員研修などのほか、発掘調査等で得られた情報を県民の皆様に還元する普及・啓発活動を行っております。「発掘調査報告会」・「出土品展」・発掘調査現場における「現地説明会」の開催、広報紙「埋文にいがた」、「埋蔵文化財講座」への協力等がその活動の代表的なものです。

近年、発掘調査の件数は減少の一途をたどっておりますが、その一方でより高度な内容の調査と迅速な情報公開が求められてきております。このため当事業団の職員は日々の業務に従事するかたわら、埋蔵文化財に携わる者としての社会的付託を意識し、自らの研鑽を積んでまいりました。その成果の一部を『研究紀要』として公表します。今後の調査・研究活動に御活用いただくとともに、皆様の御叱正をいただければ幸いと存じます。

最後に、本書の刊行にあたり御協力をいただいた関係各位に感謝申し上げるとともに、今後とも一層の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

2015 年 2 月

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高　井　盛　雄

青田遺跡のクリ材（第 9 図・縮尺不同）

野地遺跡のクリ丸太材（第 13 図 5・長さ 5.85m）

1　金目クリ園のクリ（1）

2　金目クリ園のクリ（2）

3　クリの枝（秋田県大館市）

4　下津川クリ林　調査地 No.1

5　下津川クリ林　調査地 No.2

蟻子山 32 号墳調査写真

1　石組み検出状況（東から）

2　同（北東から）

3　杯出土状況

4　甕出土状況

5　刀子出土状況

6　石組み完掘状況（北東から）

7　作業風景（東から）

8　遠景（北東から）

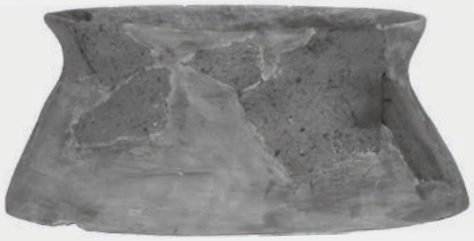
蟻子山 32 号墳出土遺物

第3図1

第3図3

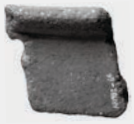
第3図2

第3図7


第3図4

第3図6

第3図8


第4図1

第4図2

第4図3

第4図4

第4図5

第4図6

目　　次

遺跡出土クリ材からみた縄文クリ林の生育環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
荒　川　隆　史

南魚沼市蟻子山32号墳について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
小　野　本　　敦・工　藤　祐　大

土器・陶磁器の機能別比率－越後の古墳時代～古代を中心に－・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
春　日　真　実

恵信尼の里「とひだのまき」に関する考古学的考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
加　藤　　学

遺跡出土クリ材からみた縄文クリ林の生育環境

荒　川　隆　史

はじめに

東日本における縄文時代の建築部材には、クリが多く利用されていたことが明らかにされている［千野 1991、山田 1993］。2005 年までの国内出土木製品データベースによれば、樹種同定が行われた縄文時代の建築部材 9,543 点のうちクリが 3,160 点、トネリコ属が 1,642 点、コナラ節が 903 点などであり[1)]［伊東・山田 2012］、クリが縄文時代の重要な森林資源であったことがあらためて裏付けられた。

越後平野の沖積地に立地する縄文時代晩期末葉の新発田市青田遺跡では､出土した木柱の約 3 割がクリであった［鈴木・小川・能城 2004］。そして、木柱の年輪解析を行ったところ、クリ材の成長速度はコナラ節の約３倍、クヌギ節の約 3.7 倍と非常に速いことが明らかになった［木村・益子 2009］。この要因は、クリがコナラ節やクヌギ節より光環境の良い状態で生育し、人為的な管理がなされたためと考えられている［木村・斎藤・中村 2004］。また、当該期の土層の花粉分析でもクリ花粉の出現率が高く、集落の近傍の微高地にクリ林が形成されていたと考えられている［吉川・荒川 2011］。さらに、本遺跡ではクリの剝かれた内果皮も大量に出土しており、メジャーフードとして利用されていた［荒川 2004］。こうしたクリを建築部材と食料に利用するあり方は、同じ沖積地に立地する後期中葉～晩期中葉の胎内市野地遺跡でも確認されている［新潟県教育委員会ほか 2009・2013］。

しかし、クリを木材や燃料材として伐採することは果実の収穫ができなくなることを意味し、こうした伐採と収穫の相反する行為を両立する方法の解明が重要である。この問題について、千野裕道は若木の段階を果実収穫用とし、収量が減少した成木を建築用として伐採したとする説を提示した［千野 1983］。また、前山精明も新潟市御井戸遺跡において樹齢 20 年で平均直径 24cm に生育するクリ成木が木柱として多数利用されていることと、現生栽培クリの果実収量が 10 代半ばから減少することに相関を見出し、収量が下がる成木を伐採したとする千野の説を肯定した［前山 1996］。千野はさらに縄文時代には二次林の拡大がなかったと結論付けた上で、自然林中から食料用と建築用のクリを識別して利用したとする考えを明らかにした［千野 1991］。これに対し、鈴木三男･能城修一は集落の周辺には二次林が存在し、クリは人為的な栽培･管理によって十分な量が維持され、利用されていたとした［鈴木・能城 1997］。青田遺跡におけるクリの成長や花粉の分析結果は、鈴木・能城の説を支持すると考えられる。また、奈良県橿原市観音寺本馬遺跡において縄文時代晩期のクリ根株が多数見つかった事例は集落周辺にクリ純林が存在したことを直接的に示している。

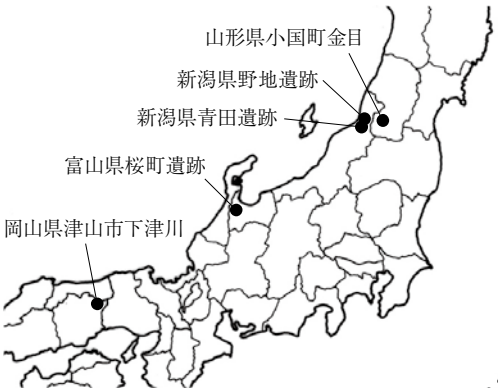
それでは、こうしたクリ林のクリはどのような姿をしていたのであろうか。木柱として利用されていたクリは、通直で幹の長い個体であったと推定される。一方、現生栽培クリは果実収量を上げるために成枝剪定により枝ぶりを良くし、樹高が低く仕立てられている［為国 1969］。クリの生育環境に関する研究は、年輪数や直径といった肥大成長の情報からのアプローチが主体であり、樹高方向の成長や木材として利用する視点からの研究が必要である。そして、縄文時代のクリの姿を明らかにすることは、伐採と収穫を両立する方法を知る上で重要と考えられる。

本研究では、遺跡出土クリ材の観察を通じてどのような生育状態のクリが利用されていたかを明らかにする。さらに、遺跡出土クリ材を評価するために現生クリの測量調査を行い、実証的データを得ることとする。そして、伐採と収穫を両立した縄文時代のクリ林の成育環境を検討することとしたい。

1　分析方法

（1）遺跡出土クリ材の分析

分析対象は、新潟県新発田市青田遺跡（晩期末葉）、新潟県胎内市野地遺跡（後期中葉～晩期中葉）、富山県小矢部市桜町遺跡（中期末葉～後期初頭）から出土したクリ材である（第１図）。

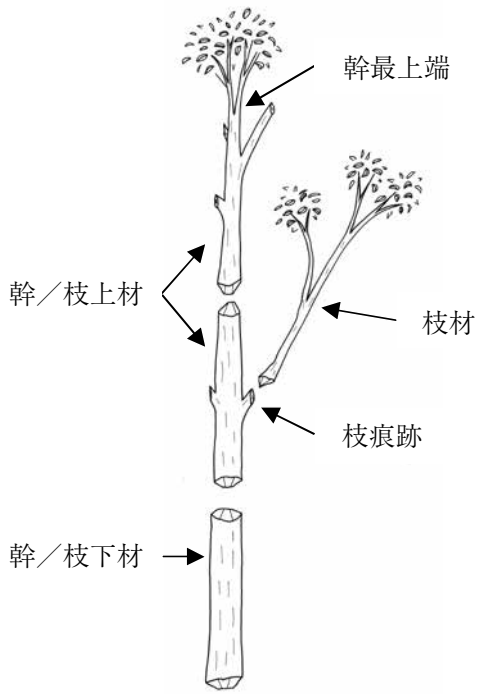


第１図　分析対象地の位置

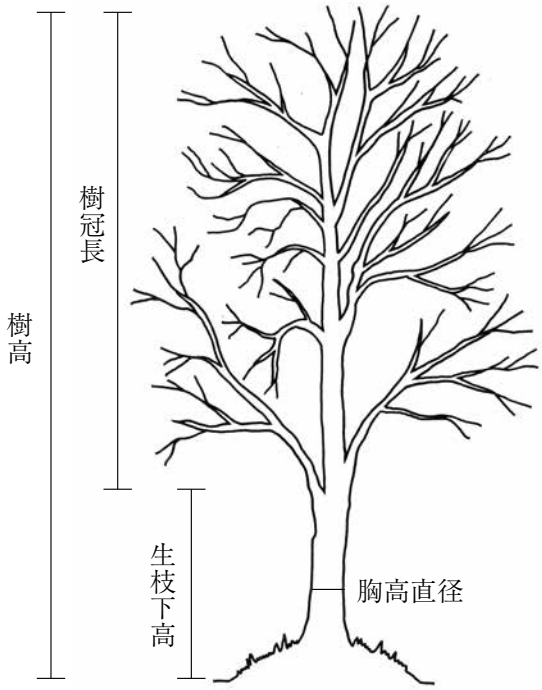
クリ材は、伐採･枝除去･分断･分割･細部加工等を経て、用途に応じた形状に加工されている。ここでは、本来の樹形を知ることを目的として、主に木柱や板材に利用されたクリ材の部位を観察した。部位は幹と枝に分かれる。特に、幹における枝の有無は枝ぶりや枝が生えていた高さを考える上で重要であるため、枝が除去された痕跡の有無も観察した。一般的に、幹の最も下に生える枝より下の幹材は枝下材と呼ばれており、これより上の材を便宜的に枝上材と呼ぶこととする。また、幹の最も上で枝が分岐する部位を幹最上端と呼ぶこととする（第２図）。

（2）現生クリ林の測量調査

測量調査の対象としたのは、山形県西置賜郡小国町金目にある「まみの平観光栗園」と、岡山県津山市加茂町下津川のクリ人工林である（第１図）。測量項目は、胸高直径・樹高・生枝下高である（第３図）。生枝下高とは、地表から幹の最も下にある生枝の根元までの高さである。胸高直径はメジャーで計測した。また、樹高・生枝下高の測量に当たっては、Apple 社製 iPod touch で樹高測量ソフト iHypsometer Pro を用いて行った。



第2図　クリ材の部位名称

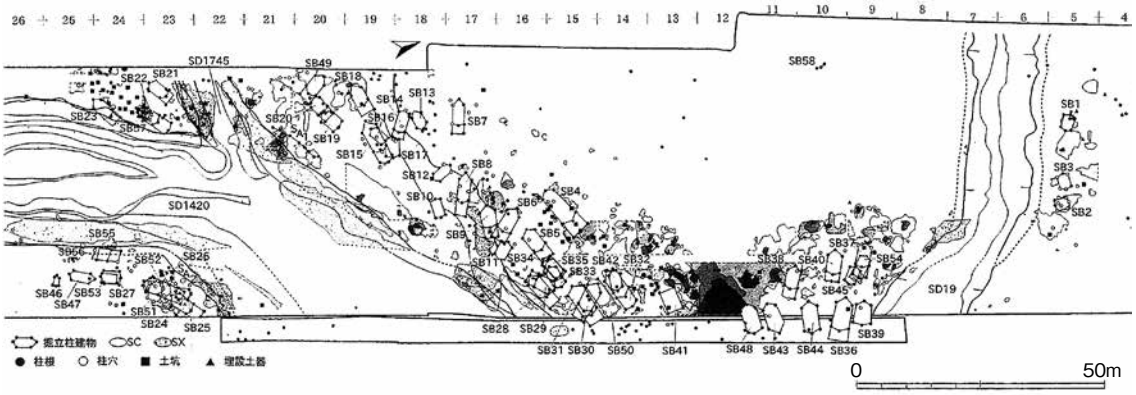


第3図　クリの測量位置

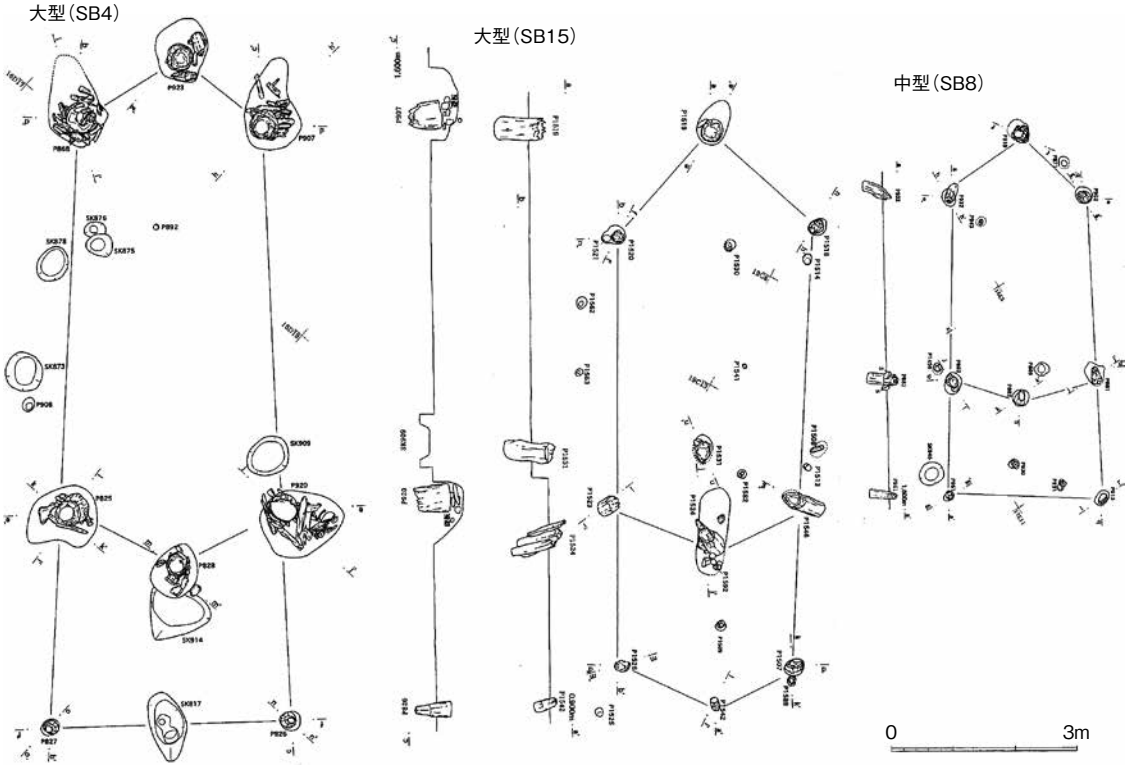
2　遺跡出土クリ材の分析結果

（1）新潟県青田遺跡

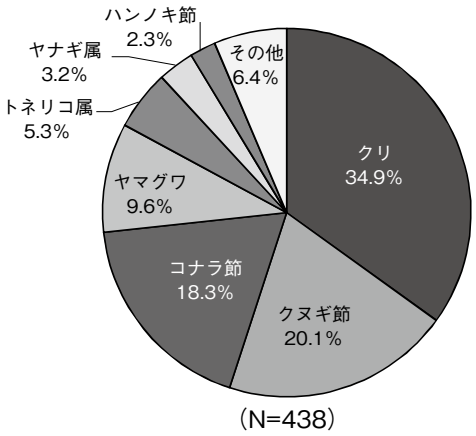
青田遺跡は新潟県新発田市金塚に位置し、標高マイナス１ｍ～プラス 1.6 ｍの沖積低地に立地する。縄文時代晩期末葉の低湿地遺跡であり、南北 210 ｍに及ぶ集落から 58 棟の掘立柱建物が検出された（第４図）［新潟県教育委員会ほか 2004］。掘立柱建物は平面形が６本柱による亀甲形の一方の妻に柱径の細い張り出し部を取り付ける型式が多く、宮本長二郎によって落棟形式の上屋が復元されている［宮本 2002］。掘立柱建物の型式分類［荒川 2009］に従うと、４本柱による長方形 A1 類が４棟，亀甲形 D 類 27 棟，張り出し部を取り付ける G 類 27 棟となる。また、主屋の面積から大型（15㎡以上）・中型（８～ 15㎡）・小型（８㎡以下）に分類できる（第５図）［荒川 2009］。これらの大半に木柱が遺存しており、合計 458 点が出土した。このうち 438 点の樹種組成は、クリ 34.9％，クヌギ節 20.1％、コナラ節 18.3％、ヤマグワ 9.6％、その他 17.1％である（第６図）[2)]［鈴木・小川・能城 2004］。掘立柱建物の規模によって樹種選択が行われており、



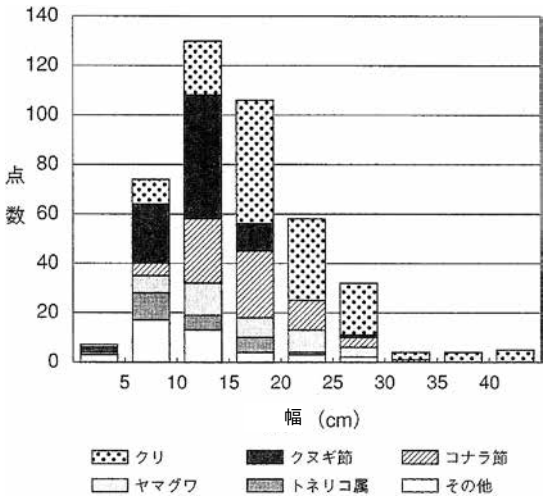
第４図　青田遺跡遺構平面図［新潟県教育委員会ほか2004］



第５図　青田遺跡のクリ木柱を利用した掘立柱建物［新潟県教育委員会ほか2004］



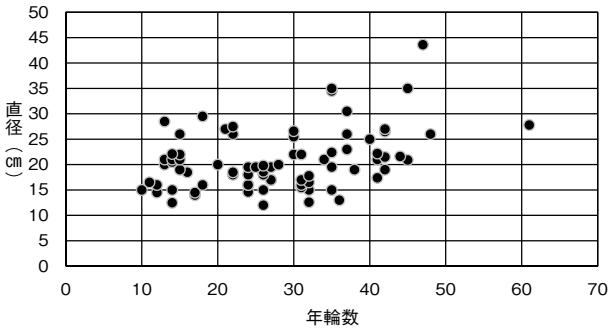
第６図　青田遺跡出土木柱の樹種組成
［鈴木・小川・能城2004を基に作成］



第７図　青田遺跡出土木柱の樹種と幅の関係
［新潟県教育委員会ほか2004を改変］

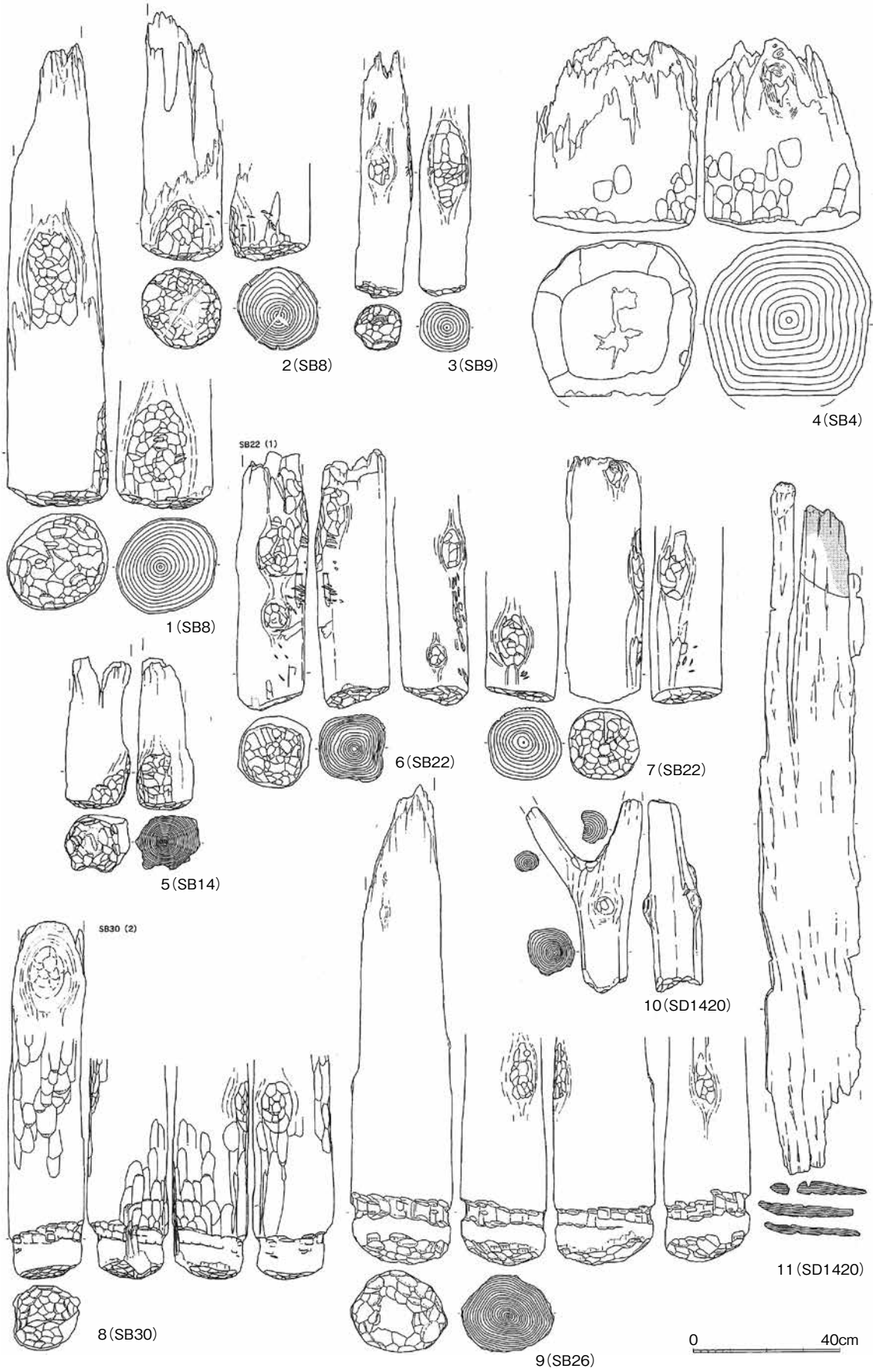
大型建物は主にクリ材、中型建物はクリ・コナラ節・クヌギ節・ヤマグワを単一ないし組み合わせ、小型建物はクヌギ節を中心にトネリコ属やヤナギ属となる。クリ材が利用されるのは大型・中型掘立柱建物のみで、太い木柱にクリ材が多用される（第５・７図）。木柱の幅は掘立柱建物の規模と比例し、同一建物内では張り出し柱と妻柱を除いて同規模の木材が選択される。

クリ木柱は153点あり、現存長は14～163cm、幅は４～52cmである。心が残るクリ木柱78点の年輪数は10～61年に及ぶが、このうち63点（80.7％）は直径15～28cmの間に収まっており、伐採個体は直径を基に選択されたと考えられる（第８図）[3]。もし、果実収量が落ちた成木を伐採したならば、特定の年輪数に個体が集中するはずであるが、そうした状況は認められない。したがって、本遺跡ではクリの樹齢によって果実収穫用と建築用とに使い分けていたとする説［千野1984・前山1996］を支持することは難しい。



第8図　青田遺跡の木柱の直径と年輪数

木柱は地中に埋められた根元部分であるが、すべて通直であり、曲線的なものやねじれたものは認められない。底面は平坦加工のため伐採痕を残すものは少なく、根元付近のものも認められない。［新潟県教育委員会ほか2004］において側面加工分類のⅣ類とされたケズリ加工痕は、ほとんどが枝の除去によるものであり、クリ木柱全体の38.6%に当たる59点に認められる。第９図１～９（写真図版1）は枝痕跡を確認できる代表的な木柱である。１・２は中型建物SB８で、１では下端と中央の２か所に長さ28cmの枝痕跡がある。３は中型建物SB19で、表裏２か所に大小の枝痕跡が認められる。４は大型建物SB４で、下端左の加工痕は枝を除去した痕跡と考えられる。５は中型建物SB14で、枝１か所が除去されているものの、枝のふくらみが残る。６は中型建物SB22で、大小５か所の枝痕跡が認められる。７もSB22で、３か所の枝痕跡を確認できる。８は大型建物SB30で、下端に溝が施された個体である。枝痕跡は表裏に２か所認められる。９は中型建物SB26で、８と同様に下端に溝が施されたものである。中央の表裏に２



第9図　青田遺跡のクリ材[新潟県教育委員会ほか2004]

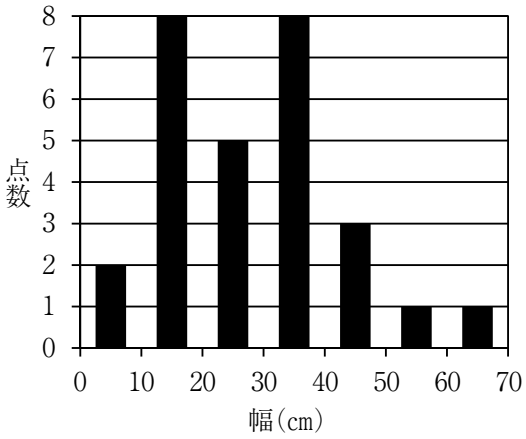
か所の枝痕跡を確認できる。木柱のほかに、クリ材は櫂・板材・礎板・根絡みなど97点が出土した。10はＹ字材で、幹最上端の可能性が高い。下端は分断され、中央に長さ５cm程度の枝痕跡を３か所確認できる。11は青田遺跡最大規模の板目板材で、長さは1.78ｍ、幅は27.4cmの通直材である。年輪観察から直径50cm以上の幹から分割されたものと推定されている［新潟県教育委員会ほか2004］。

以上から、木柱として用いられた幹材には枝痕跡を持つ枝上材が多用されていることが明らかになった。また、幹最上端を切断利用したＹ字材もあることから、幹全体を利用していたことが分かった。

（２）新潟県野地遺跡

野地遺跡は新潟県胎内市八幡に位置し、標高7.5ｍ～8.8ｍの沖積低地に立地する。縄文時代後期中葉～晩期中葉の低湿地遺跡であり、Ｐ１調査区で掘立柱建物１棟・木柱15点、Ｐ２調査区で木柱８点、Ｐ３調査区で木柱４点、18Trで木柱５点・丸太材１点などが見つかった（第11図）［新潟県教育委員会ほか2009・2013］。掘立柱建物SB22は青田遺跡と同じ大型のＧ類で、木柱にはすべてクリ材が用いられている。Ｐ２調査区のP1021・1022・1023は一連のものと考えられている（第12図）。

木柱は後期中葉～晩期前葉のもので、樹種はクリ29点、ヤナギ属２点、ウルシ１点である［鈴木2009・小林ほか2013］。クリ木柱29点の現存長は12～137cmで、すべて通直材である。幅は最小９cm・最大63cmで、15～40cmのものが18点（62％）と利用率が高い（第10図）。枝を除去した加工痕が認められたのは７点（24.1％）である。第13図はその代表的なクリ材である。１・２はSB22の側柱で、１の下半に２か所、２の下端に１か所の枝痕跡を確認できる。３はSB22の張り出し柱で、２か所の枝痕跡が認められる。４はＰ２区P1021で、上部が３本の枝に分岐しており、青田遺跡のＹ字材と同様に幹最上端の可能性が高い。また、下部に枝痕跡３か所を確認できる。５は18Trから出土した丸太材である（写真図版1）。長さ5.85m・最大幅39cmの通直材で、両端は腐食により欠損している。下端には溝が施され、上端には大枝を除去した加工痕がある。この加工痕より下では枝痕跡が認められない。

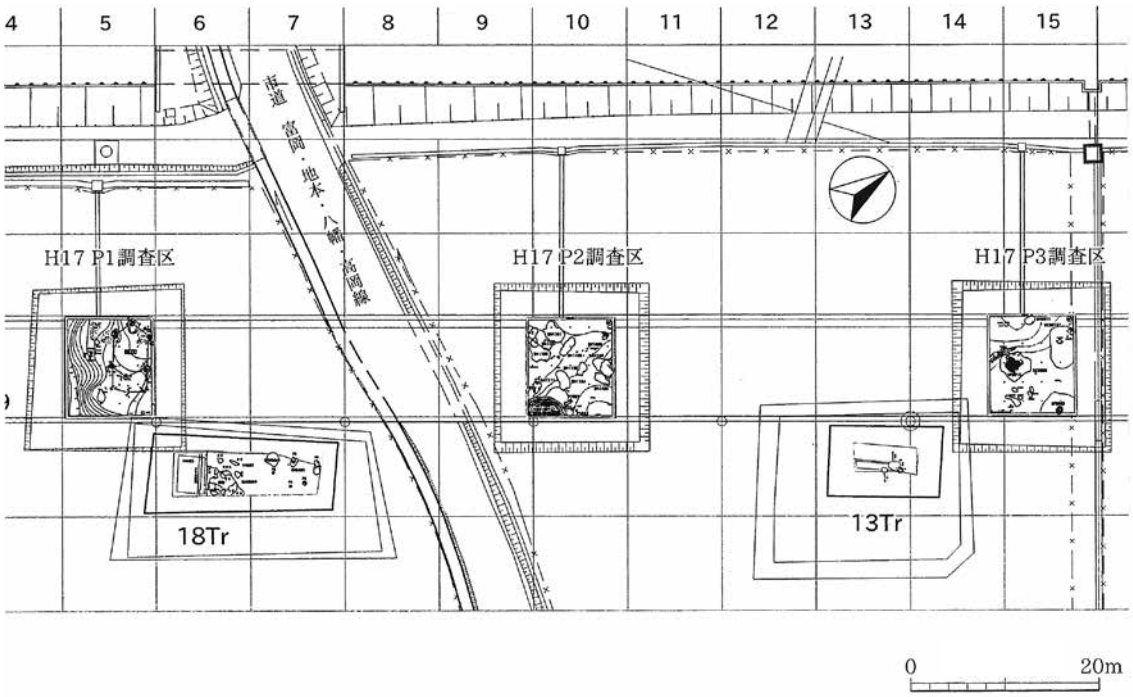


第10図　野地遺跡出土木柱の幅と点数

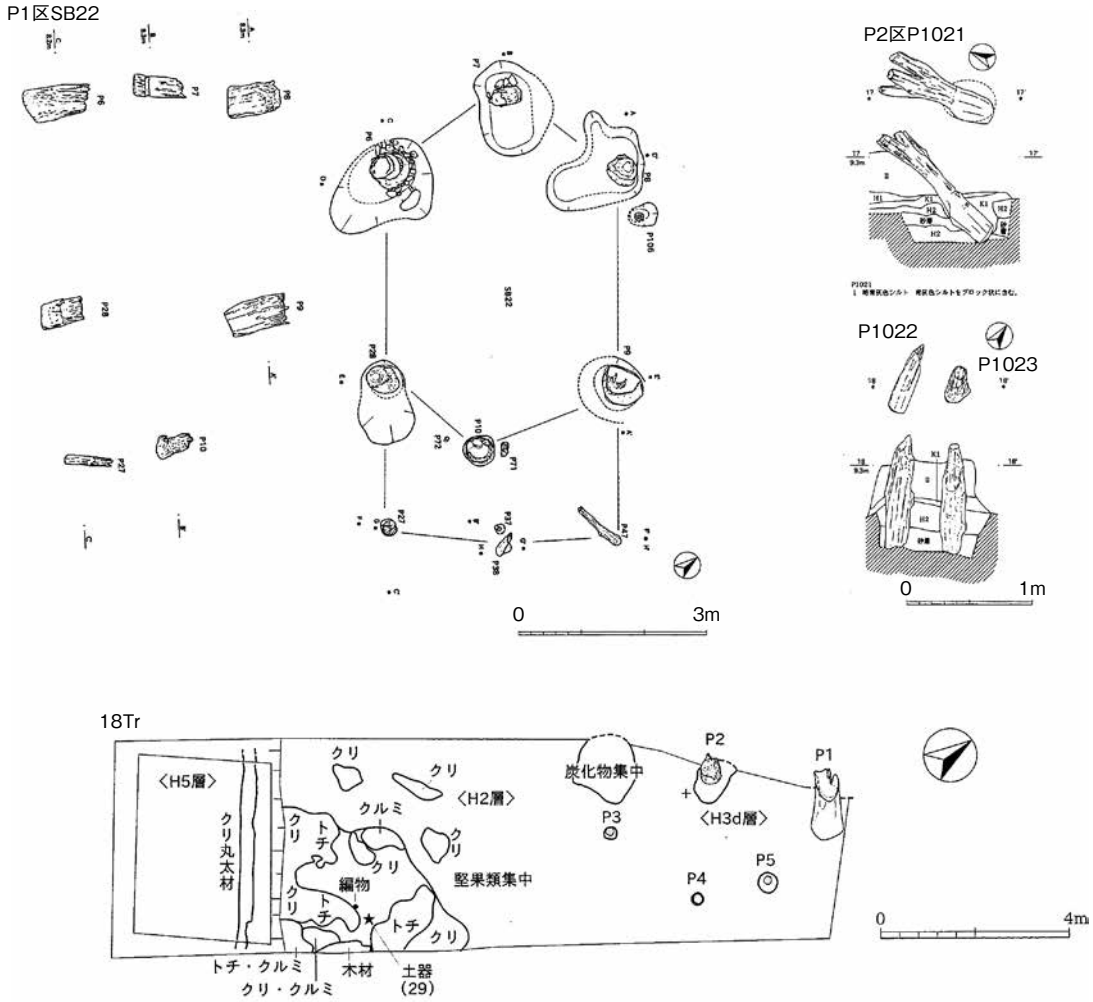
以上から、野地遺跡の木柱には青田遺跡と同様に枝痕跡を持つ枝上材が認められたほか、幹最上端の部材利用を確認できた。そして、丸太材からは少なくとも長さ５ｍの通直の枝下材を持つクリ個体が存在していたことが明らかになった。

（３）富山県桜町遺跡

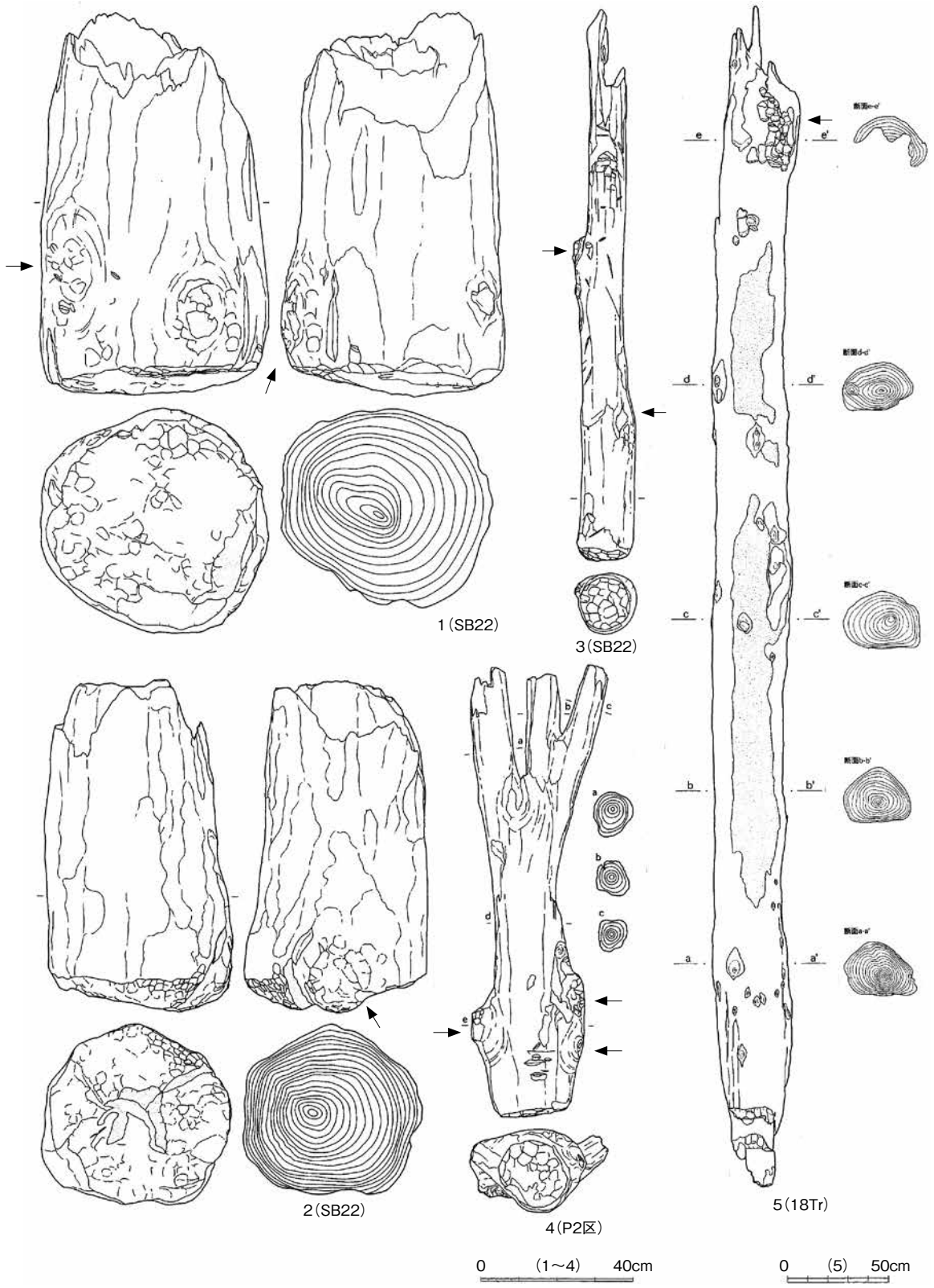
桜町遺跡は富山県小矢部市桜町に位置し、標高30～50ｍの開析谷に立地する。縄文時代早期～晩期の遺物、中期末～後期初頭の遺構群、後期末～晩期の遺構群が検出された［小矢部市教育委員会2004・2005・2007a・2007b］。本研究で対象とするのは、SD06から見つかった木組みSX01や木材集中箇所SX02などのほか、水場遺構SX01・02などから大量に出土した中期末～後期初頭の木製品等である（第14図）。加工痕のある木製品は合計650点に上り、樹種同定が行われた635点のうちクリは451点（71％）である［鈴木・能城・菅野2007］。



第11図　野地遺跡の調査位置と縄文時代晩期前葉の遺構平面図[新潟県教育委員会ほか2009・2013から作成]



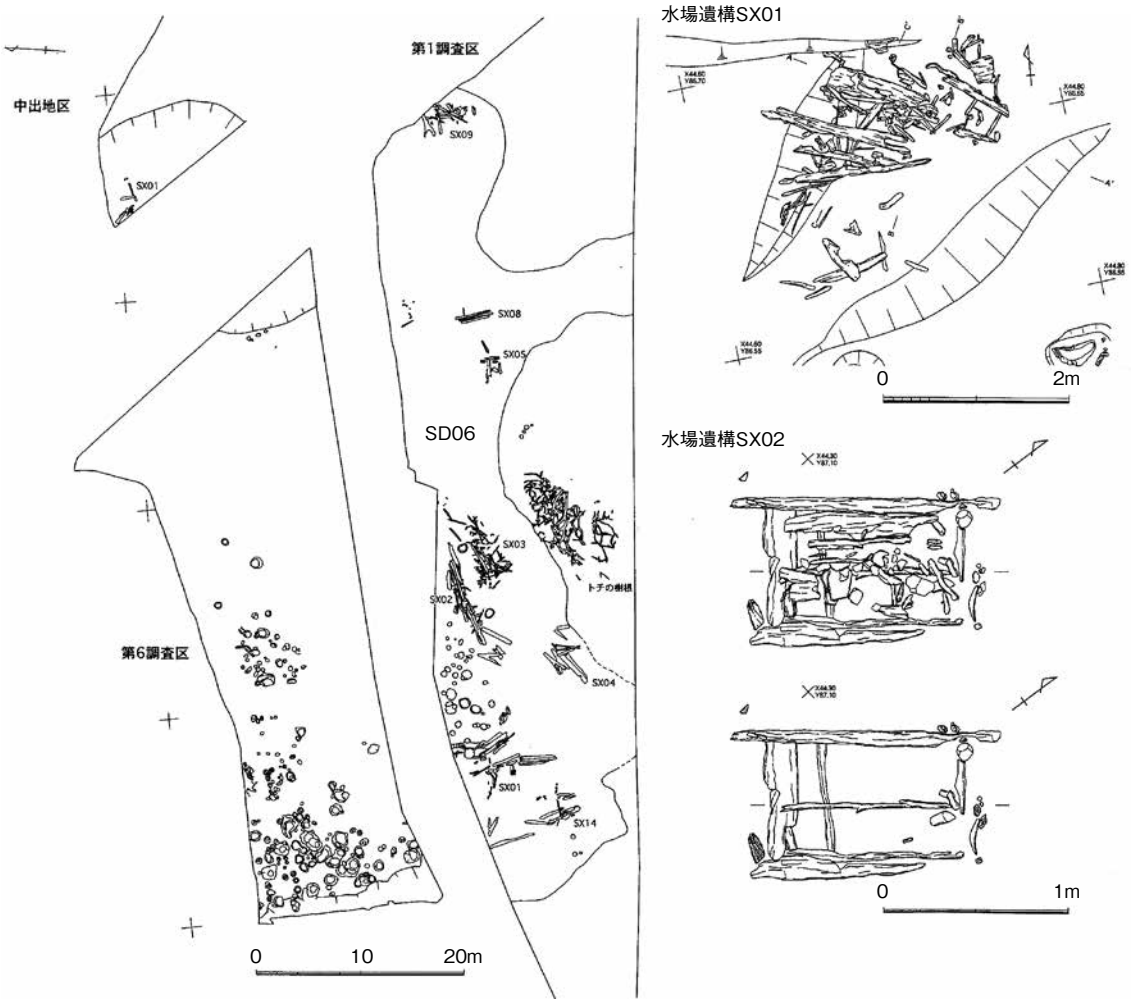
第12図　野地遺跡のクリ材出土状況[新潟県教育委員会ほか2009・2013]



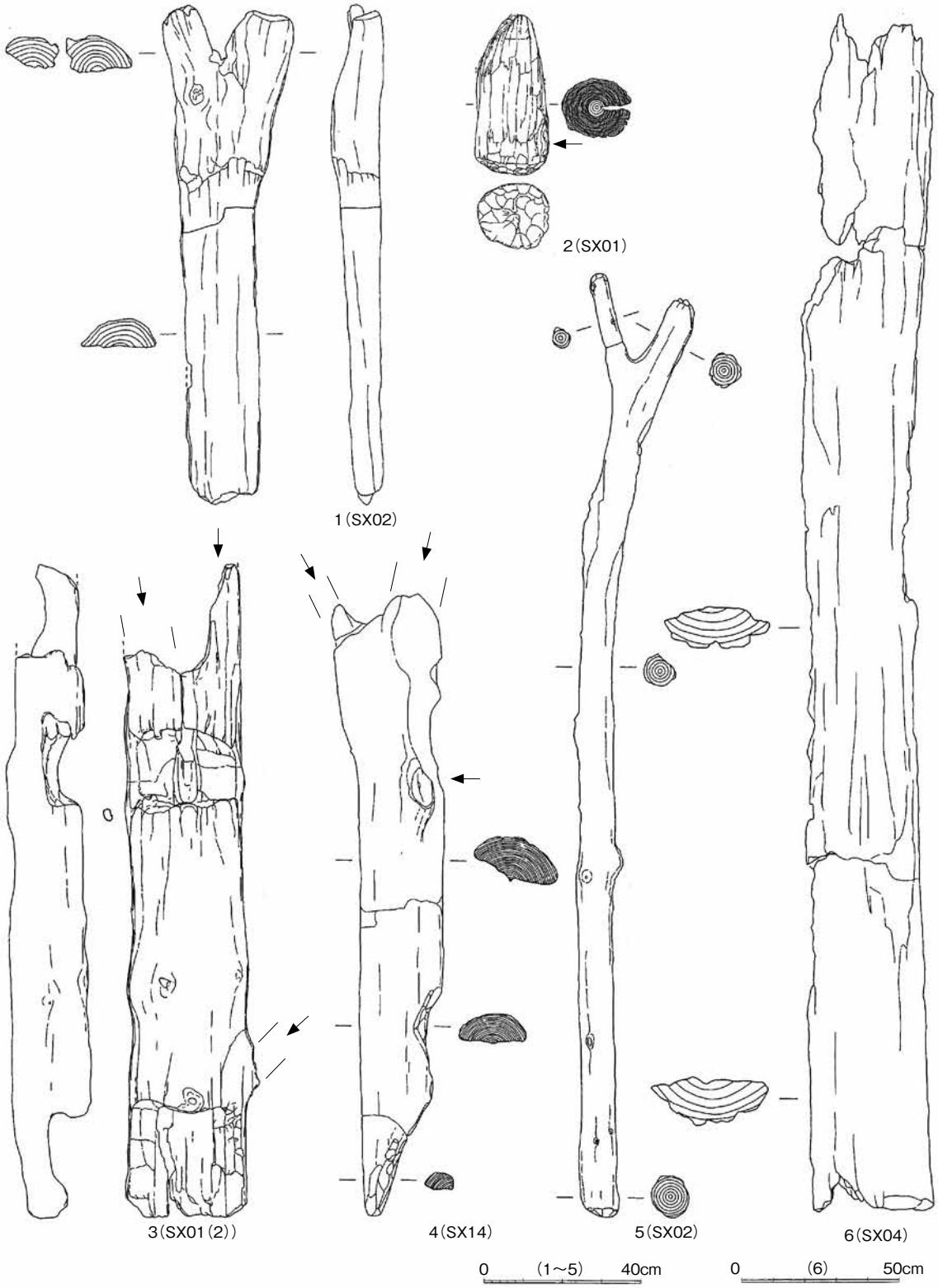
第13図　野地遺跡のクリ材（矢印は枝痕跡を指す）［新潟県教育委員会ほか2009・2013に加筆］

柱材・木柱・水場材・丸木材・半割材・分割材の合計50点のクリ材について観察を行った。このうち、枝痕跡を確認できたものは木柱１点（報告No. ８）・水場材７点（報告No.31・42・46・47・48・51・278）・丸木材３点（報告No.84・84・89）の合計11点である。第15図はその代表的なものである。１は長さ1.24mのＹ字材で、幹最上端が利用されている。２は幅17.8cmの木柱で、下端に枝痕跡１か所を確認できる。３は２か所に欠き込みが施された長さ1.66mの丸木材である。下部に枝痕跡が１か所あるほか、上端は枝がＹ字状に分岐することが分かり、幹最上端を有する枝上材と考えられる。４は長さ1.57mの分割材である。上部に枝痕跡が１か所認められるほか、上端は３と同様に枝が分岐しており、幹最上端を持つ枝上材と考えられる。５は長さ2.41m・幅9.5cmの丸木材である。形状は上部に向かって緩やかに曲がり、上端はＹ字状に枝が分岐する。Ｙ字部の図左側の枝は右側の枝より細いことから、子枝と判断できる。また、下部にも５か所の枝や節の痕跡を確認できる。このように細く緩やかに曲がる形状と多数の子枝が生える特徴は現生クリの枝と共通することから（写真図版２－３参照）、本資料は枝材と考えられる。６は長さ3.79m・幅37.8cmで、本遺跡で最も長い分割材である。幹は通直で、枝痕跡は確認できない。

１・２・４のＹ字材・枝上材はいずれも幹最上端より上の枝が除去された幹材であり、５のような枝材もあることから、幹最上端を境として幹材と枝材を分けた利用があったものと考えられる。縄文時代のクリ材の利用方法を知る上で注目される資料群である。



第14図　桜町遺跡遺構平面図［小矢部市教育委員会2004・2005］

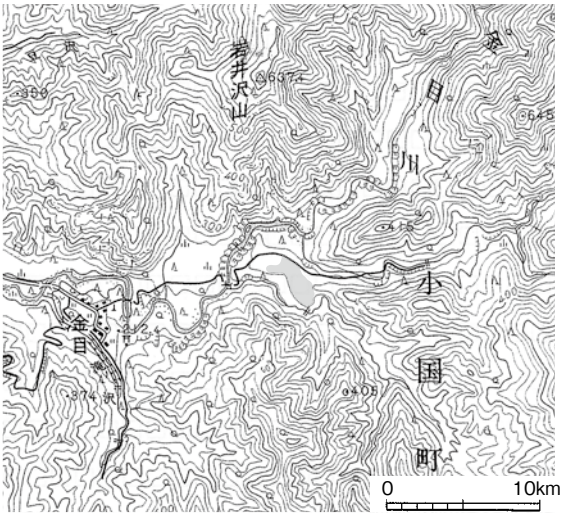


第15図　桜町遺跡のクリ材（矢印は枝痕跡を指す）［小矢部市教育委員会2007aから作成］

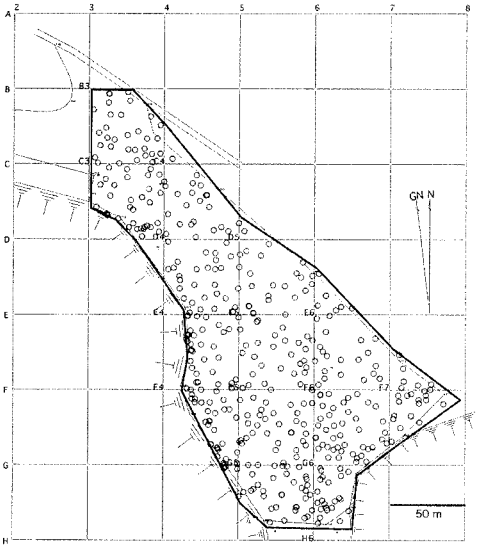
3　現生クリ林の測量調査結果

（1）山形県小国町金目「まみの平自然観光栗園」

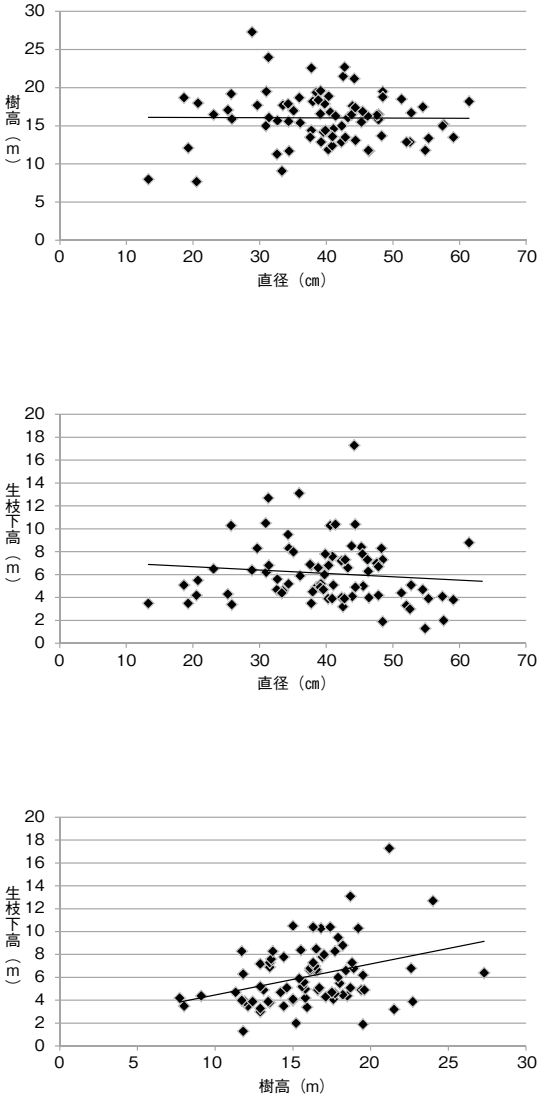
「まみの平自然観光栗園」（以下、金目クリ園と呼ぶ）は山形県西置賜郡小国町金目に位置し、金目川左岸の標高 260m の台地上に立地する（第 16 図）。約 4 ha に約 600 本が生育するクリ純林である（第 17 図）。木村勝彦らによる毎木・年輪年代学的調査［木村・沼田・根本 2009］によると、立木密度は 142 本 /ha で、比較的密度が低い。年輪数は 40 ～ 50 年程度のものが多く、平均年輪幅は 4.0㎜である。年代決定された個体は、いずれも 1950 年代に定着していることが明らかにされている。この時期には入植者による炭焼きが行われていることから［門口 2011］、短期間の伐採によって一斉萌芽した可能性が指摘されている。現在は施肥・農薬散布・枝打ちなどは行われておらず、下草刈りの軽度な管理である。いずれの個体も通直の幹を有している（写真図版 2 － 1・2 参照）。縄文時代に利用されたと想定される通直のクリを検討するのに適した調査地である。



第16図　金目クリ園の位置
（国土地理院　平成15年発行「手ノ子」1:50,000原図）

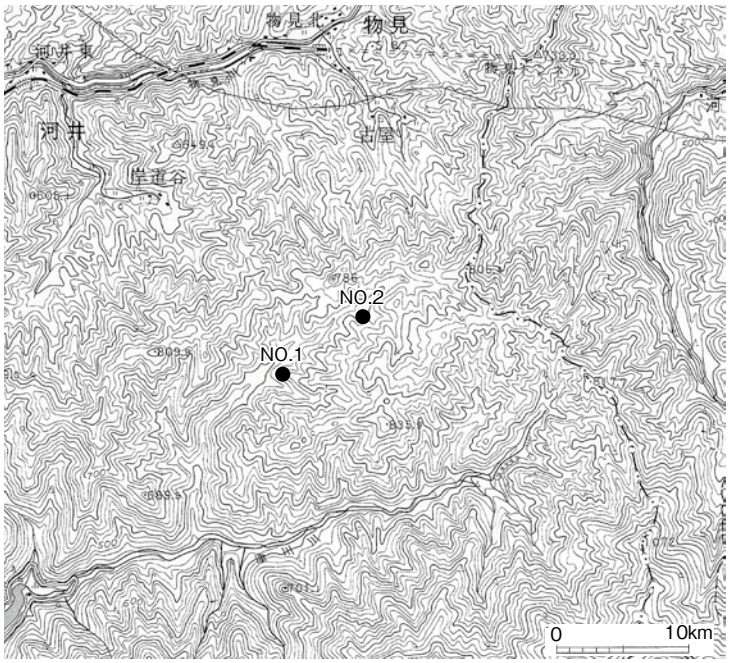


第17図　金目クリ園のクリ成木位置

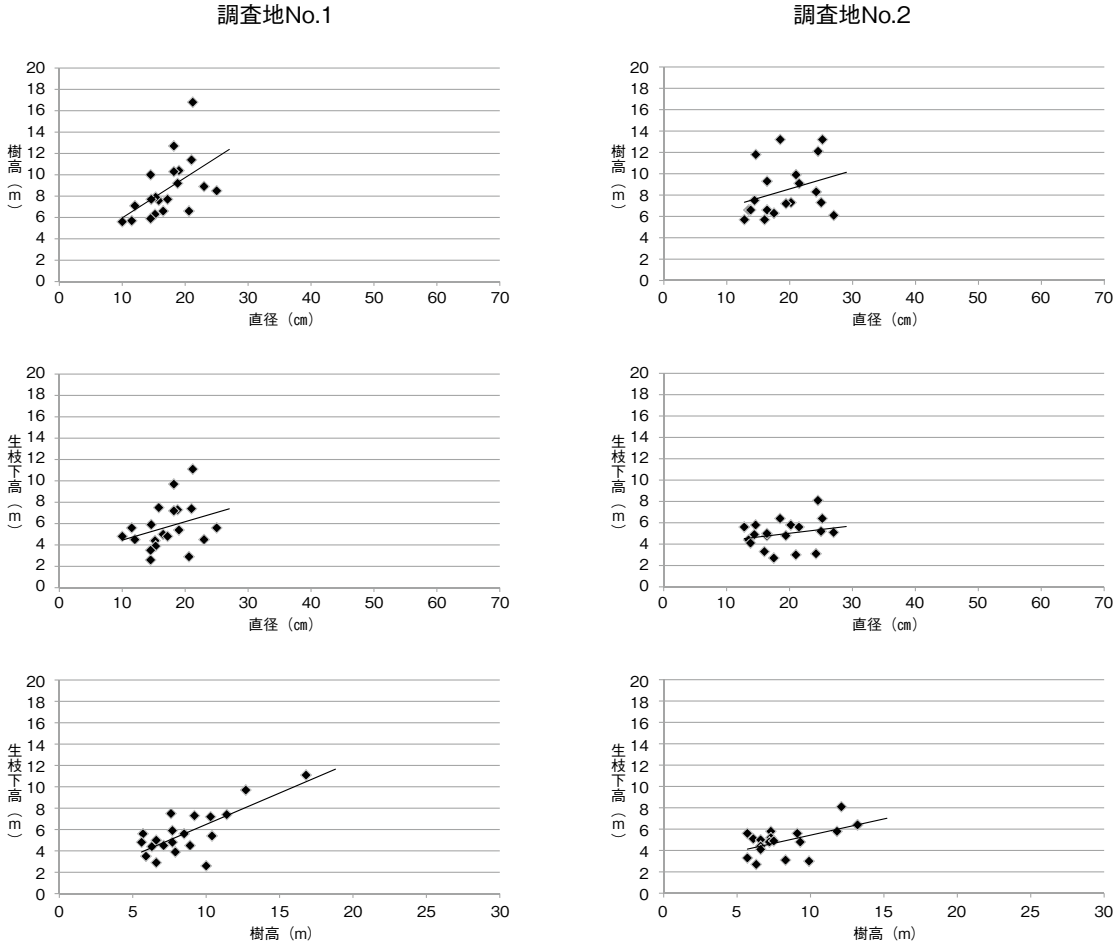


第18図　金目クリ園における樹高･直径･生枝下高の関係

2011 年 11 月に、78 個体について樹高･生枝下高の測量調査を行った。胸高直径については、2009 年の測量データ［木村・沼田・根本 2009］を用いる。調査の結果、胸高直径は 13 ～ 61㎝、樹高は 7.7 ～ 27.3 m、生枝下高は 1.7 ～ 17.3 mである。平均値は直径 39.9cm、樹高 16.0 m、生枝下高 6.2 mである。樹高は概ね 20 m以内に収まり、直径が増しても横ばいとなる。一方、生枝下高は 3.5 ～ 11 mの範囲に集中し、樹高に比例するものの、直径 40cm 以上の個体は生枝下高が低くなる傾向が認められる（第 18 図）。



第19図　下津川クリ林の位置
（国土地理院　平成20年発行「智頭」1:50,000原図）



第20図　下津川クリ林における樹高･直径･生枝下高の関係（左列No.1、右列No.2）

（２）岡山県津山市加茂町下津川クリ人工林

津山市下津川クリ人工林（以下、下津川クリ林と呼ぶ）は岡山県津山市加茂町下津川に位置し、津川川の支流左岸に面する標高 610 ～ 650 mの山地の斜面に立地する（第 19 図）。1988 年に全植栽された樹齢が分かるクリ純林である。下草刈りはほとんど行われておらず、施肥・間伐・枝打ちも行われていない。木材として出荷することが目的であるため、果実の収穫は行われていない。調査地は No. １・２の２か所である（写真図版２－４・5）。西山嘉寛による毎木調査［西山 2011］によると、No. 1 は標高 610 ～ 630 mの 20 度の北斜面にあり、3.46ha の範囲にクリが立木密度 716 本 /ha で生育する。No. ２は標高 630 ～ 650m の 25 度の西斜面にあり、1.54ha の範囲にクリが立木密度は 1.355 本 /ha で生育する。金目クリ園に比べ立木密度が高く、比較検討するのに適した調査地である。

調査は 2012 年９月に行った。調査時の樹齢は 24 年である。No. 1 では 20 個体を測量した。胸高直径は 10 ～ 25cm、樹高は 5.6 ～ 16.8m、生枝下高は 2.6 ～ 11.1m である。平均値は直径 17.1cm、樹高 8.6 m、生枝下高 5.6 mである。樹高は大半が 6 ～ 14 mに収まるものの、生枝下高は比較的高い 4 ～ 8 mに集中する（第 20 図）。

No. ２では 19 個体を測量した。胸高直径は 12.8 ～ 27㎝、樹高は 5.7 ～ 13.2 m、生枝下高は 2.7 ～ 8.1 m である。平均値は直径 19.0cm、樹高 8.4 m、生枝下高 4.9 mである。No. 1 に比べ立木密度は高いものの、直径が太く、生枝下高もやや低めである（第 20 図）。西斜面の No. ２は北斜面の No. 1 より光環境が良好であるものと推測され、このために直径が太くなった可能性が考えられる。

４　考察

（１）クリの樹冠と成育環境との関係

３遺跡のクリ材を観察した結果、幹材・幹最上端を持つ Y 字材・枝材が確認された。幹材はすべて通直であり、野地遺跡の丸太材のような枝下材もあれば、桜町遺跡例のような幹最上端を持つ枝上材もあることが分かった。そして、青田遺跡出土木柱の約４割に枝上材が用いられ、野地遺跡でも大型の木柱をはじめとする枝上材が認められたことから､木柱への枝上材の利用は一般的であったことが明らかになった。木柱の地上部は腐食して失われているものの、建物として成立するためには数mの長さがあったはずで、利用された枝上材はある程度の長さを持つ通直材であったと推測される。木柱に認められた枝痕跡は地下部に位置することから、木柱の底面が伐採位置であるならば幹の比較的低い位置に生枝があったことを示し、底面が幹を分断したものならば高い位置の幹を利用していたと解釈できる。いずれにせよ、通直で長い枝上材を持ったクリ、つまり樹冠が長いクリが多数存在したものと考えられる。

そこで、樹冠が長いクリの成育環境を金目クリ園と下津川クリ林の比較を通して検討する。下津川クリ林では金目クリ園に比べ平均樹高が低い割に平均生枝下高が高いことが分かる（第１表）。生枝下高は立木密度に相関するとされ［鈴木ほか 1990］、金目クリ園と下津川クリ林の測量結果も立木密度の差に起因する可能性がある。樹高から生枝下高を減ずると樹冠長が求められる（第３図）。各個体について樹冠長を求め、これを樹高で除して樹冠長率を算出した。その結果、平均値は金目クリ園が 60.2% と高率だが、下津川クリ林 No. 1 が 33.2%、同 No. ２が 38.7% と低率であった（第１表）。つまり、立木密度が高いと樹冠長率が低くなると言える。

こうした立木密度の差は平均年輪幅にも表れている。金目クリ園の年輪解析による平均年輪幅は 4.0mm であるが、下津川クリ林は No. 1 が 3.5mm 以下、No. ２が 3.9mm 以下であり、樹皮分を減ずるとさらに

第1表　金目クリ園･下津川クリ林の測量結果

	立木密度（本 /ha）	調査数	樹齢	平均直径（cm）	平均樹高（m）	平均生枝下高（m）	平均樹冠長率（%）	平均年輪幅(㎜)＊
金目クリ園	142	78	40 ～ 50	39.9	16.0	6.2	60.2	4.0
下津川クリ林 No.1	716	20	24	17.1	8.6	5.6	33.2	3.5 以下
下津川クリ林 No.2	1,355	19	24	19.0	8.4	4.9	38.7	3.9 以下

＊下津川クリ林は樹皮を含む半径を樹齢で除した値

低い値になる（第 1 表)。金目クリ園では、成長速度は各個体の局所立木密度が低いほど速くなることが明らかにされており［木村・沼田・根本 2009]、下津川クリ林の場合は立木密度が高いために平均年輪幅が低い値を示したと考えられる。なお、金目クリ園で直径 40cm 以上の太い個体に生枝下高が低くなる傾向が認められたことは（第 18 図)、同じクリ園の中でも局所立木密度が低いために成長が早く、樹冠長率が高い個体が含まれるためと推測される。

以上から、樹冠長率は平均年輪幅と相関し、平均年輪幅が大きいほど樹冠長率も大きくなると推定される。したがって、樹冠が長いクリは立木密度が低く、光環境の良好な成育環境で成立すると考えられる。

（2）縄文クリ林の成育環境

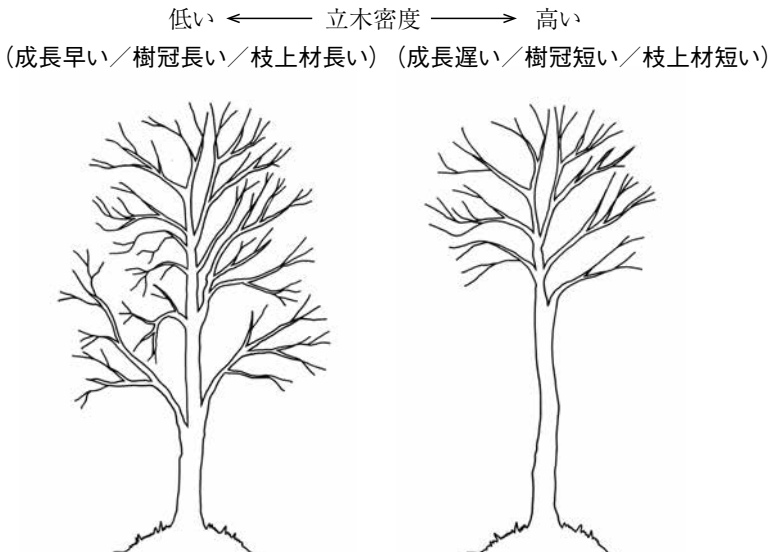
次に、青田遺跡の木柱からクリ林の成育環境を考えてみたい。主要 4 樹種の木柱の平均年輪幅はクリが 4.1mm と最も高く、次いでヤマグワ・コナラ節・クヌギ節の順に低くなる（第 2 表）［木村・益子 2009]。前述の検討結果から、樹冠長率もこの順に低くなると考えられる。樹冠長率が低いと必然的に枝上材は短くなり､その利用率は下がることが推測される。

第2表　青田遺跡の木柱の枝上材利用率と平均年輪幅

	点数	枝上材	利用率（%）	平均年輪幅（㎜）
クリ	153	59	38.6	4.01
ヤマグワ	42	15	35.7	3.21
コナラ節	80	22	27.5	1.34
クヌギ節	88	19	21.6	1.1

そこで、枝上材の利用率に着目すると、平均年輪幅と同様にクリ・ヤマグワ・コナラ節・クヌギ節の順に低くなることが分かった（第 2 表)。このことは、平均年輪幅と枝上材利用率との相関を示すとともに、立木密度と樹冠長率との相関をも裏付けるものである。すなわち、立木密度が低いほど成長は早く、樹冠は長くなり、枝上材も長くなる。一方、立木密度が高いほど成長は遅く、樹冠は短くなり、枝上材も短くなる。(第 21 図)。

以上から、青田遺跡のクリ林は、立木密度が低い環境下で、樹冠長率が高く、枝上材が長いクリが生育していたと推定される。この結果は、青田クリ林の立木密度が金目クリ園と同程度の 150 本 /ha との推定［木村・



第21図　立木密度と樹冠長率との関係

沼田・根本 2009］と調和的である。樹冠長率が高いクリは、枝が多く、果実収量を確保できることにもつながる。青田遺跡では推定出土個体数 36,165 個の堅果類果皮のうち、クリ 76.6％、クルミ 12.5％、トチノキ 10.9％であり、クリ果実が多量に利用されていた。また、野地遺跡や桜町遺跡でもクリ果皮が多数出土している［吉川 2007・2009］。

３遺跡のクリ材と現生クリ林の調査から見た縄文時代のクリ林は、立木密度が適度に低い環境下で成長早く、通直で樹冠が長い幹を持ち、果実収量も一定程度確保できるバランスを保った個体が生育していたと考えられる。そして、こうしたクリが多数生育することによって伐採と収穫の相反する行為を両立することにつながったものと推定される。

おわりに

遺跡出土クリ材の考古学的観察と現生クリ林の植物学的分析とを合わせて縄文クリ林の成育環境を検討した。その結果、クリ材には枝上材が多く用いられていることが明らかになり、枝上材の利用率は平均年輪幅・立木密度・樹冠長率と相関があるものと考えられた。今後、こうした視点で遺跡出土クリ材を観察することによって、縄文クリ林の成育環境がさらに明らかになることが期待される。その上で、縄文クリ林の人為的な栽培・管理について検討していきたい。

なお、本研究は JSPS 科研費 18320130、21320151 の助成を含むものである。

謝　辞

本稿作成にあたり、市島徳昭氏から金目クリ園の測量調査を御快諾いただきました。また、西山嘉寛氏、相原誠氏から下津川クリ林に案内いただくとともに、測量調査への御協力をいただきました。そして、大野淳也氏、木村勝彦氏、坂上有紀氏、鈴木三男氏、山田昌久氏、渡邊裕之氏から多くの御教示をいただきました。末筆ながら記してお礼申し上げます。

註

１）縄文時代後・晩期～弥生時代前期を含む。
２）鈴木・小川・能城［2004］を基とし、一部修正した。
３）本稿における木柱の直径とは、年輪計測によって算出したものを示し、樹皮の厚さを含まない。幅とは、木柱の外形を計測した数値で、樹皮の厚さを含む。

引用・参考文献

荒川隆史　2004「青田遺跡の集落と生業」『青田遺跡　本文・観察表編』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集、301 － 311 頁、新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。
荒川隆史　2009「掘立柱建物と建材」『縄文時代の考古学』8、74 － 84 頁、雄山閣。
伊東隆夫・山田昌久　2012『木の考古学』海青社。
小矢部市教育委員会　2004『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文遺構編Ⅰ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅱ』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 53 冊。
小矢部市教育委員会　2005『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文遺構編Ⅱ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅲ』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 55 冊。
小矢部市教育委員会　2007a『桜町遺跡発掘調査報告書　木製品・繊維製品・植物編』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 60 冊。
小矢部市教育委員会　2007b『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 61 冊。
金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会・金沢市新保本町第 1 土地区画整理組合　1983『金沢市新保本町チカモリ遺跡―遺構編―』金沢市文化財紀要 34。

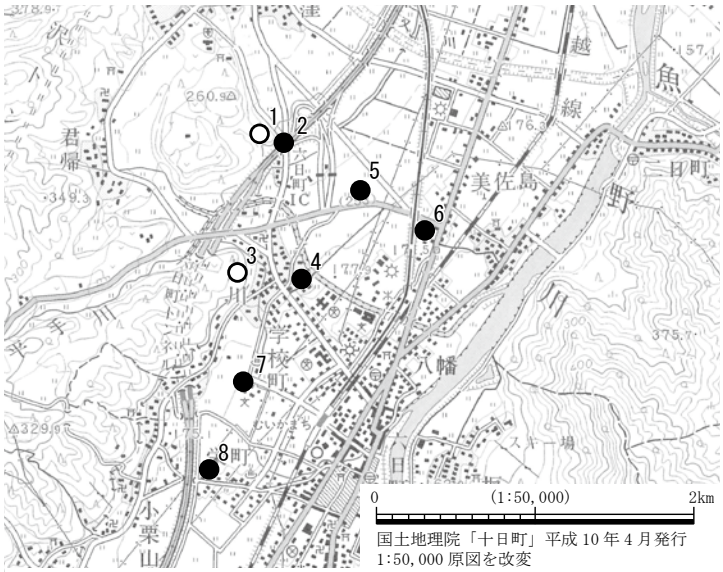
門口実代　2011「山形県小国町における昭和 20 年代のクリ林利用の実態」『植生史研究』第 18 巻第 2 号、45 － 56 頁、日本植生史学会。
木村勝彦・斎藤智治・中村俊夫　2004「青田遺跡における木柱の年輪年代学的解析による建物群の年代関係の検討」『青田遺跡　関連諸科学・写真図版編』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集、165 － 176 頁、新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。
木村勝彦・益子貴義　2009「縄文時代晩期の遺跡出土木柱の年輪年代学的解析」科学研究費補助金研究成果報告書『縄文時代のクリ利用に関する考古学･民俗学･年輪年代学的研究』（代表:荒川隆史、課題番号:18320130)、65 － 74 頁。
木村勝彦・沼田沙織・根本麻衣　2009 「遺跡出土木柱と現生クリ林の成長比較による縄文時代のクリの生育環境・管理の推定」科学研究費補助金研究成果報告書『縄文時代のクリ利用に関する考古学･民俗学･年輪年代学的研究』（代表：荒川隆史、課題番号：18320130)、95 － 103 頁。
小林和貴・能城修一・佐々木由香・鈴木三男　2013「野地遺跡出土編組成品の素材植物と木製品の樹種」『野地遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 245 集、30 － 33 頁、新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。
鈴木誠・丹下健・鈴木保・鈴木貞夫　1990「東京大学千葉演習林におけるケヤキ人工林の生長と現存量」『東大農学部演習林報告』82、113 － 129 頁。
鈴木三男　2009「出土木製品及び自然木の樹種」『野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集、163 － 168 頁、新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。
鈴木三男・能城修一　1997「縄文時代の森林植生の復元と木材資料の利用」『第四紀研究』36、329 － 342 頁。
鈴木三男・小川とみ・能城修一　2004「青田遺跡出土木材の樹種」『青田遺跡　関連諸科学・写真図版編」新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集、53―70 頁、新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。
鈴木三男・能城修一・菅野宗武　2007「桜町遺跡出土の縄文時代の木材の樹種とその利用」『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 61 冊、35 － 85 頁、小矢部市教育委員会。
為国末幸　1969『クリの栽培と経営』誠文堂新光社。
千野裕道　1983「縄文時代のクリと集落周辺植生―南関東地方を中心に―」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』Ⅱ　25 － 42 頁・図版 1 － 4。
千野裕道　1991「縄文時代に二次林はあったか―遺跡出土の植物性遺物からの検討―」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』Ⅹ　215 － 249 頁。
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2004『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集。
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2009『野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集。
新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2013『野地遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 245 集。
西山嘉寛　2011「広葉樹林管理技術に関する研究―伐採地に植栽された広葉樹の成長―」『岡山県農林水産総合センター森林研究所研究報告』27、83 － 90 頁。
前山精明　1996「縄文時代晩期後葉の経済基盤―新潟県御井戸遺跡出土植物性食料残渣の計量分析から―」『考古学と遺跡の保護』 83 － 99 頁、甘粕健先生退官記念論集刊行会。
宮本長二郎　2002「青田遺跡の住居と集落」『川辺の縄文集落』32 － 39 頁、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会。
山田昌久　1993「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成―用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別第 1 号、1 － 242 頁、日本植生史学会。
吉川純子　2007「桜町遺跡より出土した大型植物化石からみた植物利用」『桜町遺跡発掘調査報告書　縄文時代総括編』小矢部市埋蔵文化財調査報告書第 61 冊、22 － 34 頁、小矢部市教育委員会。
吉川純子　2009「出土種実による植物利用解析」『野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集、136 － 152 頁、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会。
吉川昌伸・荒川隆史　2011「沖積低地にある新潟県青田遺跡の縄文時代晩期のクリ林」『日本植生史学会第 26 回大会講演要旨集』 34 － 35 頁。

南魚沼市蟻子山 32 号墳について

小　野　本　敦・工　藤　祐　大

はじめに

蟻子山古墳群は、魚沼丘陵東麓の独立丘に営まれた、古墳時代中・後期を中心とする群集墳である（第１図）。新潟県中・下越地方では、古墳時代中期に古墳の分布の中心が新潟平野から山間部の魚野川流域へ移行することが知られるが［甘粕 1986、坂井 1995］、蟻子山古墳群は近接する飯綱山古墳群とともにこうした時代の転換点を象徴的に示す古墳群であり、1972（昭和 47）年に新潟県の史跡に指定されている。しかし、蟻子山古墳群に関する研究は、近年の発掘調査によって様相が明らかになってきている飯綱山古墳群とは対照的に、ほとんど進んでいない。



1　蟻子山古墳群　2　金屋遺跡　3　飯綱山古墳群　4　余川中道遺跡
5　坂之上遺跡　6　大清水遺跡　7　北沖東遺跡　8　長表東遺跡

第１図　蟻子山古墳群と周辺の古墳時代遺跡

本稿では、かつて新潟県教育委員会（以下、県教委）が調査し、当事業団が保管している蟻子山 32 号墳の調査記録と出土遺物を紹介し、蟻子山古墳群および魚沼地域の古墳時代社会を考える一助としたい。なお本稿の執筆は、３（２）を工藤が、それ以外を小野本が担当した。遺物の実測・写真撮影はそれぞれの文責者が行った。

１ 調査の経緯

（１）既往の調査歴

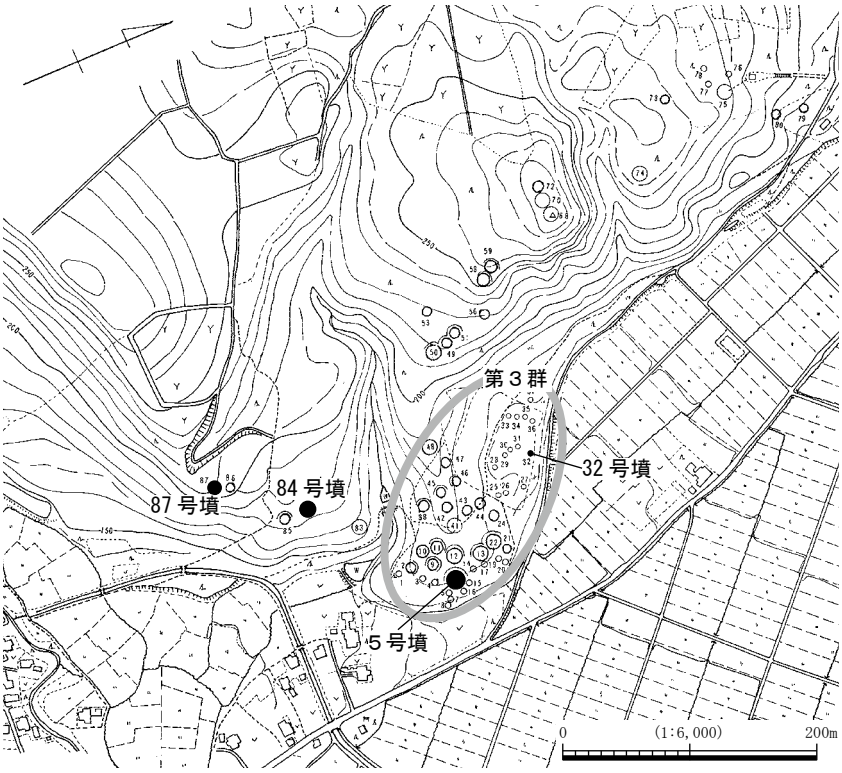
蟻子山古墳群に関する最初の学術的報告は斉藤秀平によるもので、松谷時太郎による古墳の分布図等が掲載されている［斉藤 1932］。1960 年代の立教大学による測量調査では、91 基が確認された［中川ほか 1963］。以後、古墳名は立教大学の命名を踏襲している。

地元住民による発掘は明治年間に盛んであったようで、多くの古墳に既掘坑が確認でき、古墳群出土とされる遺物が地元で保管されている。一部は中川ほか前掲書や新潟県による調査［金子ほか 1977］で図化され、蟻子山古墳群出土遺物の様相を窺い得る貴重な資料となっている。

1960 年代から 70 年代にかけては、開発により古墳の破壊が進んだ。その中で 87 号墳の発掘調査が行われている［池田 1973］。また、32 号墳やその周辺の小円墳はテニスコート造成に伴う盛土によって埋没した。

1999 年から 2003 年にかけて新潟大学による測量調査が行われ、64 基の古墳の現存が確認されている

［新潟大学考古学研究室蟻子山古墳群測量調査団 2004］。また、70・72号墳が併せて前方後円墳の可能性があること、68号墳が帆立貝式古墳の可能性があること、それまで古墳群中で最大規模（29.5 m）と考えられていた５号墳の墳丘長が20ないし25 m程度であることなどが指摘された。



第２図　蟻子山古墳群

（２）32 号墳の緊急調査

本稿で俎上に載せる蟻子山32号墳は、丘陵の東裾に立地する。『新潟県史』［新潟県 1983］によるグルーピングでは、５号墳を含む「第３群」に属する（第２図）[1)]。

1982年、上述のテニスコート脇を通過する県道の拡幅工事について県の担当課から県教委に対し照会があった。県教委は盛土の開削によって古墳が破壊される恐れがある旨を伝え、県教委が確認調査を行うことで合意した。

調査は同年10月14日から27日にかけて行われた。盛土の法面を徐々に撤去していったところ、古墳に伴うと考えられる「石組み」が検出された。位置的に32号墳と推定されたため、協議の結果、工法を変更して法面を擁護壁で維持することとした。これにより古墳は現状保存され、確認調査の後は再び盛土下に眠ることとなった。

２　調査資料について

調査時に撮影された写真類（写真図版３）について、調査担当者からの聞き取りをもとに解説する。

１・２は「石組み」の検出状況である。「石組み」より上層の土はテニスコート造成時に大きく攪乱され、墳丘盛土はほとんど旧状をとどめていないと判断した。なお、土師器類は「石組み」よりやや上位から、刀子は「石組み」の間から出土した（３～５）。管玉の出土地点は不明である。

次に攪乱が及んでいると思われる部分の石を除去し、断ち割りを行った（６）。その結果、「石組み」は黒色土中に構築されたことが判明し、それより下位の層からはピットが検出された。黒色土層からは縄文土器が出土しており縄文時代の包含層と考えられることから、ピットは縄文時代の所産と考えられる。

以上の状況から、調査時の所見では、「石組み」は地山である縄文時代の包含層上に整地や盛土をほとんど行わずに直接構築されたものと判断した。また、原位置を保つ「石組み」は拳大から人頭大の川原石を主体としてほぼ水平に構築される一方、原位置を動いたものの中にはより大ぶりなものが認められるこ

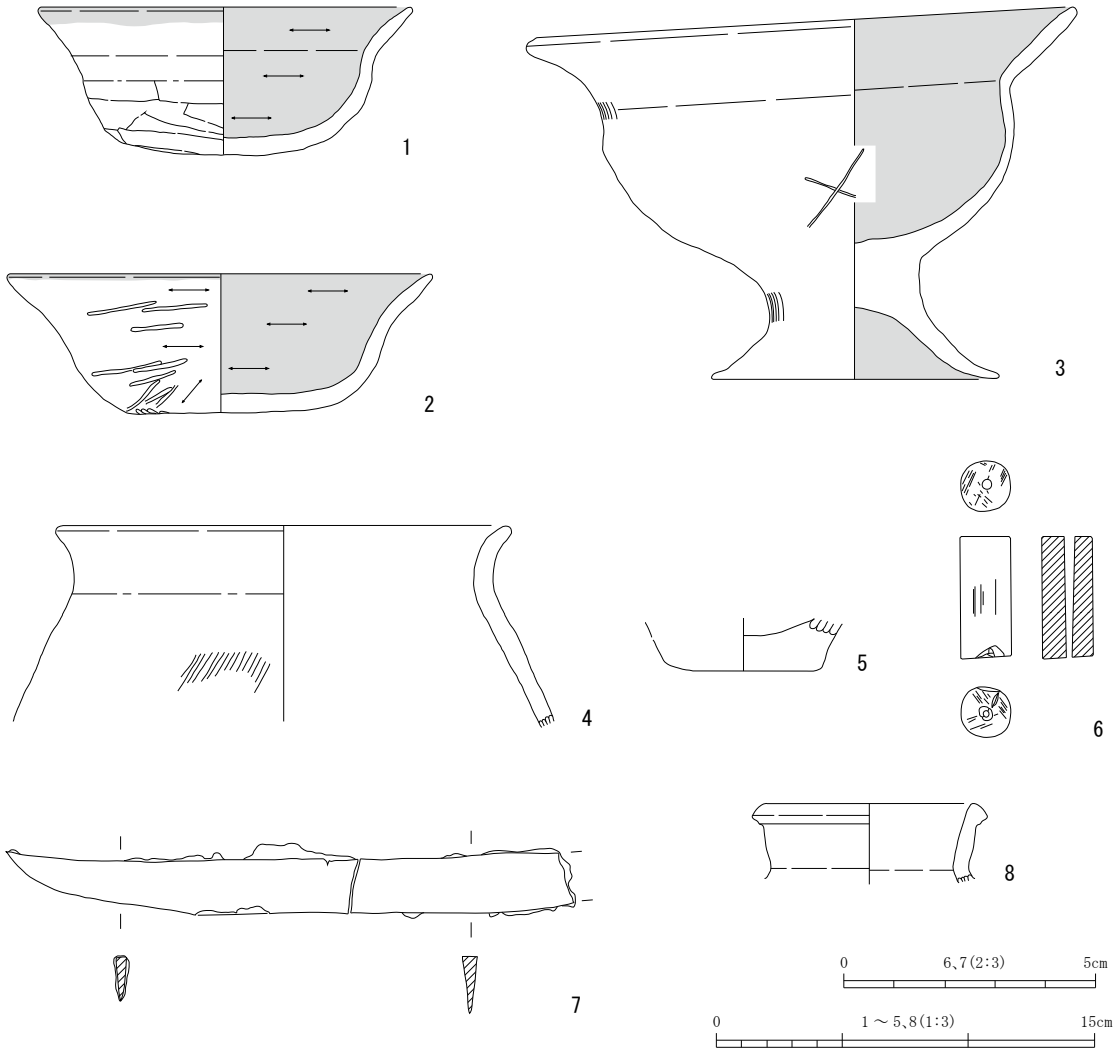
とから、前者は埋葬施設の床面に相当し、後者は側壁に用いられたものと推定した。

３　出土遺物（写真図版４参照）

（１）古墳時代以降の遺物

第３図１は土師器の杯である。体部は底面がやや扁平な半球形で、口縁部が緩やかに外反する。調整は底面に一方向のミガキ、体部下半に右上がりの斜め方向のミガキ、体部上半から口縁部及び内面に横方向のミガキが施される。内面は黒色処理がなされている。外面の色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土には石英、長石、赤色粒を含み焼成は普通である。

第３図２は土師器の杯である。体部は半球形で、口縁部が緩やかに外反する。調整は外面にケズリ、内面に横方向のミガキが施される。外面調整のケズリは１にみられるミガキが省略されたために現れたもので、１の外面調整もケズリ→ミガキの順に行われたと思われる。内面は黒色処理がなされている。色調・焼成・胎土は１と類似する。これらのほかに、杯と思われる土師器片は３点存在する。いずれも内面は黒色処理がなされている。



第３図　古墳時代以降の遺物

第３図３は土師器の高杯である。体部は半球形で、口縁部は大きく外反する。全体のプロポーションが不均衡で、稚拙な作りである。体部下半に×状の線刻が施される。脚部は短くハの字状に開く。器面のひび割れが著しく調整痕は不明瞭であるが、体部から口縁部にかけての屈曲部及び体部と脚部の接合箇所に粗いハケメが認められる。内面はミガキが施される。体部および脚部の内面は黒色処理がなされている。外面の色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土には石英、長石、雲母、小石を多く含み焼成は普通である。

第３図４は土師器の甕である。このほかに甕と思われる土師器片は 42 点あり、このうち底部の形状が把握できる１点を図化した（第３図５）。口縁部は短く外反し、先端は丸みを帯びる。外面調整は不明瞭ながら右上がりのハケメが確認できる。細片資料の中にはケズリと思われる調整痕が確認できるものもある。内面調整は不明であるが、やはり細片資料の中にケズリを行うものがある。また、内面にはわずかにコゲが付着している。外面の色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土には石英、長石、小石を多く含み焼成は普通である。

第３図６は緑色凝灰岩の管玉である。図の上方から下方に向けて穿孔され、下方の穴の周囲にはその際の剥離痕が認められる。

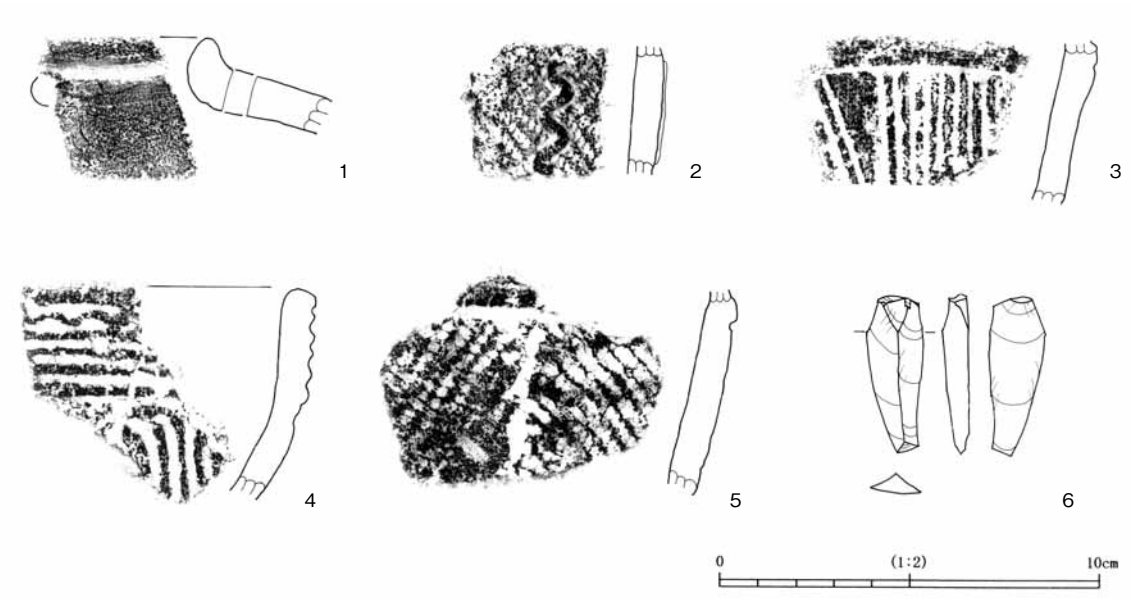
第３図７は刀子である。茎を欠損し、関の形態は不明である。刀身の長さに比して身幅が狭く細長い形状である。

第３図８は珠洲焼の壺Ｒ種である［吉岡 1994］。胎土に海綿骨針を含む。

（２）縄文時代以前の遺物

第４図１は有孔浅鉢の口縁部破片である。器形は口縁端部で短く外折するもので、口縁の屈折部付近には孔が確認できる。胎土は緻密で角閃石や石英を含み、色調は明赤褐色を呈する。諸磯ｂ中段階以降の浅鉢に比定できる。

第４図２は深鉢の胴部破片である。地文には横羽状縄文が施され、粘土紐が縦位で鋸歯状に貼り付けられている。色調はにぶい黄橙色で、胎土には石英や長石が含まれる。縄文時代前期と考えられる。



第４図　縄文時代以前の遺物

第４図３は深鉢の口縁部破片である。半截竹管による縦位の平行沈線と、上部には横位の沈線が確認できる。胎土には石英や長石が含まれ大きめの白い礫が目立つ。外面の色調は橙色である。縄文時代中期初頭と考えられる。

第４図４は深鉢の口縁部破片である。口縁上半には半截竹管による横平行沈文と、交互刺突による鋸歯文が認められる。下部は縦位の平行沈文が施文されている。全体の色調は明黄褐色で、胎土には石英や長石が含まれる。

第４図５は深鉢の胴部破片ある。土器片上部には半截竹管状の工具による横沈線が走る。下部には縦位の羽状縄文が施文されている。色調は浅黄橙色で、胎土には石英や長石に加え５mm 程度の角礫を多く含む。縄文時代中期前葉と考えられる。

第４図６は縦長の剥片である。打面調整がされている。鉄石英製で末端が欠損している。

４　まとめ

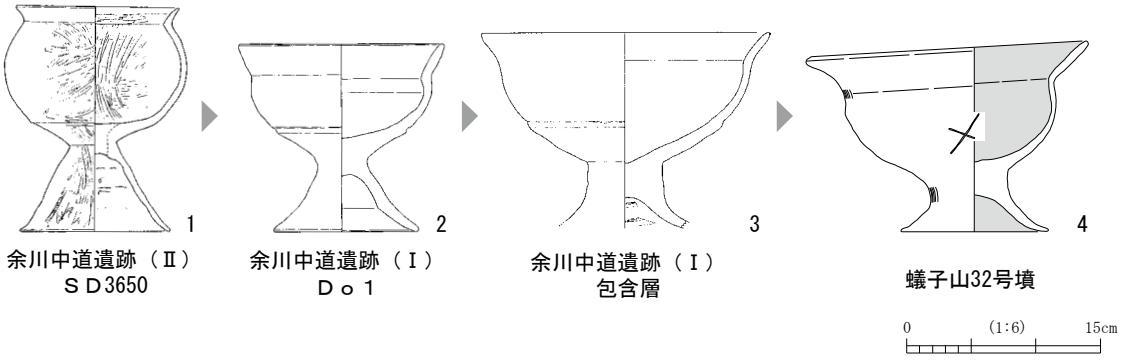
（１）土器からみた 32 号墳の築造年代[2)]

上述のように遺物の出土状況は必ずしも明確でないものの、以下では第３図１～７を蟻子山 32 号墳に伴う遺物と捉えて議論を進める。

魚沼地域における古墳時代の資料は豊富とは言えず、一遺跡内で土器の変遷が追える遺跡は十日町市馬場上遺跡［新潟県十日町市教育委員会 2003］が挙げられる程度である。馬場上遺跡においては、ＴＫ 47 型式の須恵器を伴う段階から内面黒色処理技法が認められ始める。蟻子山 32 号墳出土の供膳具は図示できなかった細片も含め、すべてに内面黒色処理が施されている点から、ＴＫ 47 型式期より新しいと考えられる。

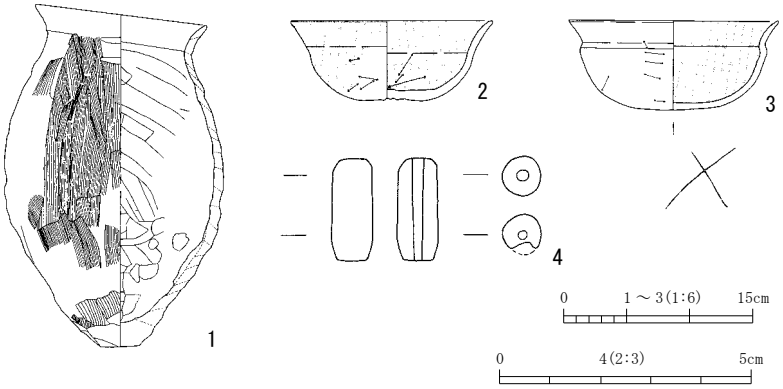
杯の形態の変化に関しては、南魚沼市来清西遺跡の検討によって、身の深いものから身が浅く口縁部と体部の間の稜線がはっきりしないものへと変化することが指摘されている［安達 2002］。蟻子山 32 号墳の杯２点の法量やプロポーションは安達分類のＢ１類に相当する。ただし第３図２は口縁部と体部の境がやや不明瞭であることからＢ２類への過渡的な様相ともとれる。Ｂ１類・Ｂ２類ともＭＴ 15 ～ＴＫ 10 型式の須恵器との共伴事例がある。近隣での類例は、南魚沼市余川中道遺跡Ｄｏ 296 や同大久保遺跡出土例（第６図２）が挙げられる。

高杯は、近隣で類例を求めるとすれば滝沢分類のＦ類［滝沢 2014］からの系譜が追える資料と思われ



第５図　高杯変遷案

る。この想定が正しければ、高杯Ｆ類は、時期が降るにつれて体部下半の稜線が簡略化してついには消失するとともに、口縁は開き、脚部は短くなるという方向で形態変化が進むと考えられる（第５図）。年代決定の根拠とはならないが、本例は高杯Ｆ類の最も後出的な様相とみることができ、杯の年代観と矛盾はしないであろう。なお、上半を欠損するが蟻子山古墳群出土遺物中には本例と類似した脚部が知られており（『新潟県史』資料編１の図版 566 － ２）、32 号墳から採取されたか、同時期の古墳が他にも存在する可能性が指摘できる。



第６図　大久保古墳群出土遺物

以上のように、須恵器が共伴しないことや杯２点の形状が微妙に異なることから年代を確言することは躊躇されるが、土器からみた蟻子山 32 号墳の築造年代はＴＫ 47 型式期よりは新しく、ＴＫ 10 型式期を大きく降らないものとみて、古墳時代後期前半、実年代では６世紀前半代と考えておきたい。なお、蟻子山古墳群に隣接する集落である金屋遺跡では、当該期の生活痕跡は希薄であるものの、坂之上遺跡では古墳時代後期の土器や祭祀遺構が検出されており、注目される［安達 2014］。蟻子山古墳群造営集団の居住地に関しては、やや視野を広げて検討する必要があろう。

（２）蟻子山古墳群の構成と被葬者の位相

蟻子山 32 号墳が位置する「第３群」は、最大規模の５号墳を含む古墳群中で最大の支群である。微視的にはやや標高の高い場所に５号墳をはじめとする大規模墳が立地し、その周囲の丘陵裾を 32 号墳などの小円墳が取り巻いており、被葬者間の階層差を想定できる。32 号墳出土遺物は、蟻子山古墳群における下位の階層の供献品の構成を示すものと言える。

32 号墳出土遺物の組成は、杯の形態からほぼ同時期と考えられる魚野川右岸の大久保古墳群と類似する（第６図）。ともに土師器に×状の線刻を施すものがある点も注目できる。大久保古墳群で検出された円墳は、いずれも墳丘径 10 m未満と小規模である点からも蟻子山 32 号墳に近いランクの被葬者が想定できる。同時期・同地域の小円墳の出土品の組成に共通性がある点は興味深く、古墳祭祀や副葬品に関して何らかの約束事が存在した可能性も一考に値しよう。

（３）「石組み」をめぐって

発掘調査で検出された「石組み」が調査時の所見のとおり埋葬施設に伴うものであるとしても、大きく攪乱されている点や図面類が残されていない点から詳細な構造について議論することは難しい。写真だけから判断すれば横穴式石室の床面のようにも見えるが、現状での魚野川流域における横穴式石室の受容はＴＫ 43 型式期と考えられる点からすれば［小黒 1999］、上述した出土土器の年代観により、「石組み」を横穴式石室とは断定できない。

蟻子山古墳群で確認されている石材を用いた竪穴系の埋葬施設としては、明治期に発掘された推定 84 号墳の「扁平石で二重に構築した竪穴式石室」があるものの、川原石を用いた確実な事例はこれまで知ら

れていない。ただし、金子らや新潟大学の踏査で「墳丘内に石あり」「既発掘坑内部に石材あり」とされたものが「第３群」に多く存在する点は注目でき、32 号墳に類似した埋葬施設が存在する可能性もある。今後、蟻子山古墳群の学術的な調査が実施される中で、「石組み」の再評価がなされることを期待したい。

おわりに

本稿では、未報告であった蟻子山 32 号墳の調査記録と出土遺物の資料化を試みたが、諸々の制約と筆者の力量不足により、遺構・遺物の解釈ともに不十分な点を残したことは否めない。とは言え、蟻子山古墳群出土遺物は、これまで確実に出土古墳が特定できるものが皆無であったことを思えば、今回これを図化して提示できたことを小さな成果としたい。

近年、飯綱山古墳群の膝元に位置する余川中道遺跡の発掘調査などによって、南魚沼地域の古墳時代の資料は充実しつつある。近い将来、地域編年の枠組みの中に 32 号墳の土器群を位置付けることを誓って、拙い報告を終えることとしたい。

本稿の執筆に際し、中島栄一氏、山本肇氏、新潟県教育庁文化行政課より当時の状況についてご教示を得た。また、安達聡氏からは文献の手配などでご高配を賜った。末尾ながら記して感謝申し上げる。

註

１）『新潟県史』の編纂時点ではすでに 32 号墳は埋め立てられていたため直接の記載はないものの、立地的に第３群に含まれるとみてよかろう。

２）本来であれば、当地域の出土土器による編年を構築すべきであるが、その準備は整っていない。そこで、年代の尺度としては須恵器編年を用いる。須恵器の型式名は田辺昭三（1981）に従い、実年代との対比は大阪府立近つ飛鳥博物館（2006）に依拠した。

引用・参考文献

安達　聡　2002「第５章　まとめと今後の課題　第３節　土師器について」『来清西遺跡』塩沢町教育委員会
安達　聡　2014「南魚沼市内の弥生～古墳時代遺跡」『平成 25 年度越後国域確定 1300 年記念事業　記録集』新潟県教育委員会
甘粕　健　1986「大和政権の越佐進出ルート」『新潟県史』通史編１
池田　亨　1973『六日町の文化財』
大阪府立近つ飛鳥博物館　2006『年代のものさし　陶邑の須恵器』
小黒智久　1999「横穴式石室」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
金子拓男ほか　1977「伊乎乃郡の古墳」『南魚沼』新潟県文化財調査年報第 15　新潟県教育委員会
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2012「蟻子山古墳群」『埋文にいがた』No.80
斉藤秀平　1932「南魚沼郡余川群集墳」『新潟県史蹟名勝天然紀念物調査報告』３　新潟県
坂井秀弥　1995「古代越後平野の環境・交通・官衙」『木簡研究』17　木簡学会
滝沢規朗　2014「新潟県における古墳時代中期の土器について（上）―器種分類と基準資料の提示―」『三面川流域の考古学』第 13 号　奥三面を考える会
田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店
中川成夫ほか　1963「新潟県魚野川流域古墳群の調査」『史苑』24―１　立教大学史学会
新潟県　1983『新潟県史』資料編１　原始・古代一　考古編
新潟県教育委員会　1985『金屋遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 37 集
新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2015（刊行予定）『余川中道Ⅱ　金屋遺跡Ⅲ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 253 集
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2001『大久保遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 101 集
新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　2004『余川中道遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 139 集
新潟県十日町市教育委員会　2003『馬場上遺跡発掘調査報告書』

新潟大学考古学研究室蟻子山古墳群測量調査団　2004「蟻子山古墳群測量調査報告」『新潟大学考古学研究室調査研究報告』６
橋本博文ほか　2001「飯綱山 27・65 号墳の調査」『新潟大学考古学研究室調査研究報告』３
余川誌編集委員会　1990『余川誌』
吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

図出典

第２図：［金子ほか 1977］を改変
第５図１：［県教委ほか 2015］図版 113 の 248
第５図２：［県教委ほか 2004］図版 23 の 14
第５図３：同図版 32 の 255
第６図：［県教委ほか 2001］図版５の３・13・15・17

土器・陶磁器の機能別比率

－越後の古墳時代～古代を中心に－

春　日　真　実

はじめに

新潟県では、一之口遺跡（東地区）の報告書［鈴木・春日ほか 1994］の刊行以後、古墳時代から古代の土器を中心に、土器・陶磁器の計量的な分析が盛んに行われており、筆者もこれまで、いくつかの遺跡で行ってきた。新潟県内の土器・陶磁器の計量データは第３～７表に示したとおりで[1)]、かなりの量が蓄積されている。土器・陶磁器の計量が行われた発掘調査報告書では、計量データの比較に基づいた主要器種や機能別比率の変化、食膳具素材の比率の変化や地域性が検討されている。しかしこれらは、記録保存のための発掘調査報告書という性格上当然のことではあるが、対象とする資料が遺跡内のものに限定されたり、対象とする時期が調査された遺跡と近接した時期に限られたりする場合が多い。小稿で対象とする土器・陶磁器の機能別比率も、古墳時代から古代を通じ検討した例は新潟県内では現在のところない。機能別比率の時間的推移や地域性を明らかにし、当該期土器様式の変化をよりよく理解するための一助とするとともに、土器計量の有効性を確認し、今後の課題も示したい。

１　方法

（１）時期表記

時期の表記は土器編年の時期区分を用いる（第１表）。古墳時代は、新潟県では早期から後期を通した土器編年案がないので､加賀地域の田嶋明人の土器編年［田嶋 1996］を用いる。なお､田嶋は 1996 年以降、漆町４群土器と漆町 11 群土器の評価について重要な指摘を行っており［田嶋 2006・2008］、第１表はこの指摘を参考にし、1996 年の時期区分を一部変更している。ただし、この時期区分の変更が田嶋の意図に合致したものかどうかは不明である。加賀地域と越後地域の土器編年の対応関係については、古墳時代前期は日本考古学協会新潟大会のシンポジウム［日本考古学協会新潟大会実行委員会編 1993］や近年の田嶋明人・滝沢規朗らの研究［田嶋 2012、滝沢 2005・2011・2012 など］、古墳時代後期は望月精司の論考［望月 2004］、須恵器の共伴関係によって把握可能と考えている。

古代については、越後地域を対象とした筆者の土器編年［春日 1999］を用いる。これは田嶋明人の加賀地域での古代土器編年の時期区分を一部変更し、越後地域にあてはめたものであったが、田嶋から越後の古代Ⅵ・Ⅶ期が加賀との並行関係に誤りがあることが指摘されている［田嶋 2013］。しかしこれは、越後地域と加賀地域の並行関係を批判したもので、越後地域の土器群の変遷の序列や暦年代を否定したものではないと考えている[2)]。

以上のように、表１に示した時期区分は、問題点はあるが、古墳時代から古代における土器・陶磁器の機能別比率の変化を確認するには十分なものと考える。

（２）機能と器種の対応関係

土器・陶磁器の機能を煮炊・貯蔵・食膳の３種に分けた。機能と器種の対応関係は第２表のように考え、器台・蓋は機能別比率の対象から除外した。なお、弥生～古墳時代の壺には外面に煤が付着するものが定

量あり、古代の杯蓋は内面に明瞭な摩耗痕が残っているものが多く確認でき、しばしば杯身・有台杯より多く出土することも少なくない。

（3）計量の方法

土器・陶磁器の計量の方法にはいくつかあり、これについては宇野隆夫の論考［宇野1992］に詳しい。宇野は、様々な土器計量の方法を利点･欠点を含めた特徴を述べたのち、口縁部残存率計測法と固体識別法を推奨している。新潟県の報告書では加茂市や新潟市の一部の報告書のように口縁部残存率・口縁部数・底部残存率・底部数・破片数・重量を併記した報告書もあるが[3)]、口縁部残存率と破片数を併記したものが多い。第３～７表には口縁部残存率計測法による数値を示し、土器の総量をイメージするために破片総数も記入した（個体数は x ／ 36 を表す）。

2 機能別比率の変化と地域性

以下、第３～７表をもとに、検討結果を年代順に列挙する。

（1）弥生時代中期～古墳２様式（古墳前期後半）

① 弥生時代中期から後期は煮炊具・貯蔵具が減少し食膳具が増加する可能性が高い（1長岡市大武遺跡Ｄ区Ｆ層・Ｇ区灰色粘土層→２長岡市奈良崎遺跡主要遺構、14 上越市下馬場遺跡１・３・５～７・10 ～ 14 号竪穴）。

② 弥生時代後期から古墳時代１様式は煮炊具・貯蔵具がさらに減少し食膳具が増加する（2長岡市奈良崎遺跡主要遺構、14上越市下馬場遺跡１・３・５～７・10 ～ 14 号竪穴→22 糸魚川市六反田南遺跡ＳＤ 196・200、26 上越市細田遺跡全体、37 新潟市北区正尺Ｃ遺跡１様式Ⅱ期合計、40 胎内市西川内南遺跡ＳＫ 1045・ＳＤ 1218 など）。

③ 古墳１様式Ⅱ期から古墳２様式にかけては、古墳１様式Ⅲ期に一時的に食膳具が減少する可能性があるが、機能別比率の大きな

時期区分			対応関係など	備考
弥生時代後期			漆町2群	田嶋［1996］を田嶋［2006・2008］などを参考に一部改編，漆町編年は田嶋［1986］参照
			漆町3群	
古墳時代	1様式	Ⅰ１期	漆町4群	
		Ⅰ2期	漆町5群	
		Ⅰ3期	漆町6群	
		Ⅱ期	漆町7群	
		Ⅲ期	漆町8群	
	2様式	Ⅰ期	漆町9群	
		Ⅱ期	漆町10群	
	3様式	Ⅰ1期	漆町11群	
		Ⅰ2期	漆町12群	
		Ⅱ期	漆町13群/TK216～23	
	4様式	Ⅰ1期	漆町14群/TK47	
		Ⅱ1期	漆町15群/MT15～TK10	
		Ⅱ2期	＊＊＊＊/TK43	
古代	Ⅰ	1期	6世紀末～7世紀前半	春日［1999・2005・2006.2010］など参照（田嶋［1988］とは時期区分が異なる部分があり、Ⅵ期以降の対応関係は一致しない）
		2期		
		3期		
	Ⅱ	1期		
		2期	7世紀末頃	
	Ⅲ	1期		
		2期	8世紀第2四半期頃	
	Ⅳ	1期		
		2期		
		3期	長岡京前後	
	Ⅴ	1期		
		2期		
	Ⅵ	1期	9世紀第3四半期頃	
		2・3期		
	Ⅶ	1期		
		2期	10世紀第2四半期頃	
		3期	11世紀初め頃	
	Ⅷ期			

第１表　編年対照表

機能	器種
煮炊（具）	土師器釜・小釜・長釜・広口釜・羽釜・鍋・甑、須恵器甑など
貯蔵（具）	土師器壺、須恵器甕・長頸瓶・長胴瓶・横瓶・短頸壺・長胴壺など、灰釉陶器長胴瓶など
食膳（具）	土師器鉢・杯・高杯・小型壺・無台椀・有台椀・小皿･無台皿･有台皿、黒色土器杯･高杯･無台椀･有台椀・無台皿・有台皿、須恵器杯身・有台杯・無台杯・有台盤・無台盤・高杯、灰釉陶器椀・皿、緑釉陶器椀・皿など
その他	須恵器仏鉢、硯・香炉など、土師器のうち高杯か器台・小型器台か判別が難しいものなど
数値に反映させないもの	土師器器台・小型器台、須恵器杯蓋・壺蓋など

第２表　機能と器種の対応関係

変化は確認できない（37 新潟市北区正尺Ｃ遺跡１様式Ⅱ期合計、40 胎内市西川内南遺跡ＳＫ 1045・ＳＤ 1218 → 48 胎内市西川内南遺跡ＳＤ 1115・ＳＫ 1002、52 同市土居下遺跡全体、62 新潟市西蒲区南赤坂遺跡テラス土器群→ 64 同遺跡１号住居跡）。

④　古墳１・２様式の食膳具の比率は阿賀北地域が上越地域より高率になる可能性がある（37 新潟市北区正尺Ｃ遺跡１様式Ⅱ期合計、40 胎内市西川内南遺跡ＳＫ 1045・ＳＤ 1218、52 同市土居下遺跡全体と 22 糸魚川市六反田南遺跡ＳＤ 196・200、26 上越市細田遺跡全体、45 同市一之口遺跡ＳＩ 223,SD288・352・2311 など）。

（２）古墳２様式（古墳時代前期後半）～４様式（古墳時代後期）

⑤　古墳２様式から古墳３様式は食膳具が増加し、煮炊具・貯蔵具は減少する（64 新潟市西蒲区南赤坂１号住居跡→ 67 加茂市馬越遺跡Ａ区河川１・２、70 上越市一之口遺跡ＳＫ 304・679 など）。

⑥　古墳２様式以降貯蔵具が 10％を超えることは稀になる。

⑦　古墳３様式から古墳４様式にかけては食膳具が高率で維持された可能性が高い（67 加茂市馬越遺跡Ａ区河川１・２、70 上越市一之口遺跡ＳＫ 304・679 など→ 79 長岡市・燕市五千石遺跡ＳＤ 98、83 同遺跡ＳＤ 15・49, SK187）。ただし上越地域には、食膳具が 23 ～ 36％程度の土器群も確認できる（87 上越市一之口遺跡ＳＩ 113・168、88 同遺跡ＳＩ 112）。

⑧　越後平野では古墳３様式後半から高杯が減少し、食膳具の主体を杯類が占めるようになる可能性が指摘されているが［滝沢 2014］、こうした傾向は古墳４様式も引き継がれた可能性が高い（79 長岡市・燕市五千石遺跡ＳＤ 98、83 同遺跡ＳＤ 15・49, SK187）。一方、上越地域には高杯が比較的高率で存在する土器群が確認できる（87 上越市一之口遺跡ＳＩ 113・168、88 同遺跡ＳＩ 112）

（３）古墳４様式（古墳後期）～古代Ⅱ期（７世紀後半）

⑨　古墳４様式から古代Ⅰ期にかけて、食膳具の比率が減少する可能性がある（79 長岡市・燕市五千石遺跡ＳＤ 98、83 同遺跡ＳＤ 15・49, SK187 → 90 上越市一之口遺跡ＳＩ 79、94 同遺跡Ⅰ２期合計、101 同遺跡Ⅰ３期合計、112 同市北新田Ⅰ期合計）。ただし、上越地域の古墳４様式の土器群には食膳具の比率が 23 ～ 35％の土器群が確認でき（87 上越市一之口遺跡ＳＩ 113・168、88 同遺跡ＳＩ 112）、このような土器組成が温存された結果とも理解できる。

⑩　古代Ⅱ期は現状では大沢谷内遺跡の計測データしかなく、このデータがどの程度一般化できるか明確でない。117 大沢谷内遺跡Ⅱ期合計は食膳具の比率が 84.4％と前後の時期と比較し著しく高い。

⑪　古代Ⅱ期には、⑧で指摘した高杯の多寡による越後内部の地域差が解消された可能性がある（113 大沢谷内遺跡ＳＸ 945 には高杯が一定量存在する）

（４）古代Ⅲ期～古代Ⅴ期（８世紀初頭～９世紀初頭）

⑫　古代Ⅲ期は、煮炊具が 62 ～ 38％、食膳具が 34 ～ 60％と比率にばらつきがあるが、古代Ⅰ期に比べ煮炊具が減少し、食膳具が増加している可能性が高い（101 上越市一之口遺跡遺跡Ⅰ３期合計、112 同市北新田Ⅰ期合計→ 130 上越市三角田遺跡Ｃ区下層全体、133 上越市下割遺跡ＳＫ 326・ＳＤ 311、134 胎内市西川内北遺跡全体）。

⑬　古代Ⅳ期は煮炊具が 28 ～ 35％、食膳具が 60％強の比率の土器群（145 加茂市馬越遺跡Ⅳ１期合計、153 五泉市中田遺跡ＳＫ 10、163 同市新保北遺跡ＳＫ 14・22・36・37, ＳＸ７など）と煮炊具が 50 ～ 60％、食膳具が 40 ～ 43％弱の土器群（135 柏崎市箕輪遺跡流路 14 下層集中１、154 同市同遺跡流路 14 下層集中２、156 新潟市秋葉区萱免遺跡ＳＸ６など）が存在する[4)]。

時期	市町村	No.	遺跡名	遺構名	比率					煮炊	貯蔵	食	
					煮炊	貯蔵	食膳	その他	合計			高杯	鉢・椀等
弥生中期	長岡市	1	大武	D区F層・G区灰色粘土層	62.9	30.7	5.0	1.4	100	2139.0	1045.5		168.5
弥生後期主体	長岡市	2	奈良崎	主要遺構	70.0	13.4	9.9	6.7	100	484.0	92.5	28.0	40.5
弥生後期	上越市	3	下馬場	1号竪穴	62.1	32.2	4.7	0.9	100	66.5	34.5	5.0	
弥生後期	上越市	4	下馬場	3号竪穴	86.7	12.1	0.0	1.2	100	147.0	20.5		
弥生後期	上越市	5	下馬場	5号竪穴	93.1	6.9	0.0	0.0	100	40.5	3.0		
弥生後期	上越市	6	下馬場	6号竪穴	26.7	53.4	7.3	12.6	100	25.5	51.0		7.0
弥生後期	上越市	7	下馬場	7号竪穴	44.6	42.2	8.6	4.6	100	67.5	64.0		13.0
弥生後期	上越市	8	下馬場	9号竪穴	66.3	18.5	8.7	6.5	100	30.5	8.5	4.0	
弥生後期	上越市	9	下馬場	10号竪穴	93.5	6.5	0.0		100	21.5	1.5		
弥生後期	上越市	10	下馬場	11号竪穴	59.5	28.8	11.7		100	213.5	103.5	20.0	22.0
弥生後期	上越市	11	下馬場	12号竪穴	64.6	26.5	9.0		100	122.0	50.0		17.0
弥生後期	上越市	12	下馬場	13号竪穴	59.9	32.8	4.4	2.9	100	41.0	22.5		3.0
弥生後期	上越市	13	下馬場	14号竪穴	22.5		77.5		100	9.0			31.0
弥生後期	上越市	14	下馬場	1・3・5～7・10～14号竪穴	60.7	27.8	9.4	2.1	100	784.5	359.0	29.0	93.0
弥生後期主体	上越市	15	下馬場	全体	56.5	25.7	14.3	3.4	100	1084.0	492.5	39.0	219.0
弥生後期主体	上越市	16	下馬場	包含層	22.3	67.4	10.3		100	25.0	75.5	4.0	7.5
弥生後期～終末期	上越市	17	下馬場	4号竪穴	35.1	21.4	16.8	26.7	100	50.0	30.5	1.0	13.0
弥生後期主体	上越市	18	下馬場	8号竪穴	73.2	0.3	26.0	0.6	100	131.0	0.5	3.0	43.5
古墳1様式？	上越市	19	下馬場	2号竪穴	38.5	7.0	54.5		100	41.0	7.5	2.0	49.0
古墳1様式？	上越市	20	下馬場	SX5	42.9	57.1	0.0		100	3.0	4.0		
古墳1様式？	上越市	21	下馬場	SX8	64.6	21.5	13.9		100	46.5	15.5		10.0
古墳1様式Ⅰ期	糸魚川	22	六反田南	SD196・200	69.1	10.7	19.8	0.4	100	596.0	92.5	72.0	10.0
古墳1様式Ⅰ期	上越市	23	北新田	SI201	32.9	26.1	41.0		100	119.8	95.3	36.1	113.3
古墳1様式Ⅰ期	上越市	24	細田	15P´	67.5	14.9	17.5		100	77.0	17.0	6.5	13.5
古墳1様式Ⅰ期	上越市	25	細田	15Q´・R´	77.5	20.4	2.1		100	148.5	39.0	2.0	2.0
古墳1様式Ⅰ期中心	上越市	26	細田	全体	70.6	13.5	13.1	2.8	100	800.5	152.5	64.5	84.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	27	正尺C	SZ439-SD209	66.4	6.2	24.3	3.1	100	1041.5	97.5	52.0	285.5
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	28	正尺C	SZ439-SD214	56.7	11.4	27.5	4.4	100	601.5	120.5	57.0	150.5
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	29	正尺C	SZ439-SD311	64.1	9.6	23.0	3.2	100	598.0	90.0	6.0	101.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	30	正尺C	SZ439合計	62.9	8.6	24.9	3.5	100	2241.0	308.0	115.0	488.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	31	正尺C	SI77	58.7	5.0	35.7	0.6	100	272.5	23.0	95.0	39.5
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	32	正尺C	SI36	65.7	3.0	31.3		100	561.0	26.0	69.5	132.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	33	正尺C	SI44	55.3	11.8	29.0	4.0	100	221.0	47.0	1.0	105.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	34	正尺C	SI55	59.9	6.2	33.9		100	120.0	12.5	10.0	58.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	35	正尺C	SD185	85.0	7.6	7.2	0.2	100	399.0	35.5		31.0
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	36	正尺C	SK164	66.3	11.9	21.7		100	206.0	37.0		37.5
古墳1様式Ⅱ期	新潟市	37	正尺C	１様式Ⅱ期合計	67.2	8.3	22.8	1.7	100	5599.0	687.5	359.5	1077.0
古墳1様式Ⅱ期	胎内市	38	西川内南	SK1045	69.3	4.5	26.2		100	526.0	34.5	34.5	164.0
古墳1様式Ⅱ期	胎内市	39	西川内南	SD1218	59.8	6.2	34.0		100	1262.0	131.0	218.0	500.0
古墳1様式Ⅱ期	胎内市	40	西川内南	SK1045・SD1218	62.3	5.8	31.9		100	1788.0	165.5	252.5	664.0
古墳1様式Ⅲ期	上越市	41	一之口(東)	SI233	86.6	8.1	0.0	5.3	100	212.5	20.0		
古墳1様式Ⅲ期	上越市	42	一之口(東)	SD288	78.5	4.1	9.7	7.7	100	105.4	5.5	3.5	9.5
古墳1様式Ⅲ期	上越市	43	一之口(東)	SD352	69.6	3.9	18.4	8.2	100	54.2	3.0	14.3	
古墳1様式Ⅲ期	上越市	44	一之口(東)	SD2311	65.1	8.0	26.9		100	73.5	9.0	3.4	27.0
古墳1様式Ⅲ期	上越市	45	一之口(東)	SI223,SD288・352・2311	78.1	6.6	10.1	5.2	100	445.6	37.5	21.2	36.5
古墳1様式Ⅲ期	胎内市	46	西川内南	SD1115	33.7	14.6	51.7		100	173.5	75.0	127.0	139.0
古墳1様式Ⅲ期	胎内市	47	西川内南	SK1002	50.0	12.0	38.0		100	187.0	45.0	45.0	97.0
古墳1様式Ⅲ期	胎内市	48	西川内南	SD1115・SK1002	40.6	13.5	45.9		100	360.5	120.0	172.0	236.0
古墳1様式Ⅱ・Ⅲ期	胎内市	49	土居下	17～22列	63.6	17.7	18.7		100	644.8	179.7	48.6	140.6
古墳1様式Ⅱ・Ⅲ期	胎内市	50	土居下	12～16列	59.5	17.8	12.7		90	650.2	194.3	69.6	69.6
古墳1様式Ⅲ期～2様式	胎内市	51	土居下	3・11ＥＦ	74.5	11.1	14.4		100	299.6	44.7	7.0	50.8
古墳1様式Ⅲ期～2様式	胎内市	52	土居下	全体	65.5	17.4	17.2		100	1811.3	480.1	126.5	347.9
古墳1様式Ⅲ期～2様式	上越市	53	一之口(東)	SK189	78.7	16.7	2.5	2.1	100	471.8	100.0	3.5	11.5
古墳1様式Ⅲ期～2様式	上越市	54	一之口(東)	SK274	91.6	1.7	4.5	2.2	100	221.8	4.0		11.0
古墳1様式Ⅲ期～2様式	上越市	55	一之口(東)	SK265	68.5	13.8	3.5	14.2	100	86.9	17.5	4.5	
古墳1様式Ⅲ期～2様式	上越市	56	一之口(東)	SK189・274・265	80.6	12.5	3.1	3.7	100	780.5	121.5	8.0	22.5
古墳1様式Ⅱ期～2様式	胎内市	57	西川内南	全体	42.9	7.1	50.0		100	4287.0	715.0	357.0	4645.0
古墳1様式Ⅲ期～2様式	新潟市	58	南赤坂	上段テラス土坑群	13.1	19.7	63.9	3.3	100	28.8	43.2		140.4
古墳1様式Ⅲ期～2様式	新潟市	59	南赤坂	西側テラス	71.0	3.0	26.0		100	432.0	18.0	104.4	54.0
古墳1様式Ⅲ期～2様式	新潟市	60	南赤坂	下段テラス	52.6	24.6	22.8		100	369.0	172.8	43.2	117.0
古墳1様式Ⅲ期～2様式	新潟市	61	南赤坂	テラス周辺	69.0	24.1	6.6	0.3	100	784.8	273.6	14.4	61.2
古墳1様式Ⅲ期～2様式	新潟市	62	南赤坂	テラス土器群	60.5	19.0	20.0	0.4	100	1614.6	507.6	162.0	372.6
古墳2様式	胎内市	63	西川内南	SD1201	64.9	1.0	34.0		100	157.5	2.5	5.0	77.5
古墳2様式Ⅱ期	新潟市	64	南赤坂	1号住居跡	59.2	3.1	32.3	5.4	100	626.4	32.4	151.2	190.8
古墳2様式Ⅱ期	新潟市	65	南赤坂	4号住居跡	66.9	19.7	10.2	3.1	100	306.0	90.0	46.8	
古墳2様式Ⅱ期	上越市	66	一之口(東)	SK3992	73.8	14.7	11.6	0.0	100	47.8	9.5		
古墳3様式Ⅰ期	加茂市	67	馬越	Ａ区河川1・2	32.4	10.6	57.0	0.0	100	72.7	23.8	115.9	
古墳3様式Ⅰ期	上越市	68	一之口(東)	SK679	44.0	0.0	56.0	0.0	100	21.5		9.4	
古墳3様式Ⅰ期	上越市	69	一之口(東)	SK304	21.9	19.8	58.3	0.0	100	10.5	9.5	16.0	
古墳3様式Ⅰ期	上越市	70	一之口(東)	SK304・679	33.0	9.8	57.2	0.0	100	32.0	9.5	25.4	
古墳3様式Ⅱ期	新潟市	71	沖ノ羽Ⅳ	5区3様式Ⅱ期合計	31.1		68.9	0.0	100	23.0		25.2	1.1
古墳3様式Ⅱ	新潟市	72	結七島	SK116	61.3	20.8	17.9	0.0	100	85.0	28.8	20.9	4.0
古墳3様式Ⅱ	新潟市	73	結七島	SK117	33.7	2.9	63.4	0.0	100	33.5	2.9	46.1	16.9
古墳3様式Ⅱ	新潟市	74	結七島	SK260	87.5		12.5	0.0	100	15.1			2.2
古墳3様式Ⅱ	新潟市	75	結七島	SK256	95.3		4.7	0.0	100	203.0		7.9	2.2
古墳3様式Ⅱ	新潟市	76	結七島	SK261	48.9		51.1	0.0	100	24.8		25.9	
古墳3様式Ⅱ	新潟市	77	結七島	SK296	100.0		0.0	0.0	100	11.2			
古墳3様式Ⅱ	新潟市	78	結七島	3様式Ⅱ期合計	70.3	6.0	23.8	0.0	100	372.6	31.7	100.8	25.2
古墳4様式Ⅰ期	長岡市・燕市	79	五千石	SD98	43.8		56.2	0.0	100	62.9			80.6

膳		蓋	器台	その他	合計		破片数		文献	巻次	備考
小型壺	その他				全て	器台・蓋除く	全て	器台・蓋除			
				50.0	3,403.0	3,403.0	18,347	18,347	春日・坂上ほか2014	第249集	
			30.0	46.0	721.0	691.0	23,434	23,164	春日・小池ほか2002	第116集	古墳1・2様式定量含む
			13.0	1.0	120.0	107.0	(52)	(46)	尾崎ほか2005	第152集	
			4.0	2.0	173.5	169.5	(90)	(86)	尾崎ほか2005	第152集	
					43.5	43.5	(33)	(33)	尾崎ほか2005	第152集	
				12.0	95.5	95.5	(104)	(104)	尾崎ほか2005	第152集	
			13.5	7.0	165.0	151.5	(278)	(271)	尾崎ほか2005	第152集	
				3.0	46.0	46.0	(36)	(36)	尾崎ほか2005	第152集	
					23.0	23.0	(8)	(8)	尾崎ほか2005	第152集	
			3.0		362.0	359.0	(155)	(154)	尾崎ほか2005	第152集	
					189.0	189.0	(76)	(76)	尾崎ほか2005	第152集	
				2.0	68.5	68.5	(28)	(28)	尾崎ほか2005	第152集	
					40.0	40.0	(10)	(10)	尾崎ほか2005	第152集	
			33.5	27.0	1,326.0	1,292.5	(870)	(852)	尾崎ほか2005	第152集	
17.0			59.0	66.0	1,976.5	1,917.5	(1,287)	(1,253)	尾崎ほか2005	第152集	
					112.0	112.0	(35)	(35)	尾崎ほか2005	第152集	
10.0			25.5	38.0	168.0	142.5	(80)	(64)	尾崎ほか2005	第152集	
				1.0	179.0	179.0	200	200	尾崎ほか2005	第152集	
7.0					106.5	106.5	(52)	(52)	尾崎ほか2005	第152集	
					7.0	7.0	(9)	(9)	尾崎ほか2005	第152集	
					72.0	72.0	(38)	(38)	尾崎ほか2005	第152集	
89.0		19.0	111.5	3.5	993.5	863.0	6,877	6,781	春日・坂上ほか2008	第202集	
		46.4	238.3		649.2	364.5	不明	不明	金内ほか2008	第197集	
					114.0	114.0	(50)	(50)	尾崎ほか2005	第152集	
			21.0		212.5	191.5	(68)	(64)	尾崎ほか2005	第152集	
			94.0	32.0	1,227.5	1,133.5	(519)	(483)	尾崎ほか2005	第152集	
44.5		60.0	152.0	48.5	1,781.5	1,569.5	(443)	(410)	土橋ほか2006	第165集	
84.0		24.0	109.0	46.5	1,193.0	1,060.0	(340)	(306)	土橋ほか2006	第165集	
108.0		17.0	60.0	30.0	1,010.0	933.0	(298)	(281)	土橋ほか2006	第165集	
285.5		101.0	321.0	125.0	3,984.5	3,562.5	(1,081)	(997)	土橋ほか2006	第165集	
31.0			62.5	3.0	526.5	464.0	(135)	(123)	土橋ほか2006	第165集	
66.0			89.0		943.5	854.5	(206)	(201)	土橋ほか2006	第165集	
10.0		3.0	11.0	16.0	414.0	400.0	(150)	(148)	土橋ほか2006	第165集	
			29.0		229.5	200.5	(57)	(54)	土橋ほか2006	第165集	
3.0			31.0	1.0	500.5	469.5	(163)	(149)	土橋ほか2006	第165集	
30.0			46.0		356.5	310.5	(103)	(101)	土橋ほか2006	第165集	
458.0		126.0	740.0	145.5	9,192.5	8,326.5	(2,533)	(2,360)	土橋ほか2006	第165集	
			104.0		863.0	759.0	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			65.0		2,176.0	2,111.0	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			169.0		3,039.0	2,870.0	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			17.0	13.0	262.5	245.5	3,251	3,219	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
				10.3	134.2	134.2	1,194	1,192	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			14.0	6.4	91.9	77.9	764	746	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
					112.9	112.9	2,053	2,043	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			31.0	29.7	601.5	570.5	7,262	7,200	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			63.5		578.0	514.5	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			32.0		406.0	374.0	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			95.5	0.0	984.0	888.5	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			43.3		1,057.0	1,013.7	不明	不明	細井ほか2006	第166集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			30.3		1,123.0	1,092.7	不明	不明	細井ほか2006	第166集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			35.9		438.0	402.1	不明	不明	細井ほか2006	第166集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			109.3		2,875.0	2,765.8	不明	不明	細井ほか2006	第166集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			28.0	12.8	627.6	599.6	3,828	3,820	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
				5.3	242.1	242.1	1,060	1,060	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			15.4	18.0	142.3	126.9	1,488	1,478	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			43.4	36.1	1,012.0	968.6	6,376	6,358	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			1905.0		11,909.0	10,004.0	不明	不明	野水ほか2005	第146集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
				7.2	219.6	219.6	(10)	(10)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
					608.4	608.4	(21)	(21)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			14.4		716.4	702.0	(40)	(38)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
				3.6	1,137.6	1,137.6	(55)	(55)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
				10.8	2,667.6	2,667.6	(126)	(124)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			7.5		250.0	242.5	不明	不明	野水ほか2005	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			57.6	57.6	1,116.0	1,058.4	(85)	(80)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
			10.8	14.4	468.0	457.2	(49)	(46)	前山・相田2002	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
	7.5				64.8	64.8	682	682	鈴木・春日ほか1994	−	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
11.9					224.3	224.3	684	684	伊藤2010	(19)	
18.0					48.9	48.9	280	280	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
12.0					48.0	48.0	323	323	鈴木・春日ほか1994	第60集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
30.0					96.9	96.9	603	603	鈴木・春日ほか1994	第69集	小型壺は杯・鉢・椀等に含まれる
24.8					74.2	74.2	4,392	4,392	立木・澤野2008	−	
					138.6	138.6	401	401	田中ほか2004	−	
					99.4	99.4	414	414	田中ほか2004	−	
					17.3	17.3	45	45	田中ほか2004	−	
					213.1	213.1	9,212	9,212	田中ほか2004	−	
					50.8	50.8	9	9	田中ほか2004	−	
					11.2	11.2	73	73	田中ほか2004	−	
					530.3	530.3	10,154	10,154	田中ほか2004	−	
		7.0			150.5	143.5	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	高杯は杯・鉢・椀等に含まれる

第3表　土器・陶磁器の機能別比率（1）

時期	市町村	No.	遺跡名	遺構名	比率					煮炊	貯蔵	食	
					煮炊	貯蔵	食膳	その他	合計			高杯	鉢・椀等
古墳4様式Ⅱ1期	長岡市・燕市	80	五千石	SD15	30.7	10.5	58.8	0.0	100	78.9	27.0		133.1
古墳4様式Ⅱ1期	長岡市・燕市	81	五千石	SD49	41.7	0.4	57.9	0.0	100	97.2	0.9		134.9
古墳4様式Ⅱ1期	長岡市・燕市	82	五千石	SK187	25.5		74.5	0.0	100	39.0			114.0
古墳4様式Ⅱ1期	長岡市・燕市	83	五千石	SD15・49,SK187	33.4	4.3	62.2	0.0	100	215.1	27.9	0.0	382.0
古墳4様式Ⅰ～Ⅱ期	長岡市・燕市	84	五千石	全体	59.1	0.2	40.7	0.0	100	3522.1	12.9	16.7	2286.2
古墳4様式Ⅱ1期	上越市	85	一之口(東)	SI113	67.8	8.8	23.3	0.0	100	268.2	35.0	6.0	86.3
古墳4様式Ⅱ1期	上越市	86	一之口(東)	SI168	66.1		33.9	0.0	100	94.1		21.0	3.8
古墳4様式Ⅱ1期	上越市	87	一之口(東)	SI113・168	67.4	6.5	26.1	0.0	100	362.3	35.0	27.0	90.1
古墳4様式Ⅱ2期	上越市	88	一之口(東)	SI112	61.5	2.6	35.8	0.0	100	139.9	6.0	18.0	47.0
古墳4様式	長岡市	89	奈良崎遺跡	4様式合計	64.0	12.9	16.3	6.7	100	94.0	19.0	2.0	22.0
古代Ⅰ1期	上越市	90	一之口(東)	SI79	57.3	3.2	39.5	0.0	100	286.3	16.0	3.5	193.9
古代Ⅰ2期	上越市	91	一之口(東)	SI614	69.0	5.3	25.7	0.0	100	225.9	17.2		70.3
古代Ⅰ2期	上越市	92	一之口(東)	SI17	39.8	13.5	46.7	0.0	100	140.3	47.5	52.8	97.4
古代Ⅰ2期	上越市	93	一之口(東)	SI107	70.0		30.0	0.0	100	72.1			27.0
古代Ⅰ2期	上越市	94	一之口(東)	Ⅰ2期合計	56.0	8.3	35.8	0.0	100	438.3	64.7	52.8	194.7
古代Ⅰ3期	上越市	95	一之口(東)	SI625	75.9	9.3	14.8	0.0	100	105.0	12.9	4.5	14.5
古代Ⅰ3期	上越市	96	一之口(東)	SK613	72.2	8.5	19.3	0.0	100	132.0	15.5	28.0	7.3
古代Ⅰ3期	上越市	97	一之口(東)	SI104	92.1		7.9	0.0	100	149.3		7.3	5.5
古代Ⅰ3期	上越市	98	一之口(東)	SI1381	84.9		15.1	0.0	100	121.6			21.7
古代Ⅰ3期	上越市	99	一之口(東)	SI1379	43.0		57.0	0.0	100	53.6			71.0
古代Ⅰ3期	上越市	100	一之口(東)	SI137	84.6		15.4	0.0	100	159.0		23.0	6.0
古代Ⅰ3期	上越市	101	一之口(東)	Ⅰ3期合計	76.7	3.0	20.3	0.0	100	720.5	28.4	62.8	126.0
古代Ⅰ期	燕市	102	大橋遺跡	試掘・確認	66.9	13.2	19.9		100	139.5	27.5		
古代Ⅰ期	上越市	103	北新田	SI1058	45.1		54.9	0.0	100	74.0			
古代Ⅰ期	上越市	104	北新田	SI1185	100.0		0.0	0.0	100	93.0			
古代Ⅰ期	上越市	105	北新田	SI570	72.1	9.3	18.6	0.0	100	93.0	12.0		
古代Ⅰ期	上越市	106	北新田	SI601	54.4	0.0	45.6	0.0	100	43.0			
古代Ⅰ期	上越市	107	北新田	SI930	76.0	0.0	24.0	0.0	100	19.0			
古代Ⅰ期	上越市	108	北新田	SI931	100.0	0.0	0.0	0.0	100	89.0			
古代Ⅰ期	上越市	109	北新田	SI202	80.8	0.0	19.2	0.0	100	357.0			
古代Ⅰ期	上越市	110	北新田	SI848	100.0	0.0	0.0	0.0	100	90.0			
古代Ⅰ期	上越市	111	北新田	SI203	100.0	0.0	0.0	0.0	100	7.0			
古代Ⅰ期	上越市	112	北新田	Ⅰ期合計	77.4	1.1	21.6	0.0	100	865.0	12.0		
古代Ⅱ1期	新潟市	113	大沢谷内	SX945	6.9	0.0	91.6	1.5	100	51.5		365.0	322.2
古代Ⅲ期	新潟市	114	大沢谷内	SX1088	46.1	2.1	51.8	0.0	100	23.4	1.1		26.3
古代Ⅱ期	新潟市	115	大沢谷内	SD480	42.1	0.0	57.9	0.0	100	5.8			7.9
古代Ⅱ期	新潟市	116	大沢谷内	SX473	50.0	0.0	50.0	0.0	100	29.2		1.1	28.1
古代Ⅱ期	新潟市	117	大沢谷内	Ⅱ期合計	12.6	0.1	86.0	1.3	100	109.8	1.1	366.1	384.5
古代Ⅲ期	新潟市	118	大沢谷内	SK666	21.7	0.0	78.3	0.0	100	10.8		9.0	29.9
古代Ⅲ期	新潟市	119	大沢谷内	SK1248	71.7	0.0	28.3	0.0	100	15.5			6.1
古代Ⅲ期	新潟市	120	大沢谷内	SD153	0.0	0.0	100.0	0.0	100				17.3
古代Ⅲ期	新潟市	121	大沢谷内	SD155	0.0	44.4	55.6	0.0	100		8.6		10.8
古代Ⅲ期	新潟市	122	大沢谷内	SD156	49.4	0.0	50.6	0.0	100	14.8			15.1
古代Ⅲ期	新潟市	123	大沢谷内	SD157	2.3	35.9	61.7	0.0	100	1.1	16.6	5.0	23.4
古代Ⅲ期	新潟市	124	大沢谷内	SX841	74.6	0.0	25.4	0.0	100	37.1			12.6
古代Ⅲ期	新潟市	125	大沢谷内	SX946	22.6	16.5	60.9	0.0	100	21.6	15.8	12.6	45.7
古代Ⅲ期	新潟市	126	大沢谷内	Ⅲ期合計	30.6	12.5	56.9	0.0	100	100.8	41.0	26.6	160.9
古代Ⅲ期	上越市	127	三角田	SD113	12.8	4.6	82.6	0.0	100	36.0	13.0		233.0
古代Ⅲ期	上越市	128	三角田	SC49・SC119	79.9	0.0	20.1	0.0	100	107.0			27.0
古代Ⅲ期	上越市	129	三角田	SC93	42.7	0.0	57.3	0.0	100	97.0			130.0
古代Ⅲ期	上越市	130	三角田	C区下層全体	45.2	2.2	52.6	0.0	100	593.0	29.0		691.0
古代Ⅲ期	上越市	131	下割	SK326	74.1	5.6	20.4	0.0	100	80.0	6.0		22.0
古代Ⅲ期	上越市	132	下割	SD311	40.0	0.0	60.0	0.0	100	22.0			33.0
古代Ⅲ期	上越市	133	下割	SK326・SD311	62.6	3.7	33.7	0.0	100	102.0	6.0		55.0
古代Ⅲ期	胎内市	134	西川内北	全体	38.0	2.4	59.6	0.0	100	142.1	9.0		
古代Ⅲ2～Ⅳ1期	柏崎市	135	箕輪	流路14下層集中1	55.1	1.6	42.6	0.6	100	1785.5	53.0		1382.0
古代Ⅲ2～Ⅳ期	柏崎市	136	箕輪	流路14下層	50.8	1.5	46.1	1.6	100	3040.5	87.0		2761.5
古代Ⅲ～Ⅴ期	出雲崎町	137	梯子谷窯跡	全体(窯跡除)	41.5	4.1	54.4	0.0	100	406.5	40.5	3.0	529.5
古代Ⅲ～Ⅴ期	新潟市	138	茶院	全体	41.3	17.4	41.3	0.0	100	109.0	46.0		109.0
古代Ⅲ～Ⅴ期	燕市	139	助次郎	全体	50.3	3.6	45.8	0.0	100	155.0	11.0		141.0
古代Ⅲ～Ⅵ期	上越市	140	細田	全体	15.1	2.3	82.7	0.0	100	592.5	89.5		3249.0
古代Ⅳ1期	加茂市	141	馬越	SK39	59.3	0.0	40.7	0.0	100	104.4			71.6
古代Ⅵ1期	加茂市	142	馬越	SX21	54.1	0.8	45.0	0.0	100	68.8	1.1		57.2
古代Ⅳ1期	加茂市	143	馬越Ⅱ	河川3	23.5	0.7	73.4	2.3	100	130.7	4.0		408.2
古代Ⅳ1期	加茂市	144	馬越	SD75	36.2	0.0	63.8	0.0	100	9.0			15.8
古代Ⅳ1期	加茂市	145	馬越	Ⅳ1期合計	35.4	0.6	62.6	1.5	100	312.8	5.0		553.0
古代Ⅳ2・3期	加茂市	146	馬越	SK42	6.4	0.0	93.6	0.0	100	1.0			14.0
古代Ⅳ期	加茂市	147	馬越	1号畝a-7	75.8	0.0	24.2	0.0	100	24.8			7.9
古代Ⅳ期	加茂市	148	馬越	1号畝b-6	19.9	0.0	80.1	0.0	100	10.8			43.6
古代Ⅳ期	加茂市	149	馬越	10号畝-1	5.8	0.0	94.2	0.0	100	6.1			98.6
古代Ⅳ期	加茂市	150	馬越	10号畝-2	1.4	0.0	98.6	0.0	100	1.8			123.5
古代Ⅳ期	加茂市	151	馬越	10号畝-8	4.4	0.0	95.6	0.0	100	4.0			85.7
古代Ⅳ期	加茂市	152	馬越	Ⅳ期合計	27.7	0.4	70.9	1.0	100	361.3	5.0		926.3
古代Ⅳ1～2期	五泉市	153	中田	SK10	35.3	3.8	60.9	0.0	100	260.6	27.7		449.3
古代Ⅳ1～Ⅳ2期	柏崎市	154	箕輪	流路14下層集中2	57.1	0.4	42.5	0.0	100	804.0	6.0		597.5
古代Ⅳ2期	柏崎市	155	箕輪	流路14下層集中3	24.3	0.0	70.4	5.2	100	195.0			565.0
古代Ⅳ2・3期	新潟市	156	萱免	SX6	58.7	0.0	41.3	0.0	100	74.0			52.0
古代Ⅳ2・3期	新潟市	157	沖ノ羽Ⅴ	05 1区SK18	83.9	0.0	16.1	0.0	100	46.8			7.9
古代Ⅳ2期	五泉市	158	新保北	SK22	18.9	24.5	56.6	0.0	100	36.0	46.8		108.0

膳		蓋	器台	その他	合計		破片数		文献	巻次	備考
小型壺	その他				全て	器台・蓋除く	全て	器台・蓋除			
	18.0				257.0	257.0	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	
					233.0	233.0	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	
					153.0	153.0	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	
	18.0				643.0	643.0	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	
	121.8	7.0			5,966.8	5,959.8	不明	不明	松島・山下ほか2010	第6集	
					395.5	395.5	6,089	6,089	鈴木・春日ほか1994	第60集	
8.0	15.5				142.4	142.4	1,782	1,782	鈴木・春日ほか1994	第60集	
8.0	15.5				537.9	537.9	7,871	7,871	鈴木・春日ほか1994	第60集	
5.0	11.5				227.4	227.4	2,560	2,560	鈴木・春日ほか1994	第60集	
				9.8	146.8	146.8	2,842	2,842	春日・小池ほか2002	第116集	
		19.0			518.7	499.7	4,322	4,316	鈴木・春日ほか1994	第60集	
4.5	9.5				327.4	327.4	2,100	2,100	鈴木・春日ほか1994	第60集	
12.0	2.5				352.5	352.5	2,070	2,070	鈴木・春日ほか1994	第60集	
	3.9				103.0	103.0	209	209	鈴木・春日ほか1994	第60集	
16.5	15.9				782.9	782.9	4,379	4,379	鈴木・春日ほか1994	第60集	
	1.5				138.4	138.4	1,492	1,492	鈴木・春日ほか1994	第60集	
					182.8	182.8	1,841	1,841	鈴木・春日ほか1994	第60集	
					162.1	162.1	3,566	3,566	鈴木・春日ほか1994	第60集	
					143.3	143.3	1,112	1,112	鈴木・春日ほか1994	第60集	
					124.6	124.6	1,429	1,429	鈴木・春日ほか1994	第60集	
		5.8			193.8	188.0	1,604	1,603	鈴木・春日ほか1994	第60集	
0.0	1.5	5.8			945.0	939.2	11,044	11,043	鈴木・春日ほか1994	第60集	
	41.5				208.5	208.5	424	424	春日2000		食膳具の内訳不明
	90.0				164.0	164.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
					93.0	93.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	24.0				129.0	129.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	36.0				79.0	79.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	6.0				25.0	25.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
					89.0	89.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	85.0				442.0	442.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	0.0				90.0	90.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
					7.0	7.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
	241.0				1,118.0	1,118.0	不明	不明	金内ほか2008	第197集	食膳具の内訳不明
		16.6		11.5	766.8	750.2	112	110	細野ほか2012	−	
		1.1			51.8	50.8	184	183	細野ほか2012	−	
		17.3			31.0	13.7	64	61	細野ほか2012	−	
		20.5			78.8	58.3	355	350	細野ほか2012	−	
		55.4		11.5	928.4	873.0	715	704	細野ほか2012	−	
		5.0			54.7	49.7	255	232	細野ほか2012	−	
					21.6	21.6	129	129	細野ほか2012	−	
					17.3	17.3	6	6	細野ほか2012	−	
					19.4	19.4	117	115	細野ほか2012	−	
		13.7			43.6	29.9	109	105	細野ほか2012	−	
		52.6			98.6	46.1	121	116	細野ほか2012	−	
					49.7	49.7	138	137	細野ほか2012	−	
		1.0			96.8	95.8	不明	不明	細野ほか2012	−	
		72.3			401.7	329.4	不明	不明	細野ほか2012	−	
		40.0			322.0	282.0	不明	不明	沢田・細井ほか2006	第154集	
		59.0			193.0	134.0	不明	不明	沢田・細井ほか2006	第154集	
		24.0			251.0	227.0	不明	不明	沢田・細井ほか2006	第154集	
		308.0			1,621.0	1,313.0	不明	不明	沢田・細井ほか2006	第154集	
		46.0			154.0	108.0	815	795	飯坂・高橋・野水ほか2011	第227集	
					55.0	55.0	149	148	飯坂・高橋・野水ほか2011	第227集	
		46.0			209.0	163.0	964	943	飯坂・高橋・野水ほか2011	第227集	
	222.7	不明			374.0	不明	1,848	不明	野水ほか2005	第146集	蓋含む、食膳具の内訳不明
		67.0		20.0	3,307.5	3,240.5	6,894	6,875	春日・坂上ほか2015	第254集	
		186.0		98.0	6,173.0	5,987.0	14,502	14,469	春日・坂上ほか2015	第254集	
		157.5			1,137.0	979.5	8,742	8,302	春日ほか2001	第104集	
					264.0	264.0			本間ほか2000	−	蓋含む、食膳具の内訳不明
					308.0	308.0			本間ほか2000	−	蓋含む、食膳具の内訳不明
		361.0			4,292.0	3,931.0	(1,586)	(1,474)	尾崎ほか2005	第152集	
		1.8			177.8	176.0	350	350	伊藤2005	(14)	
					127.1	127.1	139	139	伊藤2005	(14)	
		113.0		13.0	668.9	555.8	684	648	伊藤2009	(18)	
		2.9			27.7	24.8	31	28	伊藤2009	(18)	
		117.7		13.0	1,001.5	883.8	1,204	1,165	伊藤2005・2009	(14)・(18)	
					15.0	15.0	13	13	伊藤2005	(14)	
					32.8	32.8	48	47	伊藤2005	(14)	
		1.1			55.4	54.4	63	61	伊藤2005	(14)	
					104.8	104.8	83	83	伊藤2005	(14)	
		1.8			127.1	125.3	108	107	伊藤2005	(14)	
					89.6	89.6	62	62	伊藤2005	(14)	
		120.6		13.0	1,426.2	1,305.6	1,581	1,538	伊藤2005・2009	(14)・(18)	
		20.2			757.8	737.6	666	663	長澤・山崎ほか2004	(13)	
		4.0			1,411.5	1,407.5	5,829	5,826	春日・坂上ほか2015	第254集	
		98.0		42.0	900.0	802.0	828	824	春日・坂上ほか2015	第254集	
		36.0			162.0	126.0			立木ほか2009	−	
1.1					55.8	55.8	3,535	3,535	遠藤・澤野ほか2014	−	
		10.8			201.6	190.8	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	

第4表　土器・陶磁器の機能別比率（2）

時期	市町村	No.	遺跡名	遺構名	比率					煮炊	貯蔵	食	
					煮炊	貯蔵	食膳	その他	合計			高杯	鉢・椀等
古代Ⅳ3期	五泉市	159	新保北	SK14	24.1	6.5	69.4	0.0	100	93.6	25.2		270.0
古代Ⅳ3期	五泉市	160	新保北	SK37	15.4	10.3	74.4	0.0	100	21.6	14.4		104.4
古代Ⅳ3期	五泉市	161	新保北	SX7	39.7	0.0	60.3	0.0	100	82.8			126.0
古代Ⅳ3期	五泉市	162	新保北	SK36	55.2	3.4	41.4	0.0	100	57.6	3.6		43.2
古代Ⅳ2・3期	五泉市	163	新保北	SK14・22・36・37,SX7	28.2	8.7	63.1	0.0	100	291.6	90.0		651.6
古代Ⅳ3期	柏崎市	164	箕輪	流路14下層集中4	46.2	5.8	40.6	7.5	100	223.0	28.0		196.0
古代Ⅳ～Ⅴ期	上越市	165	細田	15O´・15P´	1.5	1.4	97.0	0.0	100	7.0	6.5		439.0
古代Ⅳ2～Ⅴ期	新潟市	166	南赤坂	全体	87.7	1.1	11.2	0.0	100	1101.6	14.4		140.4
古代Ⅳ2～Ⅴ期	五泉市	167	新保北	全体	40.2	4.6	55.3	0.0	100	1523.0	173.0		2095.0
古代Ⅴ期	新発田市	168	坂ノ沢CⅡ	2号竪穴	22.8	0.0	74.0	3.1	100	87.0			259.5
古代Ⅴ期	新発田市	169	坂ノ沢CⅡ	8号土坑	11.9	2.4	58.7	27.0	100	22.5	4.5		111.0
古代Ⅴ期	新発田市	170	坂ノ沢CⅡ	2号竪穴・8号土坑	19.2	0.8	68.9	11.1	100	109.5	4.5		370.5
古代Ⅴ期	新潟市	171	駒首潟	SB3001	36.6	0.0	63.4	0.0	100	10.5			18.2
古代Ⅴ期	新潟市	172	駒首潟	SB3022	0.0	0.0	100.0	0.0	100				62.6
古代Ⅴ期	新潟市	173	駒首潟	SK981	11.7	9.8	78.6	0.0	100	34.9	29.2		234.7
古代Ⅴ期	新潟市	174	駒首潟	SK1213	0.0	0.0	100.0	0.0	100				11.9
古代Ⅴ期	新潟市	175	駒首潟	SK1266	5.7	0.0	94.3	0.0	100	4.0			65.2
古代Ⅴ期	新潟市	176	駒首潟	SK2508	19.5	27.8	52.7	0.0	100	11.9	16.9		32.0
古代Ⅴ期	新潟市	177	駒首潟	SD102	0.0	0.0	100.0	0.0	100				2.2
古代Ⅴ期	新潟市	178	駒首潟	SD149	10.5	0.0	89.5	0.0	100	4.0			33.8
古代Ⅴ期	新潟市	179	駒首潟	SD150	13.8	0.0	86.2	0.0	100	14.0			87.5
古代Ⅴ期	新潟市	180	駒首潟	SD200	0.0	3.2	96.8	0.0	100		4.0		119.2
古代Ⅴ期	新潟市	181	駒首潟	SD421	67.5	6.7	25.8	0.0	100	217.1	21.6		82.8
古代Ⅴ期	新潟市	182	駒首潟	SD1060	17.0	17.0	65.9	0.0	100	10.8	10.8		41.8
古代Ⅴ期	新潟市	183	駒首潟	SD1216	1.6	0.0	98.4	0.0	100	1.1			64.4
古代Ⅴ期	新潟市	184	駒首潟	Ⅴ期合計	24.7	6.6	68.7	0.0	100	308.2	82.4		856.3
古代Ⅴ1期	新潟市	185	沖ノ羽Ⅲ(県)	7下SK134	9.9	0.0	90.1	0.0	100	17.0			154.0
古代Ⅴ1期	新潟市	186	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK43	24.0	4.3	71.6	0.0	100	105.0	19.0		313.0
古代Ⅴ2期	新潟市	187	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SD40	16.1	0.0	83.9	0.0	100	89.0			465.0
古代Ⅴ2期	新潟市	188	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SE205	3.3	1.7	95.0	0.0	100	8.0	4.0		230.0
古代Ⅴ2期	新潟市	189	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SD31	19.2	0.0	80.8	0.0	100	46.0			193.0
古代Ⅴ2期	新潟市	190	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK36	40.4	0.4	59.1	0.0	100	184.0	2.0		269.0
古代Ⅴ期	新潟市	191	沖ノ羽Ⅲ(県)	Ⅴ期合計	16.1	1.4	82.5	0.0	100	265.0	23.0		1355.0
古代Ⅴ期主体	新潟市	192	沖ノ羽Ⅴ	05 3区河1-4～7層	5.2	6.6	88.2	0.0	100	7.9	10.1		134.3
古代Ⅴ期	新潟市	193	沖ノ羽Ⅴ	05 3区SK189	19.8	0.0	80.2	0.0	100	91.8			371.2
古代Ⅴ期	新潟市	194	中谷内	SX28	9.9	0.0	90.1	0.0	100	10.8			97.9
古代Ⅴ期	新潟市	195	中谷内	SX29	72.0	0.0	28.0	0.0	100	25.9			10.1
古代Ⅴ期	新潟市	196	中谷内	SX30	17.6	0.0	82.4	0.0	100	3.2			15.1
古代Ⅴ期	新潟市	197	中谷内	SK4	49.2	0.0	50.8	0.0	100	52.9			54.7
古代Ⅴ期	新潟市	198	中谷内	Ⅴ期合計	34.3	0.0	65.7	0.0	100	92.9			177.8
古代Ⅴ期	新潟市	199	寺道上	SK3	1.8	0.8	97.4	0.0	100	9.4	4.0		497.9
古代Ⅴ期	新潟市	200	寺道上	Ⅴ期合計	16.8	1.2	82.0	0.0	100	128.5	9.0		626.8
古代Ⅴ期	加茂市	201	馬越	SK12	29.4	0.0	70.6	0.0	100	35.0			84.0
古代Ⅴ期	加茂市	202	馬越	SK16	3.4	0.0	96.6	0.0	100	1.1			31.0
古代Ⅴ期	加茂市	203	馬越	SK30	40.7	0.0	59.3	0.0	100	15.8			23.0
古代Ⅴ期	加茂市	204	馬越	SX17	15.4	0.0	84.6	0.0	100	33.1			181.4
古代Ⅴ期	加茂市	205	馬越	SX18	12.5	0.0	87.5	0.0	100	2.9			20.2
古代Ⅴ期	加茂市	206	馬越	4号畝-3	11.6	0.0	88.4	0.0	100	2.9			22.0
古代Ⅴ期	加茂市	207	馬越	4号畝-18	10.3	0.0	89.7	0.0	100	2.9			25.2
古代Ⅴ期	加茂市	208	馬越	Ⅴ期合計	19.5	0.0	80.5	0.0	100	93.7			386.8
古代Ⅴ期	加茂市	209	太田	SD17	20.6	3.4	76.0	0.0	100	23.8	4.0		87.8
古代Ⅴ期	加茂市	210	太田	SD23	13.9	0.0	86.1	0.0	100	26.3			162.7
古代Ⅴ期	加茂市	211	太田	SX9	16.8	1.1	82.1	0.0	100	60.1	4.0		293.0
古代Ⅴ期	加茂市	212	太田	太田Ⅴ期合計	16.6	1.2	82.2	0.0	100	110.2	7.9		543.6
古代Ⅴ期	五泉市	213	中田	SK5	14.6	0.0	85.4	0.0	100	20.9			122.4
古代Ⅴ期	五泉市	214	中田	SD7	22.7	0.0	77.3	0.0	100	29.9			101.9
古代Ⅴ期	五泉市	215	中田	SD5a	12.5	5.7	81.7	0.0	100	52.9	24.1		344.9
古代Ⅴ期	五泉市	216	中田	SD5-SK1	0.0	0.0	100.0	0.0	100	0.0			173.9
古代Ⅴ期	五泉市	217	中田	Ⅴ期合計	11.9	2.8	85.3	0.0	100	103.7	24.1		743.0
古代Ⅴ期	五泉市	218	新保北	SK65	25.0	12.5	62.5	0.0	100	50.4	25.2		126.0
古代Ⅴ期	柏崎市	219	箕輪	E区主要遺構・包含層	9.7	8.1	82.2	0.0	100	37.0	31.0		314.0
古代Ⅴ期	上越市	220	五反田	SD435B	6.7	1.1	92.2	0.0	100	102.0	16.0		1402.0
古代Ⅴ期	上越市	221	狐宮	SB1	14.0	20.6	65.4	0.0	100	19.0	28.0		89.0
古代Ⅴ期	上越市	222	狐宮	SI31	25.0	8.1	66.9	0.0	100	31.0	10.0		83.0
古代Ⅴ期	上越市	223	狐宮	SI394	36.1	1.8	62.1	0.0	100	61.0	3.0		105.0
古代Ⅴ期	上越市	224	狐宮	Ⅴ期合計	25.9	9.6	64.6	0.0	100	111.0	41.0		277.0
古代Ⅴ～Ⅵ期	新潟市	225	沖ノ羽	7区下層	30.8	4.7	64.4	0.1	100	1437.0	221.0	8.0	2997.0
古代Ⅴ～Ⅵ期	新潟市	226	沖ノ羽	8区下層	31.8	1.8	66.4	0.0	100	4787.0	267.0	5.0	9998.0
古代Ⅴ～Ⅵ期	新潟市	227	沖ノ羽	7・8区下層	31.7	2.4	65.8	0.0	100	6413.0	491.0	13.0	13302.0
古代Ⅴ～Ⅵ期	上越市	228	細田	SD4	5.6	0.4	94.0		100	48.0	3.5		803.0
古代Ⅵ1期	新発田市	229	坂ノ沢CⅡ	9号土坑	1.5	0.0	96.2	2.3	100	3.0	0.0		190.5
古代Ⅵ1期	新発田市	230	坂ノ沢CⅡ	13号土坑	2.1	0.1	91.3	6.4	100	4.5	0.3		192.0
古代Ⅵ1期	新発田市	231	坂ノ沢CⅡ	9・13号土坑	1.8	0.1	93.7	4.4	100	7.5	0.3		382.5
古代Ⅵ1期	新潟市	232	日水	SK88	55.5	0.0	44.5	0.0	100	83.5			67.0
古代Ⅵ1期	新潟市	233	日水	SD264	37.0	0.0	63.0	0.0	100	214.5			365.0
古代Ⅵ1期	新潟市	234	日水	SI385・386	11.1	0.7	88.2	0.0	100	193.5	12.0		1532.0
古代Ⅵ1期	新潟市	235	日水	SK88,SD264,SI385・386	19.9	0.5	79.6	0.0	100	491.5	12.0		1964.0
古代Ⅵ1期	新潟市	236	日水	全体	27.6	2.2	70.2	0.0	100	1162.0	92.0		2956.0
古代Ⅵ1期	新潟市	237	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK17	32.5	1.5	66.0	0.0	100	86.0	4.0		175.0

膳		蓋	器台	その他	合計		破片数		文献	巻次	備考
小型壺	その他				全て	器台・蓋除く	全て	器台・蓋除			
		68.4			457.2	388.8	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		47.0			187.4	140.4	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		129.6			338.4	208.8	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		136.8			241.2	104.4	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		392.6			1,425.8	1,033.2	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		17.0		36.0	500.0	483.0	878	873	春日・坂上ほか2015	第254集	
		94.5			547.0	452.5	(128)	(109)	尾崎ほか2005	第152集	
		25.2			1,281.6	1,256.4	171	168	前山・相田2002	−	
		1001.0			4,792.0	3,791.0	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
	22.5	22.5		12.0	403.5	381.0	535	529	渡邊ほか2001	第23-2	
		7.5		51.0	196.5	189.0	210	206	渡邊ほか2001	第23-2	
0.0	22.5	30.0	0.0	63.0	600.0	570.0	745	735	渡邊ほか2001	第23-2	
		2.2			30.9	28.7	94	92	渡邊・河合ほか2009		
					62.6	62.6	22	22	渡邊・河合ほか2009	−	
		5.0			303.8	298.8	337	335	渡邊・河合ほか2009	−	
					11.9	11.9	25	25	渡邊・河合ほか2009	−	
					69.1	69.1	79	79	渡邊・河合ほか2009	−	
		4.0			64.8	60.8	134	133	渡邊・河合ほか2009	−	
					2.2	2.2	4	4	渡邊・河合ほか2009	−	
					37.8	37.8	22	22	渡邊・河合ほか2009	−	
		4.3			105.8	101.5	155	153	渡邊・河合ほか2009	−	
					123.1	123.1	24	24	渡邊・河合ほか2009	−	
		5.0			326.5	321.5	295	292	渡邊・河合ほか2009	−	
		15.8			79.2	63.4	106	105	渡邊・河合ほか2009	−	
		7.2			72.7	65.5	6	6	渡邊・河合ほか2009	−	
		43.6			1,290.5	1,246.9	1,303	1,292	渡邊・河合ほか2009	−	
		54.0			225.0	171.0	165	144	春日ほか2003	第123集	
		32.0			469.0	437.0	541	532	春日ほか2003	第123集	
		19.0			573.0	554.0	619	614	春日ほか2003	第123集	
					242.0	242.0	136	136	春日ほか2003	第123集	
		25.0			264.0	239.0	127	125	春日ほか2003	第123集	
		69.0			524.0	455.0	860	856	春日ほか2003	第123集	
		130.0			1,773.0	1,643.0	2,448	2,407	春日ほか2003	第123集	
					152.3	152.3	1,526	1,526	遠藤・澤野ほか2014	−	
		32.8			495.7	463.0	6,181	5,972	遠藤・澤野ほか2014	−	
		1.1			109.80	108.72	270	269	立木ほか1999	−	
		4.0			39.96	36.00	214	212	立木ほか1999	−	
					18.36	18.36	52	52	立木ほか1999	−	
		15.1			122.76	107.64	174	169	立木ほか1999	−	
		20.2			290.88	270.72	710	702	立木ほか1999	−	
		5.0			516.2	511.2	1,151	1,147	渡邊ほか2001	−	
		19.8			784.1	764.3	2,177	2,164	渡邊ほか2001	−	
		20.0			139.0	119.0	86	84	伊藤2005	(14)	
		6.1			38.2	32.0	57	56	伊藤2005	(14)	
		22.0			60.8	38.9	96	93	伊藤2005	(14)	
		47.2			261.7	214.6	135	128	伊藤2005	(14)	
		12.2			35.3	23.0	107	101	伊藤2005	(14)	
					24.8	24.8	181	181	伊藤2005	(14)	
					28.1	28.1	23	23	伊藤2005	(14)	
		107.5			587.9	480.4	685	666	伊藤2005	(14)	
		4.7			120.2	115.6	383	377	伊藤2011	(21)	
					189.0	189.0	236	235	伊藤2011	(21)	
		12.6			369.7	357.1	1,012	1,002	伊藤2011	(21)	
		17.3			679.0	661.7	1,631	1,614	伊藤2011	(21)	
		25.2			168.5	143.3	224	206	長澤・山崎ほか2004	(13)	
					131.8	131.8	76	75	長澤・山崎ほか2004	(13)	
					421.9	421.9	138	138	長澤・山崎ほか2004	(13)	
					173.9	173.9	44	44	長澤・山崎ほか2004	(13)	
		25.2			896.0	870.8	482	463	長澤・山崎ほか2004	(13)	
		11.0			212.6	201.6	不明	不明	野水・山崎ほか2003	(8)	
		48.0			430.0	382.0	1,598	1,591	春日・坂上ほか2015	第254集	
		18.0			1,538.0	1,520.0	3,184	3,169	渡邊ほか2005	第138集	
		27.0			163.0	136.0	281	271	飯坂・野水ほか2007	第171集	
		39.0			163.0	124.0	256	239	飯坂・野水ほか2007	第171集	
		2.0			171.0	169.0	373	369	飯坂・野水ほか2007	第171集	
		68.0			497.0	429.0	910	879	飯坂・野水ほか2007	第171集	
		363.0		3.0	5,029.0	4,666.0	13,115	12,945	春日ほか2003	第123集	
		463.0		2.0	15,522.0	15,059.0	37,343	37,188	春日ほか2003	第123集	
		841.0		5.0	21,065.0	20,224.0	52,137	51,800	春日ほか2003	第123集	
		16.0			870.5	854.5	(304)	(296)	尾崎ほか2005	第152集	
		31.5		4.5	229.5	198.0	231	226	渡邊ほか2001	第23-2	
		6.0		13.5	216.3	210.3	155	151	渡邊ほか2001	第23-2	
		37.5		18.0	445.8	408.3	386	377	渡邊ほか2001	第23-2	
		2.0			152.5	150.5			今井ほか2007	−	
		74.5			654.0	579.5			今井ほか2007	−	
		55.0			1,792.5	1,737.5			今井ほか2007	−	
		131.5			2,599.0	2,467.5			今井ほか2007	−	
		175.0			4,385.0	4,210.0			今井ほか2007	−	
					265.0	265.0	509	508	春日ほか2003	第123集	

第5表　土器・陶磁器の機能別比率（3）

時期	市町村	No.	遺跡名	遺構名	比率					煮炊	貯蔵	食	
					煮炊	貯蔵	食膳	その他	合計			高杯	鉢・椀等
古代Ⅵ1期	新潟市	238	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SD21	31.8	2.0	66.2	0.0	100	204.0	13.0		425.0
古代Ⅵ1期	新潟市	239	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK44	27.8	0.6	71.6	0.0	100	49.0	1.0		126.0
古代Ⅵ1期	新潟市	240	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SE27	10.4	0.0	89.6	0.0	100	28.0			242.0
古代Ⅵ1期	新潟市	241	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK14	7.9	0.7	91.4	0.0	100	21.0	2.0		244.0
古代Ⅵ1期	新潟市	242	沖ノ羽Ⅲ(県)	Ⅵ1期合計	24.0	1.2	74.8	0.0	100	388.0	20.0		1212.0
古代Ⅵ1期中心	新潟市	243	沖ノ羽Ⅴ	05 3区河1-2・3層	2.8	2.4	94.8	0.0	100	72.0	62.6		2432.9
古代Ⅵ1期	柏崎市	244	箕輪	流路2-5e層土器集中2	3.4	0.4	96.3	0.0	100	184.0	19.0		5223.0
古代Ⅵ1期	加茂市	245	太田	SD84	10.8	0.0	89.2	0.0	100	28.5			234.5
古代Ⅵ1期	上越市	246	五反田	SD178	8.5	1.2	90.4	0.0	100	370.0	50.0		3912.0
古代Ⅵ1期	加茂市	247	馬越	SE5	15.4	0.0	84.6	0.0	100	27.0			148.0
古代Ⅵ1期	加茂市	248	馬越	SK5	23.2	0.0	76.8	0.0	100	24.1			79.9
古代Ⅵ1期	加茂市	249	馬越	SD27	50.3	0.0	49.7	0.0	100	66.6			65.9
古代Ⅵ1期	加茂市	250	馬越	SD29	29.9	0.0	61.3	8.8	100	30.6			62.6
古代Ⅵ1期	加茂市	251	馬越	馬越Ⅵ1期合計	28.9	0.0	69.4	1.8	100	148.3			356.4
古代Ⅵ2・3期	新発田市	252	坂ノ沢CⅡ	10号土坑	5.9	0.0	89.8	4.3	100	22.5			345.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	253	牛道	SE73	3.5	0.5	96.0	0.0	100	13.0	2.0		360.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	254	牛道	SE234	3.7	2.2	94.1	0.0	100	5.0	3.0		128.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	255	牛道	SE255	5.0	0.7	94.3	0.0	100	23.0	3.0		430.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	256	牛道	SE184	1.3	0.0	98.7	0.0	100	1.0			75.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	257	牛道	SX136	0.5	0.0	99.5	0.0	100	2.0			377.0
古代Ⅵ2・3期	新潟市	258	牛道	SE73・184・234・255,SX136	3.1	0.6	96.3	0.0	100	44.0	8.0		1370.0
古代Ⅵ2・3期中心	新潟市	259	沖ノ羽Ⅴ	05 3区河1-1層	1.9	0.0	98.1	0.0	100	147.6			7626.2
古代Ⅵ2・3期	新潟市	260	沖ノ羽Ⅴ	05 2区SK12ab	0.2	0.0	99.8	0.0	100	1.1			447.1
古代Ⅵ2・3期	新潟市	261	沖ノ羽Ⅴ	05 3区SK291	0.0	0.0	100.0	0.0	100				546.1
古代Ⅵ2・3期	新潟市	262	沖ノ羽Ⅴ	05 3区SX357	3.1	0.1	96.8	0.0	100	25.9	1.1		820.1
古代Ⅵ2・3期	新潟市	263	沖ノ羽Ⅴ	Ⅵ2・3期合計	1.5	0.1	98.5	0.0	100	27.0	1.1	0.0	1813.3
古代Ⅵ2・3期	新潟市	264	沖ノ羽Ⅲ(県)	8下SK100	27.9	0.0	72.1	0.0	100	75.0	0.0		194.0
古代Ⅵ2・3期	加茂市	265	太田	SD47	5.1	6.7	88.2	0.0	100	14.0	18.5		242.5
古代Ⅵ2・3期	加茂市	266	馬越	SE6	28.7	7.2	64.1	0.0	100	44.6	11.2		99.7
古代Ⅵ2・3期	加茂市	267	馬越	SB8	31.3	0.0	68.8	0.0	100	16.2			35.6
古代Ⅵ2・3期	加茂市	268	馬越	SB8南溝	7.1	0.0	92.9	0.0	100	2.9			37.4
古代Ⅵ2・3期	加茂市	269	馬越	SK46	24.1	0.0	75.9	0.0	100	5.0			15.8
古代Ⅵ2・3期	加茂市	270	馬越	SK59	7.4	0.0	92.6	0.0	100	2.9			36.0
古代Ⅵ2・3期	加茂市	271	馬越	SK80	13.5	0.0	86.5	0.0	100	18.0			115.6
古代Ⅵ2・3期	加茂市	272	馬越	SK89	9.8	0.0	90.2	0.0	100	6.1			56.2
古代Ⅵ2・3期	加茂市	273	馬越	SK99	16.0	0.0	84.0	0.0	100	9.0			47.2
古代Ⅵ2・3期	加茂市	274	馬越	10号畝-2	1.4	0.0	98.6	0.0	100	2.0			142.0
古代Ⅵ2・3期	加茂市	275	馬越	Ⅵ2・3期合計	11.3	0.0	88.7	0.0	100	62.1			485.8
古代Ⅵ2・3期	柏崎市	276	箕輪	流路1-5e層土器集中1	0.6	0.6	98.8	0.0	100	78.0	70.5		12498.7
古代Ⅵ2・3期	上越市	277	五反田	SK179	7.3	1.2	91.5	0.0	100	74.0	12.0		928.0
古代Ⅵ期	新潟市	278	中谷内	SK45	0.7	0.0	99.3	0.0	100	0.3			40.0
古代Ⅵ期	新潟市	279	中谷内	SK37	27.2	0.0	72.8	0.0	100	18.0			48.2
古代Ⅵ期	新潟市	280	中谷内	SK33	0.0	0.0	100.0	0.0	100				6.8
古代Ⅵ期	新潟市	281	中谷内	SK38	28.2	0.0	71.8	0.0	100	18.0			45.7
古代Ⅵ期	新潟市	282	中谷内	SK35-1	31.6	0.0	68.4	0.0	100	13.0			28.1
古代Ⅵ期	新潟市	283	中谷内	SK35-2	3.8	0.0	96.2	0.0	100	2.9			72.0
古代Ⅵ期	新潟市	284	中谷内	SK57	100.0	0.0	0.0	0.0	100	4.0			
古代Ⅵ期	新潟市	285	中谷内	SK13	30.1	0.0	69.9	0.0	100	44.3			103.0
古代Ⅵ期	新潟市	286	中谷内	SK16	8.3	0.0	91.7	0.0	100	19.8			220.0
古代Ⅵ期	新潟市	287	中谷内	SK14	24.6	0.0	75.4	0.0	100	91.8			281.9
古代Ⅵ期	新潟市	288	中谷内	SK19	20.0	0.0	80.0	0.0	100	9.0			36.0
古代Ⅵ期	新潟市	289	中谷内	SK20	0.0	0.0	100.0	0.0	100				16.6
古代Ⅵ期	新潟市	290	中谷内	SK21	0.0	0.0	100.0	0.0	100				2.9
古代Ⅵ期	新潟市	291	中谷内	Ⅵ期合計	19.7	0.0	80.3	0.0	100	221.0			901.1
古代Ⅵ期	加茂市	292	馬越	SB11南溝	22.2	0.0	77.8	0.0	100	7.9			27.7
古代Ⅵ期	加茂市	293	馬越	SK49	29.3	0.0	70.7	0.0	100	6.1			14.8
古代Ⅵ期	加茂市	294	馬越	SD36	10.5	0.0	89.5	0.0	100	60.8			515.9
古代Ⅵ期	加茂市	295	馬越	SD53	6.1	0.0	93.9	0.0	100	6.1			94.7
古代Ⅵ期	新潟市	296	上郷Ⅱ	全体	27.6	1.0	71.4	0.0	100	4017.0	142.0		10379.0
古代Ⅴ期	新潟市	297	駒首潟	SB3018	16.6	7.9	75.5	0.0	100	6.1	2.9		27.7
古代Ⅵ期	新潟市	298	駒首潟	P180	51.8	0.0	48.2	0.0	100	25.9			24.1
古代Ⅵ期	新潟市	299	駒首潟	SE77	13.3	1.3	85.4	0.0	100	10.8	1.1		69.5
古代Ⅵ期	新潟市	300	駒首潟	SE510	18.3	0.0	81.7	0.0	100	6.8			30.6
古代Ⅵ期	新潟市	301	駒首潟	SE708	3.4	2.6	94.0	0.0	100	2.9	2.2		78.5
古代Ⅵ期	新潟市	302	駒首潟	SE811	48.5	0.0	51.5	0.0	100	46.1			49.0
古代Ⅵ期	新潟市	303	駒首潟	SE983	15.5	0.0	84.5	0.0	100	6.1			33.5
古代Ⅵ期	新潟市	304	駒首潟	SE1759	2.0	0.0	98.0	0.0	100	1.1			53.3
古代Ⅵ期	新潟市	305	駒首潟	SE2357	8.8	48.8	42.4	0.0	100	6.5	36.0		31.3
古代Ⅵ期	新潟市	306	駒首潟	SK22	59.3	12.1	28.6	0.0	100	58.3	11.9		28.1
古代Ⅵ期	新潟市	307	駒首潟	SK24	4.6	0.0	95.4	0.0	100	2.2			45.0
古代Ⅵ期	新潟市	308	駒首潟	SK28	22.1	0.0	77.9	0.0	100	6.8			24.1
古代Ⅵ期	新潟市	309	駒首潟	SK75	17.0	16.6	66.4	0.0	100	14.4	14.0		56.2
古代Ⅵ期	新潟市	310	駒首潟	SK76	1.7	10.9	87.4	0.0	100	1.1	6.8		55.1
古代Ⅵ期	新潟市	311	駒首潟	SK142	46.7	6.7	46.7	0.0	100	15.1	2.2		15.1
古代Ⅵ期	新潟市	312	駒首潟	SK143	64.8	2.4	32.8	0.0	100	29.2	1.1		14.8
古代Ⅵ期	新潟市	313	駒首潟	SK156	29.5	5.1	65.4	0.0	100	52.2	9.0		115.9
古代Ⅵ期	新潟市	314	駒首潟	SK707	0.0	0.0	100.0	0.0	100				47.2
古代Ⅵ期	新潟市	315	駒首潟	SK741	26.5	0.0	73.5	0.0	100	19.1			52.9
古代Ⅵ期	新潟市	316	駒首潟	SK990	5.8	0.0	94.2	0.0	100	4.0			64.1

膳		蓋	器台	その他	合計		破片数		文献	巻次	備考
小型壺	その他				全て	器台・蓋除く	全て	器台・蓋除			
		50.0			692.0	642.0	1,314	1,302	春日ほか2003	第123集	
					176.0	176.0	340	338	春日ほか2003	第123集	
					270.0	270.0	205	204	春日ほか2003	第123集	
		5.0			272.0	267.0	272	270	春日ほか2003	第123集	
		55.0			1,675.0	1,620.0	2,640	2,622	春日ほか2003	第123集	
					2,567.5	2,567.5	31,959	31,959	遠藤・澤野ほか2014	−	
		0.0			5,426.0	5,426.0	2,479	2,478	春日・坂上ほか2015	第254集	
		1.0			264.0	263.0			伊藤2011	(21)	
		38.0			4,366.0	4,328.0	4,009	4,003	渡邊ほか2005	第138集	
					175.0	175.0	205	205	伊藤2005	(14)	
					104.0	104.0	82	82	伊藤2005	(14)	
					132.5	132.5	111	111	伊藤2005	(14)	
				9.0	102.2	102.2	154	154	伊藤2005	(14)	
				9.0	513.7	513.7	398	398	伊藤2005	(14)	
				16.5	384.0	384.0	234	234	渡邊ほか2001	第23-2	
		3.0			378.0	375.0	887	886	立木(土橋)ほか1999	第91集	
					136.0	136.0	1,203	1,203	立木(土橋)ほか1999	第91集	
		6.0			462.0	456.0	2,663	2,655	立木(土橋)ほか1999	第91集	
					76.0	76.0	476	476	立木(土橋)ほか1999	第91集	
					379.0	379.0	985	985	立木(土橋)ほか1999	第91集	
		9.0			1,431.0	1,422.0	6,214	6,205	立木(土橋)ほか1999	第91集	
11.2		28.1			7,813.1	7,785.0	82,344	82,014	遠藤・澤野ほか2014	−	
					448.2	448.2	2,480	2,480	遠藤・澤野ほか2014	−	
					546.1	546.1	6,181	6,181	遠藤・澤野ほか2014	−	
					847.1	847.1	4,581	4,581	遠藤・澤野ほか2014	−	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,841.4	1,841.4	13,242	13,242	遠藤・澤野ほか2014	−	
					269.0	269.0	645	644	春日ほか2003	第123集	
					275.0	275.0	462	462	伊藤2011	(21)	
					155.5	155.5	142	142	伊藤2005	(14)	
		2.9			54.7	51.8	64	64	伊藤2005	(14)	
					40.3	40.3	30	30	伊藤2005	(14)	
					20.9	20.9	8	8	伊藤2005	(14)	
					38.9	38.9	41	41	伊藤2005	(14)	
					133.6	133.6	59	59	伊藤2005	(14)	
					62.3	62.3	23	23	伊藤2005	(14)	
					56.2	56.2	63	65	伊藤2005	(14)	
		2.0			146.0	144.0	108	107	伊藤2005	(14)	
		4.9			552.8	547.9	538	539	伊藤2005	(14)	
		20.0			12,667.2	12,647.2	8,030	8,024	春日・坂上ほか2015	第254集	
					1,014.0	1,014.0	1,301	1,301	渡邊ほか2005	(14)	
					40.24	40.24	47	47	立木ほか1999	−	
					66.24	66.24	130	130	立木ほか1999	−	
					6.84	6.84	8	8	立木ほか1999	−	
					63.72	63.72	73	73	立木ほか1999	−	
					41.04	41.04	125	125	立木ほか1999	−	
					74.88	74.88	90	90	立木ほか1999	−	
					3.96	3.96	13	13	立木ほか1999	−	
					147.24	147.24	52	52	立木ほか1999	−	
					239.76	239.76	444	444	立木ほか1999	−	
		1.1			374.76	373.68	677	676	立木ほか1999	−	
					45.00	45.00	72	72	立木ほか1999	−	
					16.56	16.56	43	43	立木ほか1999	−	
					2.88	2.88	7	7	立木ほか1999	−	
		1.1			1,123.12	1,122.04	1,781	1,780	立木ほか1999	−	
					35.6	35.6	13	13	伊藤2005	(14)	
					20.9	20.9	81	80	伊藤2005	(14)	
		2.9			579.6	576.7	564	562	伊藤2005	(14)	
					100.8	100.8	61	61	伊藤2005	(14)	
		149.0			14,687.0	14,538.0			上野・春日ほか1997	第87集	
					36.7	36.7	39	38	渡邊・河合ほか2009		
					50.0	50.0	36	36	渡邊・河合ほか2009	−	
					81.4	81.4	83	83	渡邊・河合ほか2009	−	
					37.4	37.4	36	36	渡邊・河合ほか2009	−	
		6.8			90.4	83.5	66	61	渡邊・河合ほか2009	−	
					95.0	95.0	98	98	渡邊・河合ほか2009	−	
					39.6	39.6	59	59	渡邊・河合ほか2009	−	
					54.4	54.4	33	33	渡邊・河合ほか2009	−	
					73.8	73.8	68	68	渡邊・河合ほか2009	−	
					98.3	98.3	187	187	渡邊・河合ほか2009	−	
		36.0			83.2	47.2	197	186	渡邊・河合ほか2009	−	
					31.0	31.0	65	65	渡邊・河合ほか2009	−	
		1.1			85.7	84.6	377	376	渡邊・河合ほか2009	−	
					63.0	63.0	124	124	渡邊・河合ほか2009	−	
					32.4	32.4	77	77	渡邊・河合ほか2009	−	
					45.0	45.0	101	101	渡邊・河合ほか2009	−	
		20.2			197.3	177.1	395	394	渡邊・河合ほか2009	−	
		29.9			77.0	47.2	47	46	渡邊・河合ほか2009	−	
					72.0	72.0	150	150	渡邊・河合ほか2009	−	
					68.0	68.0	43	43	渡邊・河合ほか2009	−	

第6表　土器・陶磁器の機能別比率(4)

時期	市町村	No.	遺跡名	遺構名	比率					煮炊	貯蔵	食	
					煮炊	貯蔵	食膳	その他	合計			高杯	鉢・椀等
古代Ⅵ期	新潟市	317	駒首潟	SK1008	34.6	0.0	65.4	0.0	100	10.1			19.1
古代Ⅵ期	新潟市	318	駒首潟	SK1515	5.1	0.0	94.9	0.0	100	2.2			40.0
古代Ⅵ期	新潟市	319	駒首潟	SK1966	15.8	0.0	84.2	0.0	100	9.0			47.9
古代Ⅵ期	新潟市	320	駒首潟	SK2500	3.3	6.7	90.0	0.0	100	4.0	7.9		106.9
古代Ⅵ期	新潟市	321	駒首潟	SD150	31.0	0.0	69.0	0.0	100	40.3			89.6
古代Ⅵ期	新潟市	322	駒首潟	SD34	37.0	25.9	37.0	0.0	100	7.2	5.0		7.2
古代Ⅵ期	新潟市	323	駒首潟	SD82	17.1	3.7	79.2	0.0	100	164.9	35.6		763.2
古代Ⅵ期	新潟市	324	駒首潟	SD403	31.0	1.6	67.4	0.0	100	41.4	2.2		90.0
古代Ⅵ期	新潟市	325	駒首潟	SD422	19.6	4.1	76.3	0.0	100	61.6	13.0		240.1
古代Ⅵ期	新潟市	326	駒首潟	SD697	36.2	0.0	63.8	0.0	100	65.5			115.6
古代Ⅵ期	新潟市	327	駒首潟	SD1350	16.2	0.0	83.8	0.0	100	5.8			29.9
古代Ⅵ期	新潟市	328	駒首潟	SD2056	32.4	0.0	67.6	0.0	100	25.6			53.3
古代Ⅵ期	新潟市	329	駒首潟	SD2061	24.4	8.7	66.9	0.0	100	22.3	7.9		61.2
古代Ⅵ期	新潟市	330	駒首潟	SD2502	8.4	0.0	91.6	0.0	100	13.3			144.4
古代Ⅵ期	新潟市	331	駒首潟	Ⅵ期合計	21.5	4.3	74.2	0.0	100	787.7	158.8		2724.1
古代Ⅴ～Ⅵ期	新潟市	332	駒首潟	旧河川	21.0	3.3	75.7	0.0	100	892.1	138.2		3212.6
古代Ⅵ期	新潟市	333	大沢谷内	SD34（18次）	36.2	0.0	63.8	0.0	100	128.2			226.1
古代Ⅵ期	上越市	334	今池	SD3	7.3	1.8	90.9	0.0	100	424.0	102.0		5267.0
古代Ⅵ期	上越市	335	狐宮	SK722	22.7	0.0	77.3	0.0	100	10.0	0.0		34.0
古代Ⅵ期	妙高市	336	東浦	全体	32.8	11.5	55.7	0.0	100	599.0	210.0		1017.0
古代Ⅵ期	糸魚川市	337	山岸	SR3194-4～6層	8.6	0.0	91.4	0.0	100	15.0			160.0
古代Ⅵ期	糸魚川市	338	山岸	SR3194-3層	1.9	0.0	98.1	0.0	100	3.0			159.0
古代Ⅵ期	糸魚川市	339	山岸	SD1-2層	9.0	3.0	88.1	0.0	100	18.2	6.0		179.0
古代Ⅵ期	糸魚川市	340	山岸	SD10-2・3層	9.3	0.0	90.7	0.0	100	15.1			147.5
古代Ⅵ期	糸魚川市	341	山岸	SD6008	1.2	0.0	98.8	0.0	100	3.0			246.0
古代Ⅵ期	糸魚川市	342	山岸	Ⅵ期合計	5.7	0.6	93.7	0.0	100	54.3	6.0	0.0	891.5
古代Ⅵ期？	妙高市	343	関川谷内	H1号竪穴	7.0	0.0	93.0	0.0	100	14.4			190.8
古代Ⅵ期？	妙高市	344	関川谷内	H1号竪穴床造成土	20.0	0.0	80.0	0.0	100	10.8			43.2
古代Ⅵ期？	妙高市	345	関川谷内	H2号竪穴	6.3	1.3	92.3	0.0	100	68.4	14.4		997.2
古代Ⅵ期？	妙高市	346	関川谷内	B地点1層	8.3	5.2	86.5	0.0	100	28.8	18.0		298.8
古代Ⅵ期？	妙高市	347	関川谷内	合計	7.3	1.9	90.8	0.0	100	122.4	32.4		1530.0
古代Ⅴ～Ⅶ期	上越市	348	五反田	SD435	7.3	1.4	91.3	0.0	100	544.0	106.0		6786.0
古代Ⅶ1期	新発田市	349	坂ノ沢CⅡ	1号竪穴建物	23.4	1.6	73.8	1.2	100	90.0	6.0		283.5
古代Ⅶ1期	新潟市	350	沖ノ羽Ⅳ	1区SK39	11.1	1.8	87.2	0.0	100	69.1	11.2		545.0
古代Ⅶ1期	新潟市	351	沖ノ羽Ⅳ	1区SK51	2.9	0.0	97.1	0.0	100	9.0			304.9
古代Ⅶ1期	新潟市	352	沖ノ羽Ⅳ	1区SK86	16.0	0.0	84.0	0.0	100	2.9			15.1
古代Ⅶ1期	新潟市	353	沖ノ羽Ⅳ	1区SK88	5.9	0.0	94.1	0.0	100	19.8			316.1
古代Ⅶ1期	新潟市	354	沖ノ羽Ⅳ	1区SD2	11.7	1.1	87.2	0.0	100	22.0	2.2		164.2
古代Ⅶ1期	新潟市	355	沖ノ羽Ⅳ	1区SD4	5.3	0.0	94.7	0.0	100	3.2			58.3
古代Ⅶ1期	新潟市	356	沖ノ羽Ⅳ	Ⅶ1期合計	8.2	0.9	91.0	0.0	100	126.0	13.3		1403.6
古代Ⅶ1期	新潟市	357	沖ノ羽Ⅴ	06 2区SD94	0.7	0.0	99.3	0.0	100	6.8			1008.0
古代Ⅶ1期	加茂市	358	馬越	SK61	13.1	0.0	86.9	0.0	100	7.9			52.6
古代Ⅶ1期	加茂市	359	馬越	SK62	26.6	0.6	64.2	8.7	100	51.8	1.1		125.3
古代Ⅶ1期	加茂市	360	馬越	SK65	13.5	0.0	86.5	0.0	100	18.0			115.6
古代Ⅶ1期	加茂市	361	馬越	SE8	28.8	0.0	71.2	0.0	100	36.0			88.9
古代Ⅶ1期	加茂市	362	馬越	SK98	3.7	0.0	96.3	0.0	100	4.0			104.0
古代Ⅶ1期	加茂市	363	馬越	SD49	10.8	0.0	77.2	12.0	100	6.1			43.9
古代Ⅶ1期	加茂市	364	馬越	Ⅶ1期合計	18.2	0.2	78.1	3.5	100	123.8	1.1		530.3
古代Ⅶ1期	上越市	365	五反田	SX3	7.9	1.1	83.5	7.5	100	85.0	12.0		896.0
古代Ⅶ1期	上越市	366	五反田	SK50	7.5	0.3	92.2	0.0	100	48.0	2.0		590.0
古代Ⅶ1期	上越市	367	五反田	SX3・SK50	7.8	0.8	86.7	4.7	100	133.0	14.0		1486.0
古代Ⅶ１期	糸魚川市	368	山岸	SR7752	3.2	3.2	93.5	0.0	100	16.0	16.0		464.0
古代Ⅶ1期	糸魚川市	369	山岸	SR3194-2b層	5.1	0.5	94.4	0.0	100	114.0	11.0		2101.5
古代Ⅶ１期	糸魚川市	370	山岸	SR7752・3914-2b層	4.8	1.0	94.2	0.0	100	130.0	27.0		2565.5
古代Ⅶ1期	糸魚川市	371	角地田	SD522	0.0	2.6	97.4	0.0	100		5.0		184.0
古代Ⅶ1期	糸魚川市	372	角地田	SD853	1.4	2.8	95.8	0.0	100	11.0	21.0		730.0
古代Ⅶ1期	糸魚川市	373	角地田	SD522・853	1.2	2.7	96.1	0.0	100	11.0	26.0		914.0
古代Ⅶ2期	糸魚川市	374	山岸	SR3194-2層	3.8	3.8	92.4	0.0	100	53.0	53.5		1296.5
古代Ⅶ2・3期	柏崎市	375	箕輪	流路1・2-3´層	0.0	0.6	99.4	0.0	100		2.0		327.5
古代Ⅶ2・3期	柏崎市	376	箕輪	流路1・2-3層	4.1	1.1	94.8	0.0	100	11.0	3.0		255.5
古代Ⅶ2・3期	柏崎市	377	箕輪	流路1・2-2´層	0.5	0.3	99.2	0.0	100	4.0	2.0		732.5
古代Ⅷ期	柏崎市	378	箕輪	流路1・2-2層	6.3	7.8	85.9	0.0	100	8.0	10.0		109.5
古代Ⅷ期	糸魚川市	379	角地田	SK1	2.1	0.0	97.9	0.0	100	5.0			229.0
古代Ⅷ期	糸魚川市	380	角地田	SK557	0.0	0.7	99.3	0.0	100		5.0		707.0
古代Ⅷ期	糸魚川市	381	角地田	SK698	0.7	0.5	98.8	0.0	100	3.0	2.0		422.0
古代Ⅷ期	糸魚川市	382	角地田	SX18周辺	0.0	0.0	100.0	0.0	100				141.0
古代Ⅷ期	糸魚川市	383	角地田	Ⅷ期合計	1.0	1.0	98.0	0.0	100	16.0	17.0		1608.5
珠洲Ⅰ期	糸魚川市	384	山岸	4区Ⅳb・Ⅳc層	0.0	0.0	100.0	0.0	100				96.0
珠洲Ⅰ期	糸魚川市	385	山岸	SR3194-1層	0.0	0.0	97.1	2.9	100				200.5
珠洲Ⅰ期	糸魚川市	386	山岸	SR512-6・7層	0.0	1.9	98.1	0.0	100		4.0		208.0
珠洲Ⅰ期	糸魚川市	387	山岸	3区Ⅲe層	0.0	8.7	82.3	9.0	100		13.0		123.5
珠洲Ⅰ期	糸魚川市	388	山岸	SD8403	0.0	1.2	76.6	22.3	100		0.6		39.5
珠洲Ⅳ期	糸魚川市	389	山岸	SD1450	0.0	7.8	76.9	15.3	100		45.0		446.5
珠洲Ⅳ期	糸魚川市	390	山岸	SD1066・1450C	0.0	11.4	80.7	7.9	100		32.0		226.0
珠洲Ⅳ期中心	糸魚川市	391	山岸	2区Ⅲb2層（遺構含む）	0.0	10.0	76.8	13.2	100		183.0		1406.0
弥生後期	刈羽村	392	西谷遺跡	全体	66.7	23.5	9.8		100	340	120	20	30
弥生後期	妙高市	393	上ノ平・矢代山	2号住居	48.3	34.5	17.2		100	28	20	4	6
弥生後期	妙高市	394	百両山	10号土坑	66.0	19.6	14.4		100	64	19	10	4
古墳１様式Ⅰ3期	新発田市	395	野中土手付	全体	68.8	13.1	18.1		100	589.0	112.0	81.0	14.0

膳		蓋	器台	その他	合計		破片数		文献	巻次	備考
小型壺	その他				全て	器台・蓋除く	全て	器台・蓋除			
					29.2	29.2	44	44	渡邊・河合ほか2009	−	
					42.1	42.1	28	28	渡邊・河合ほか2009	−	
		4.0			60.8	56.9	71	67	渡邊・河合ほか2009	−	
					118.8	118.8	68	68	渡邊・河合ほか2009	−	
					130.0	130.0	258	258	渡邊・河合ほか2009	−	
					19.4	19.4	44	44	渡邊・河合ほか2009	−	
					963.7	963.7	729	729	渡邊・河合ほか2009	−	
		22.0			155.5	133.6	349	336	渡邊・河合ほか2009	−	
					314.6	314.6	305	304	渡邊・河合ほか2009	−	
		12.2			193.3	181.1	361	350	渡邊・河合ほか2009	−	
					35.6	35.6	81	81	渡邊・河合ほか2009	−	
					78.8	78.8	102	102	渡邊・河合ほか2009	−	
					91.4	91.4	111	111	渡邊・河合ほか2009	−	
					157.7	157.7	371	371	渡邊・河合ほか2009	−	
		132.1			3,802.7	3,670.5	5,164	5,116	渡邊・河合ほか2009	−	
		150.5			4,393.4	4,243.0	3,408	3,380	渡邊・河合ほか2009	−	
		2.9			357.1	354.2	379	378	渡邊・河合ほか2009	−	
		28.0			5,821.0	5,793.0	3,309	3,302	坂井ほか1984	第35集	
		0.0			44.0	44.0	22	22	飯坂・野水ほか2007	第171集	
		28.0			1,854.0	1,826.0	不明	不明	高橋2006	第170集	
					175.0	175.0	188	188	春日ほか2012	第228集	
					162.0	162.0	137	137	春日ほか2012	第228集	
					203.2	203.2	231	231	春日ほか2012	第228集	
					162.6	162.6	247	247	春日ほか2012	第228集	
		9.5			258.5	249.0	198	196	春日ほか2012	第228集	
0.0	0.0	9.5	0.0	0.0	961.3	951.8	1,001	999	春日ほか2012	第228集	
					205.2	205.2	不明	不明	小池ほか1998	第90集	
					54.0	54.0	不明	不明	小池ほか1998	第90集	
					1,080.0	1,080.0	不明	不明	小池ほか1998	第90集	
					345.6	345.6	不明	不明	小池ほか1998	第90集	
					1,684.8	1,684.8	不明	不明	小池ほか1998	第90集	
		100.0			7,536.0	7,436.0	10,820	10,771	渡邊ほか2005	第138集	
				4.5	384.0	384.0	615	614	渡邊ほか2001	第23-2	
					625.3	625.3	6,238	6,238	立木・澤野ほか2008	−	
					313.9	313.9	3,792	3,792	立木・澤野ほか2008	−	
					18.0	18.0	177	177	立木・澤野ほか2008	−	
					335.9	335.9	1,963	1,963	立木・澤野ほか2008	−	
					188.3	188.3	1,877	1,877	立木・澤野ほか2008	−	
					61.6	61.6	1,568	1,568	立木・澤野ほか2008	−	
					1,543.0	1,543.0	15,615	15,615	立木・澤野ほか2008	−	
					1,014.8	1,014.8	8,886	8,886	遠藤・澤野ほか2014	−	
					60.5	60.5	65	65	伊藤2005	(14)	
				16.9	195.1	195.1	129	128	伊藤2005	(14)	
					133.6	133.6	235	235	伊藤2005	(14)	
					124.9	124.9	64	64	伊藤2005	(14)	
					108.0	108.0	44	43	伊藤2005	(14)	
				6.8	56.9	56.9	26	26	伊藤2005	(14)	
0.0	0.0	0.0	0.0	23.8	679.0	679.0	563	561	伊藤2005	(14)	
		20.0		80.0	1,093.0	1,073.0	1,990	1,894	渡邊ほか2005	第138集	
					640.0	640.0	727	727	渡邊ほか2005	第138集	
		20.0		80.0	1,733.0	1,713.0	2,717	2,621	渡邊ほか2005	第138集	
					496.0	496.0	554	554	春日ほか2012	第228集	
					2,226.5	2,226.5	2,786	2,783	春日ほか2012	第228集	
		0.0	0.0	0.0	2,722.5	2,722.5	3,340	3,337	春日ほか2012	第228集	
					189.0	189.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					762.0	762.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					951.0	951.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					1,403.0	1,403.0	2,110	2,107	春日ほか2012	第228集	
		1.0			330.5	329.5	986	985	春日・坂上ほか2015	第254集	
		0.0			269.5	269.5	1,107	1,105	春日・坂上ほか2015	第254集	
		2.0			740.5	738.5	1,646	1,645	春日・坂上ほか2015	第254集	
		6.0			133.5	127.5	1,598	1,591	春日・坂上ほか2015	第254集	
					234.0	234.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					712.0	712.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					427.0	427.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					141.0	141.0	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
		6.0			1,647.5	1,641.5	不明	不明	實川・長澤ほか2009	第191集	
					96.0	96.0	136	136	春日ほか2012	第228集	
				6.0	206.5	206.5	318	318	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
					212.0	212.0	194	194	春日ほか2012	第228集	
				13.5	150.0	150.0	394	394	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
				11.5	51.6	51.6	120	120	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
				89.0	580.5	580.5	498	498	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
				22.0	280.0	280.0	310	310	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
				241.0	1,830.0	1,830.0	3,030	3,030	春日ほか2012	第228集	その他の大半は調理具(擂り鉢など)
		5	40		555	510	不明	不明	滝沢ほか1992	第1集	個体識別法
		2	2		62	58	不明	不明	滝沢1994		個体識別法
		5	9		111	97	不明	不明	滝沢1994		個体識別法
		199.0	60.0		1,055.0	796.0	187	160	嶋田・滝沢ほか2005	第3集	

第7表　土器・陶磁器の機能別比率(5)

⑭　古代Ⅴ期は、煮炊具 20 ～ 35％・食膳具 65 ～ 70％の土器群（184 新潟市江南区駒首潟遺跡Ⅴ期合計、191 同市秋葉区沖ノ羽遺跡Ⅲ（県）Ⅴ期合計、198 同市同区中谷内遺跡Ⅴ期合計）が多い。ただし、上越地域や蒲原地域の一部で、食膳具の比率が 90％前後となる土器群（199 新潟市秋葉区寺道上遺跡ＳＫ３、220 上越市五反田遺跡ＳＤ 435B、228 上越市細田遺跡ＳＤ４など）も確認できる。

⑮　古代Ⅲ期から古代Ⅴ期にかけては煮炊具が漸減し、食膳具が漸増する傾向が比較的明瞭である。

（５）古代Ⅵ～Ⅷ期（９世紀後半から１１世紀）

⑯　古代Ⅵ期は、煮炊具が 10％以下で、食膳具が 90％強となる土器群（258 新潟市江南区牛道遺跡ＳＥ 73・184・234・255, ＳＸ 136、263 同市秋葉区沖ノ羽遺跡Ⅴ－Ⅵ２・３期合計、244 柏崎市箕輪遺跡流路２－ 5e 層土器集中２、276 同遺跡１－ 5e 層土器集中１、334 上越市今池遺跡ＳＤ３、342 糸魚川市山岸遺跡Ⅵ期合計、347 妙高市関川谷地遺跡合計）が多いが、煮炊具が約 20％以上で、食膳具が 70％前後の土器群（236 新潟市江南区日水遺跡全体、331 同市同区駒首潟遺跡Ⅵ期合計、296 同市同区上郷遺跡Ⅱ全体）も確認できる。

⑰　古代Ⅶ・Ⅷ期はさらに煮炊具が減少し、煮炊具が 10％を超える土器群は僅かである。

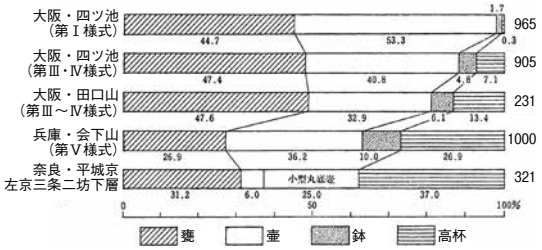
３　他地域との比較

弥生時代後期～古墳時代中期については、畿内を対象とした都出比呂志の研究［都出 1982］、富山県の古墳１・２様式を対象とした小田木治太郎の研究［小田木 1989］、加賀地域の弥生時代後期から古墳４様式を対象とした田嶋明人の研究［田嶋 1991］、加賀・越中の古墳１様式を対象とした高橋浩二の研究［高橋 1995］、加賀地域の古墳２様式から３様式を対象とした望月精司・向井裕知の研究［望月ほか 1995・向井 1999］などがある。また、古代では古代Ⅰ期を対象とした望月精司の報告［望月ほか 1995］や、Ⅰ～Ⅵ期を対象とした宇野隆夫の研究がある［宇野 1991］[5)]。

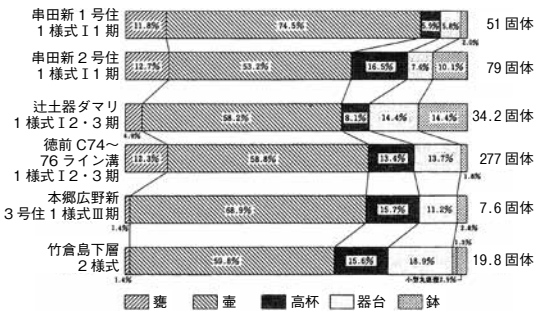
都出は近畿地方における弥生時代前期から古墳３様式の土器群の器種構成比率の変化を明らかにし、弥生時代後期に高杯が増加することを指摘している。同様な傾向は越後でも指摘できる可能性が高いが、兵庫県会下山遺跡では高杯が約 27％の比率を占めるのに対し（第１図）、越後では 10％程度である。

越中の古墳１～２様式の器種構成比率を検討した小田木は、器種構成比率に大きな変化が無いことを指摘している。小田木によればこの期間を通じ、甕は 60％前後、高杯・鉢は合計 20％前後である（比率は器台を含めたもの、第２図）。これは、同時期の上越地方と比較すると高杯・鉢の比率が高いが、阿賀北

時期	遺跡名	遺構名	比率			
			煮炊	貯蔵	食膳	その他
古墳3様式	石川県小松市念仏林南遺跡	27号住居	34.4	2.2	57.0	6.5
古代Ⅰ期(古)	石川県小松市念仏林南遺跡	15･18･19･23･29号住居	59.8	14.3	25.7	0.2
古代Ⅰ期(新)	石川県小松市念仏林南遺跡	3･11･14･16号住居	65.7	10.5	23.8	0.0
古代Ⅰ期	石川県羽咋市寺家遺跡	SBT30･32･34	38.7	19.4	38.7	3.2
古代Ⅱ期	石川県羽咋市寺家遺跡	SBT25･33･35	50.0	20.0	30.0	
古代Ⅲ1期	石川県羽咋市寺家遺跡	SBT10･16号住居	63.2	10.5	26.3	
古代Ⅲ2期	石川県羽咋市寺家遺跡	SBT３･11･19･21･26･29号住	43.3	7.7	49.0	
古代Ⅳ期	石川県羽咋市寺家遺跡	SBT4･5･12･17･22･24	26.1	2.2	71.7	
古代Ⅴ期	石川県羽咋市寺家遺跡	2号井戸周辺土器溜り	1.1	1.1	97.8	0.1
古代Ⅵ1期	石川県羽咋市寺家遺跡	排水祭祀	11.8	4.5	83.7	
古代Ⅵ2･3～Ⅶ期	石川県羽咋市寺家遺跡	4F1･2、4G2第2層	4.5	9.1	86.4	
古代Ⅲ～Ⅶ1期？	富山県高岡市美野下遺跡	全体	3.6	5.9	90.5	0.1
古代Ⅴ～Ⅵ期	富山県中新川郡立山町浦田遺跡	全体	43.6	2.3	54.0	
古代Ⅵ期	富山県下新川郡入善町じょうべのま遺跡	Ａ地区	9.7	4.9	85.4	
古代Ⅶ期？	富山県下新川郡入善町じょうべのま遺跡	Ｕ地区	6.4	18.6	75.0	



第1図　近畿地方の弥生・古墳時代の器種構成比率
［都出1982］



第2図　北陸地方の古墳早・前期の器種構成比率
［小田木1989］

時期		総点数	甕	壺	高杯	器台	鉢	他	備考
			点数 比率	点数 比率	点数 比率	点数 比率	点数 比率	点数 比率	
4様式後半		547	368 0.673	51 0.093	61 0.112	21 0.038	18 0.033	28 0.051	西念・南新保遺跡
弥生終末	Ⅰ期	334	150 0.449	64 0.192	43 0.129	27 0.081	38 0.114	12 0.036	奥原，宿東山遺跡
	Ⅱ期	670	323 0.482	73 0.109	102 0.152	62 0.093	42 0.063	68 0.101	近岡遺跡
1様式	Ⅰ期	604	228 0.377	84 0.139	132 0.219	72 0.119	27 0.045	61 0.101	漆町遺跡
	Ⅱ・Ⅲ期	381	196 0.514	66 0.173	34 0.089	54 0.142	24 0.063	7 0.018	漆町，永町遺跡
2様式	Ⅰ2期	73	34 0.466	10 0.137	16 0.219	3 0.041	8 0.110	2 0.027	漆町遺跡
	Ⅱ期	87	53 0.609	9 0.103	22 0.253	1 0.011	2 0.023	0 0.000	漆町遺跡
3様式	Ⅱ期	277	84 0.303	11 0.040	104 0.375	0 0.000	65 0.235	13 0.047	漆町，永町遺跡
4様式	Ⅱ1期	91	33 0.363	14 0.154	13 0.143	0 0.000	31 0.341	0 0.000	高堂遺跡
古代	7世紀	120	60 0.500	11 0.092	16 0.133	0 0.000	29 0.242	4 0.033	漆町遺跡

第8表　加賀地域の弥生・古墳時代の器種構成比率［田嶋1991］

個体数							個体数	個体数（蓋除く）	破片数	備考	文献
煮炊	貯蔵	高杯	椀・鉢他	小型壺	その他	蓋					
32	2	26	8	19	6		93	93	不明	個体識別	望月ほか1995
284	68	42	80		1	38	513	475	不明	個体識別	望月ほか1995
339	54	20	103			44	560	516	不明	個体識別	望月ほか1995
12	6	2	10		1	6	37	31	不明	個体識別	宇野1991
10	4		6			4	24	20	不明	個体識別	宇野1991
12	2		5			6	25	19	不明	個体識別	宇野1991
45	8	1	50			10	114	104	不明	個体識別	宇野1991
12	1		33			9	55	46	不明	個体識別	宇野1991
32	32		2,995		4	2,376	5,440	3,064	1,386	口縁部残存率	宇野1991
180	68		1,274			292	1,814.4	1,522.8	549	口縁部残存率	宇野1991
1	2		19				22	22	不明	個体識別	宇野1991
168.0	275.7		4232.7		3		4,679.4	不明	8,938	口縁部残存率	宇野1991
390.0	21.0		483.0				894.0	不明	1,260	口縁部残存率	宇野1991
123.3	63.0		1091.1				1,277.4	不明	5,651	口縁部残存率	宇野1991
7.2	20.8		84.0				112.0	不明	681	口縁部残存率	宇野1991

第９表　他地域の器種構成比率

地域とは比較的近似した数値である。

加賀地域の弥生時代中期（第４様式）から７世紀の器種構成比率を検討した田嶋は、弥生終末様式に器台・鉢が急増すること、古墳２様式に壺・器台・鉢が減少し、甕・高杯が増加すること、古墳３様式には供膳器（本稿の食膳具）が飛躍的に増加することなどを指摘している（第８表）。このような傾向は、古墳２様式の高杯の増加を除けば、越後とほぼ一致する（越後でも古墳２様式に高杯が増加する土器群は確認できるが、普遍的ではない可能性が高い）。ただし、越後と比較すると南加賀は全ての時期で、煮炊具の比率が低い傾向が指摘できる。

加賀地域の７世紀（古代Ⅰ期か）は古墳４様式と比較すると食膳具が減少している（第８表）。田嶋が石川県小松市漆町遺跡を対象として示した比率は、望月が集計した石川県小松市念仏林南遺跡や、越後の古代Ⅰ期の比率と近似する。ただし、石川県羽咋市寺家遺跡ではこれより食膳具・貯蔵具が高率となっていおり、この差の原因が何によるものかは不明である。

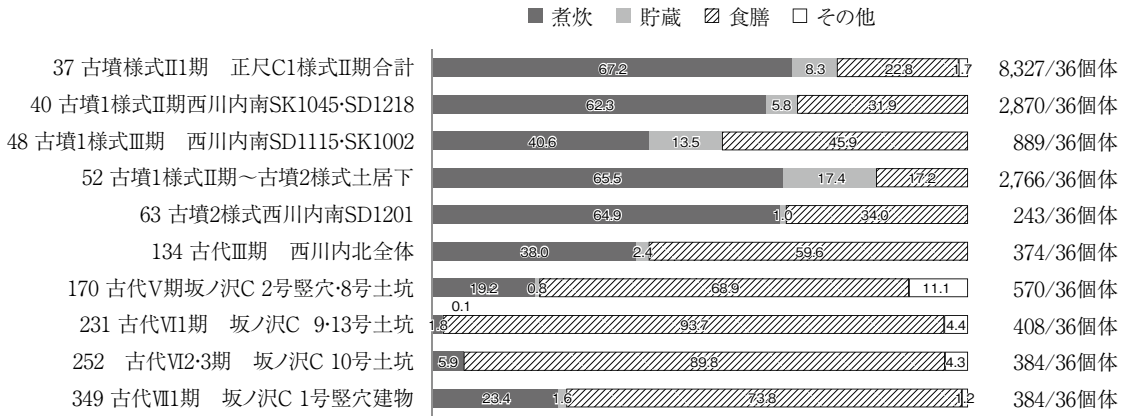
古代Ⅱ～Ⅳ期は石川県羽咋市寺家遺跡のデータがある。越後と比較するとⅢ～Ⅳ期は比較的近似した数値である。Ⅱ期の差が何によるものかは不明であるが、大沢谷内遺跡ＳＸ 945 は祭祀に伴い廃棄した土器群と報告されており［細野ほか 2012］、このことが竪穴建物出土資料の寺家遺跡との差を生じさせている可能性が高いが、Ⅱ期に食膳が急増し、Ⅲ期に一端減少した後、Ⅳ期以降再び増加する地域が存在した可能性も考えうる。

古代Ⅴ～Ⅶ期は富山・石川県の多くの土器群で、食膳具の占める比率が 75 ～ 90％となっており、越後と近似した数値である。ただし、富山県立山町浦田遺跡にみるように、煮炊具が 40％を超える土器群は、越後では稀である。

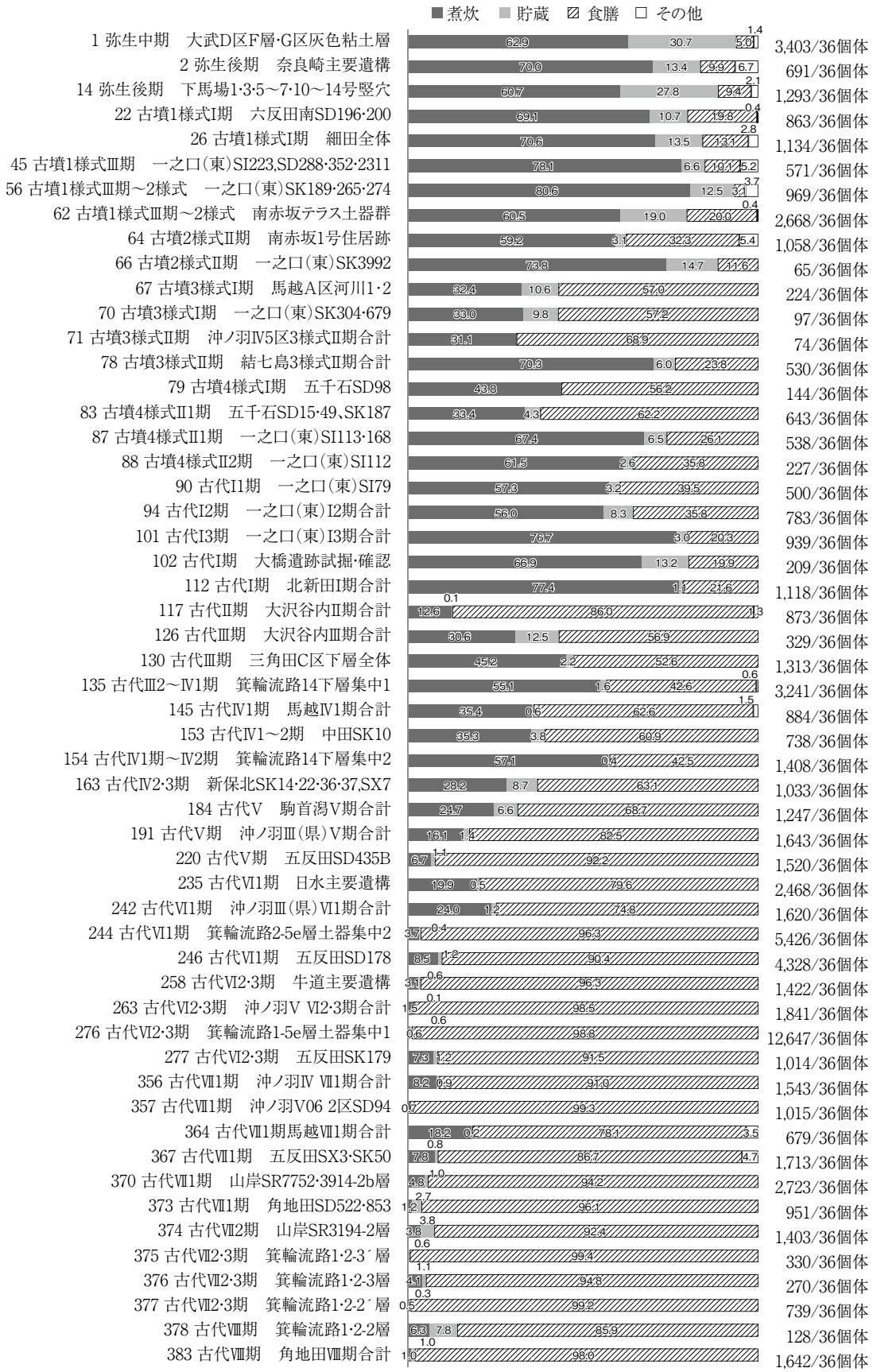
まとめ

「３　他地域との比較」を踏まえ、越後における土器・陶磁器の機能別構成比率の変化を再度述べ、まとめとする。越後においては、土器の機能別構成比率の変化は、弥生時代後期・古墳１様式・古墳３様式・古代Ⅰ期ないしはⅡ期・古代Ⅶ期に重要な変化があったと考える。

弥生時代後期　弥生時代後期における高杯の増加は、近畿地方や阿賀野川以南の越後地域を含む北陸地方など広い範囲で生じた現象の可能性が高い。ただし高杯の比率は、畿内で 25％、北陸西部で 15％、越後では 10％前後と東へ行くと低率となる。



第3図　阿賀北の機能別構成比率



第4図 越後の機能別構成比率

古墳１様式　古墳１様式は阿賀北地域で食膳具（高杯や鉢など）の比率が急増する。食膳具の比率は20～30％ととなり、上越地域よりも高率で、北陸地方とよく似た比率である。阿賀北地域の弥生時代後期の機能別構成比率の計測データは無いが、村上市滝の前遺跡［滝沢ほか2003］や同市堂の前遺跡［石川ほか2010］の土器様相を見る限り、壺と釜が合わせて90％以上となる可能性が高い。阿賀野市腰廻遺跡にみる内面に指頭圧痕をもつ有段擬凹線釜の偏在［滝沢2009］などを考慮するならば、古墳１様式は、阿賀北地域に越中以西の北陸地域から一定量の移民が存在した可能性が考慮されてもよい[6)]。阿賀北地域は、古代に北陸地方や信濃からの移民が存在したことが文献史料などから知られるが、これ以前にも北陸地方からの移民が存在した可能性が高い。古墳時代～古代の阿賀北地域は時代の節目毎に相当量の移民を受け入れる寛容さと潜在能力を持っていた地域の可能性がある。

古墳３様式　古墳３様式における食膳具の変化は、東日本の広い範囲で確認できる変化である。越後では阿賀北地域の計量データは現在のところ無いが、胎内市反貫目遺跡［寺﨑・細井・野水ほか2004］・同市六斗蒔遺跡［岡安ほか2005］・同市天野遺跡［水澤ほか2009］などの土器様相をみると高杯や杯が増加していることは明瞭である。このような変化は東北地方日本海側では山形県庄内地域［真壁ほか2003］・秋田県横手盆地［信太ほか2007］まで及んだ変化の可能性が高い。

古代Ⅰ期　古代Ⅰ期に食膳具が減少する傾向は、越後を含めた北陸全域で確認できる可能性が高い。また、食膳具の比率が古墳４様式から徐々に減少し古代Ⅰ期に至るのか、古代Ⅰ期に急激に減少するのか、古代Ⅰ期に急激に減少する地域と、古墳４様式から徐々に減少する地域が併存するのかは、古墳４様式のデータが少なく不明である。また、古代Ⅰ期に食膳具が減少する要因も不明である。

古代Ⅰ期以降、食膳具は増加してゆく。ただし、Ⅰ期からⅦ期にかけて徐々に増加したのか、Ⅱ期に急増し、Ⅲ期に一旦減少した後Ⅳ期以降再び増加に転じるのか、両方の地域が存在するのかも不明である。

古代Ⅶ期　古代Ⅶ期以降、煮炊具・貯蔵具がほとんど確認できなくなり、食膳具が90％以上の土器群が大半となる。この背景には鉄製煮炊具の普及と土師器食膳具の使用法の変化があるものと考える。

以上、越後における弥生時代から古代の機能別比率の変化や地域性について検討した。その結果、大まかな機能別比率の変化が明らかにできたと考えるが、新潟県内に限っても時期や地域によってデータの粗密があることも明らかとなった。これらについては今後の課題としたい。

小稿は2013年５月３日に開催された新潟考古学談話会2013 Spring Meeting(春の陣)で報告した「土器の機能別構成比率の変化－越後の古墳時代から古代を中心に－」を成文化したものである。当日、談話会に参加された方々から多くの貴重な意見を頂いた。また、弥生時代後期から古墳時代前期の土器については、滝沢規朗氏より多くのご教示を頂いた。文末ながら記して感謝いたします。

註

１）第３～７表は、新潟県の古墳時代から古代の土器・陶磁器の口縁部残存率計測法による計量データを全て網羅しているわけではなく、個体数・破片数の少ないデータで省略したものが相当量ある。特に事例の多い古代Ⅴ・Ⅵ期（９世紀前葉～末葉）はその数が多い。

２）田嶋は越後のⅦ１期とした土器群が加賀のⅥ２期に平行するとし、加賀のⅥ２期の暦年代が10世紀初頭となることの根拠の１つとしている。このほか筆者の古代土器編年に関しては、渡邊朋和［渡邊2001］、百瀬正恒［百瀬2008］、笹澤正史［笹澤2011］などの批判がある。百瀬の批判については反論を行った［春日2010］。渡邊・笹澤の批判は、越後の消費遺跡の資料を基本とした筆者の編年と小泊窯跡群の編年との対応関係に関するものであるが、未だ十分理解・整理できていない。稿を改めて反論・訂正したい。ただし、対応関係が訂正されたとしても、

本稿の論旨を変更する必要はないと考えている。

3）複数の計測法を併記することは、それぞれの計測方法の利点･弱点を考えるうえで非常に意義深いことだと考える。複数の計測方法による数値の違いについて検討したものとして伊藤秀和による、馬越遺跡・太田遺跡についての検討があるが［伊藤 2010・2011］、事例は少ない。

4）166 南赤坂居遺跡は２号住居周辺からは古代Ⅳ２期～Ⅴ期の土器が出土しており、煮炊具が 80％近い高率を占める。南赤坂遺跡の煮炊具を観察したところ外面に煤が付着していないものが相当量存在した。近隣に土師器生産遺跡が存在し、失敗品が廃棄された結果、煮炊具が高率となっている可能性がある。

5）遺漏も少なくないものと考える。また須恵器窯跡も含めると相当量の蓄積がある。［宇野ほか 1989、川畑・安ほか 1994、望月 1993、望月ほか 1990・1992・1993・1999・2002］

6）どの程度の移民により機能別比率に大きな変化が生じるかについては、全く不明である。ただし、移民の数が在地の集団を数的に上回った場合でも、在地の人々がマイノリティグループとならなかった可能性は十分考えられる。

引用・参考文献

飯坂盛泰・野水晃子ほか　2007『狐宮遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 171 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰・髙橋保雄・野水晃子ほか　2011『狐宮遺跡Ⅱ・下割遺跡Ⅳ』新潟県埋蔵文化財調査第 227 集新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川博行ほか　2010『堂の前遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 213 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

伊藤秀和　2005『馬越遺跡』加茂市文化財調査報告（14）　新潟県加茂市教育委員会

伊藤秀和　2009『馬越遺跡Ⅱ』加茂市文化財調査報告（18）　新潟県加茂市教育委員会

伊藤秀和　2010『馬越遺跡Ⅲ』加茂市文化財調査報告（19）　新潟県加茂市教育委員会

伊藤秀和　2011『荒又遺跡・太田遺跡』加茂市文化財調査報告（21）　新潟県加茂市教育委員会

今井さやかほか　2007『日水遺跡　第３次調査』新潟市埋蔵文化財センター

上野一久・春日真実ほか　1997『上郷遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 87 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

宇野隆夫　1991「Ⅱ -4　食器」『律令社会の考古学的研究』桂書房

宇野隆夫　1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 40 集　国立歴史民俗博物館

宇野隆夫ほか　1989『越中上末窯』富山大学考古学研究報告第３冊　富山大学考古学研究室

遠藤恭雄・澤野慶子ほか　2014『沖ノ羽遺跡Ⅴ　第 18・19 次調査』新潟市教育委員会

岡安光彦　2005『六斗蒔遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 143 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

尾崎高宏ほか　2005『下馬場遺跡・細田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 152 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田木治太郎　1989「北陸東部における古墳時代開始期の土器様相」『北陸の考古学』Ⅱ 石川考古学研究会

春日真実　1999「第Ⅳ章古代 第２節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院

春日真実　2000「考古編　第５章　まとめ」『吉田町史』資料編Ⅰ　考古・古代・中世　吉田町

春日真実　2005「新潟県における奈良・平安時代土器編年の対応関係について－「今池編年」･「下ノ西編年」･「山三賀編年」の検討を中心に」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学会

春日真実　2006「越後における７世紀の土器編年」『新潟考古』第 17 号　新潟県考古学会

春日真実　2010「貞観五年の地震痕跡再考」『三面川流域の考古学』第８号　奥三面を考える会

春日真実ほか　2001『梯子谷窯跡』新潟県埋蔵文化財調査第 104 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実・小池義人ほか　2002『奈良崎遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 116 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実ほか　2003『沖ノ羽遺跡Ⅲ』新潟県埋蔵文化財調査第 123 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実・坂上有紀ほか　2008『六反田南遺跡・前波南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 202 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実ほか　2012『山岸遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 228 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実・坂上有紀ほか　2014『大武遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査第 249 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実・坂上有紀ほか　2015『箕輪遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査第 254 集　新潟県教育委員会・公益財団法人新潟

県埋蔵文化財調査事業団
金内　元ほか　2008『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 197 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
川畑　誠・安英樹ほか　1994『正友ヤチヤマ窯跡』石川県立埋蔵文化財センター
小池義人・江口志麻　1998『関川谷内遺跡Ⅰ』新潟県埋蔵文化財調査第 90 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
沢田　敦・細井佳浩　2006『三角田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 154 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
坂井秀弥ほか　1984『今池遺跡　下新町遺跡　子安遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告第 35 集　新潟県教育委員会
笹澤正史　2011「第Ⅶ章　総括」『新発田市埋蔵文化財調査報告第 43　七社遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
信太正樹・島田祐悦　2007『会塚田中Ｂ遺跡』横手市文化財調査報告書第７集　横手市教育委員会
嶋田仁志・滝沢規朗　2004『加治川村埋蔵文化財調査報告書第３集　野中土手付遺跡』加治川村教育委員会
實川順一・長澤展生ほか　2009『角地田遺跡・平遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 191 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成・春日真実ほか　1994『一之口遺跡（東地区）』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 60 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋浩二　1995「北陸における古墳出現期の社会構造－土器の計量分析と古墳から」『考古学雑誌』第 80 巻３号　日本考古学会
高橋　保　2006『東浦遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 170 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
滝沢規朗　1994「新井市斐太遺跡群の出土土器について」『新潟考古』第５号　新潟県考古学会
滝沢規朗　2005「土器の変遷と分類－いわゆる北陸系を中心に－」『新潟県における高地性集落解体と古墳の出現』第１分冊　新潟県考古学会
滝沢規朗　2009「新潟県の月影甕」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
滝沢規朗　2011「阿賀北における古墳時代前期の土器について（上）－細別器種毎の変遷－」『三面川流域の考古学』第 10 号　奥三面を考える会
滝沢規朗　2012「阿賀北における古墳時代前期の土器について（下）－器種分類と基準資料の提示－」『三面川流域の考古学』第 11 号　奥三面を考える会
滝沢規朗　2014「新潟県における古墳時代中期の土器について（上）－器種分類と基準資料の提示－」『三面川流域の考古学』第 13 号　奥三面を考える会
滝沢規朗ほか　1992『刈羽村埋蔵文化財調査報告書第１集　西谷遺跡』刈羽村教育委員会
滝沢規朗ほか　2003「新潟県岩船郡域における弥生時代中期～後期にかけての様相－村上市砂山遺跡・滝ノ前遺跡を中心に」『三面川流域の考古学』第２号　奥三面を考える会
田嶋明人　1986「土師器よりみた古墳時代土器群の変遷」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋明人　1988「古代編年軸の設定」『シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
田嶋明人　1991「２土師器の編年　５　北陸」『古墳時代の研究 第６巻　土師器と須恵器』石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編　雄山閣出版株式会社
田嶋明人　1996「北陸地方の古墳時代の土器」「北陸地方の３世紀中葉から４世紀初頭の土器（第１様式）」「北陸地方の４世紀の土器（第２様式）」「北陸地方の５世紀の土器（第３様式）」「北陸地方の６世紀～７世紀初頭の土器（第４様式）」『日本土器辞典』大川清・鈴木公雄・工楽善通　雄山閣出版
田嶋明人　2006「「白江式」再考」『吉岡康暢先生古希記念論集　陶磁器の社会史』桂書房
田嶋明人　2008「古墳確立期土器の広域編年　東日本を対象とした検討」『石川県埋蔵文化財情報』第 20 号　財団法人石川県埋蔵文化財センター
田嶋明人　2012「古墳確立期土器の広域編年　東日本を対象とした検討（その５）」『東生』東日本古墳確立期土器検討会
田嶋明人　2013「平安期時の暦年代と横江荘遺跡の変遷」『加賀横江荘遺跡』白山市・白山市教育委員会
田中一廣ほか　2004『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会・国際航業株式会社文化財事業部
立木宏明ほか　1998『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明ほか　1999『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2005『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
立木宏明・澤野慶子ほか　2008『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅳ　第 15 次調査』新潟市埋蔵文化財センター
立木宏明ほか　2009『萱免遺跡　第２次調査』新潟市埋蔵文化財センター
立木（土橋）由理子　1999『牛道遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 91 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
都出比呂志　1982「畿内第五様式における土器の変革」『考古学論考』小林行雄博士古希記念論文集

寺﨑裕助・細井佳浩・野水晃子ほか　2004『反貫目遺跡』新潟県埋蔵文化財調査第 135 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
土橋由理子ほか　2006『馬見坂居遺跡・正尺Ａ遺跡・正尺Ｃ遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 165 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
長澤展生・山崎　天ほか　2004『中田遺跡』五泉市文化財報告（13）　五泉市教育委員会
日本考古学協会新潟大会実行委員会編 1993『シンポジウム２　東日本における古墳出現過程の再検討』
野水晃子・山崎　天ほか　2003『新保北遺跡』五泉市文化財報告（8）　五泉市教育委員会
野水晃子ほか　2005『西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 146 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
細井佳浩ほか　2006『土居下遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 166 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
細野高伯ほか　2002『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
細野高伯ほか　2012『大沢谷内遺跡Ⅱ　第７・９・11・12・14 次調査』新潟市教育委員会
本間敏則ほか　2000「考古編」『吉田町史』資料編１　吉田町
前山精明・相田泰臣　2002『南赤坂遺跡』新潟県西蒲原郡巻町教育委員会
真壁　建ほか　2003『山田遺跡発掘調査報告書』
松島悦子・山下　研ほか　2010『五千石遺跡２区・４区西区』燕市文化財調査報告書第６集　燕市教育委員会
水澤幸一ほか　2009『天野遺跡　３次・４次』胎内市埋蔵文化財調査報告書第 16 集　胎内市教育委員会
向井裕知　1999「加賀における５世紀の土器様相－計量的分析と使用痕の観察から」『北陸の考古学』Ⅲ　石川考古学研究会
望月精司　1993『二ッ梨豆岡向山古窯跡群』石川県小松市教育委員会
望月精司　2004「北陸・信越地域の土器」『考古資料大観３　弥生・古墳時代』土器Ⅲ　小学館
望月精司ほか　1990『二ッ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』石川県小松市教育委員会
望月精司ほか　1992『戸津古窯跡Ⅱ』石川県小松市教育委員会
望月精司ほか　1993『戸津古窯跡Ⅲ』石川県小松市教育委員会
望月精司ほか　1995『念仏林南遺跡』社会福祉法人　松寿園・石川県小松市教育委員会
望月精司ほか　1999『林タカヤマ窯跡』石川県小松市教育委員会
望月精司ほか　2005『二ッ梨一貫山窯跡』石川県小松市教育委員会
百瀬正恒　2008「『新潟平野における中世土器の成立』報告の概要」『第 21 回北陸中世考古学研究会資料集　北陸中世のみち』北陸中世考古学研究会
渡邊朋和　2001「第Ⅶ章　まとめ　２ 遺物　Ｅ　年代の比定」『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
渡邊朋和ほか　2001『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
渡邊裕之ほか　2005『台の上遺跡・峪ノ上遺跡・五反田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 138 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
渡邊ますみ・河合英夫ほか　2009『駒首潟遺跡第３・４次調査』新潟市埋蔵文化財センター
渡邊美穂子ほか　2001『新発田市埋蔵文化財調査報告第 23-2　坂ノ沢Ｃ遺跡Ⅱ（平安時代編）』新発田市教育委員会

恵信尼の里「とひだのまき」に関する考古学的考察

加　藤　　学

はじめに

建永２（1207）年２月、浄土真宗の開祖・親鸞（承安３（1173）年－弘長２（1263）年）は、後鳥羽上皇が法然の専修念仏を弾圧・禁止したことで越後国府へ流刑となり、越後国分寺にほど近い上越市居多ヶ浜（こたがはま）に上陸したとされる。流刑の地となった越後国府の位置は定かでないが、上越市に存在したことは確実視されている。中世期においては、直江津駅南側に広がる至徳寺遺跡を越後国衙とし、その周辺に国府が所在したとする見解が有力である［宮・山田監修1986］。至徳寺遺跡の年代は、11 世紀～17 世紀で、親鸞が流刑となった時期にも展開する。同遺跡は、当時としては大規模な港湾都市でもあり、親鸞がその周辺で過ごしたことが想定される。

親鸞は、流刑の地において越後国の豪族・三善為教の子・恵信尼（寿永元（1182）年－文永５（1268）年？）と結婚したとされる。結婚の時期については諸説あるが、流刑時に結婚したとする見方が有力である。親鸞は、流刑が解かれた後、恵信尼を伴い関東で布教した。恵信尼は、関東での布教の後、晩年を「とひだのまき」で過ごしたことが、子・覚信尼にあてた「恵信尼書状」から明らかとなっている。「とひだのまき」の位置については諸説あったが、現在では頸城平野の南東部、上越市板倉区米増の「とよ田」をあてることが有力な一説となっている。

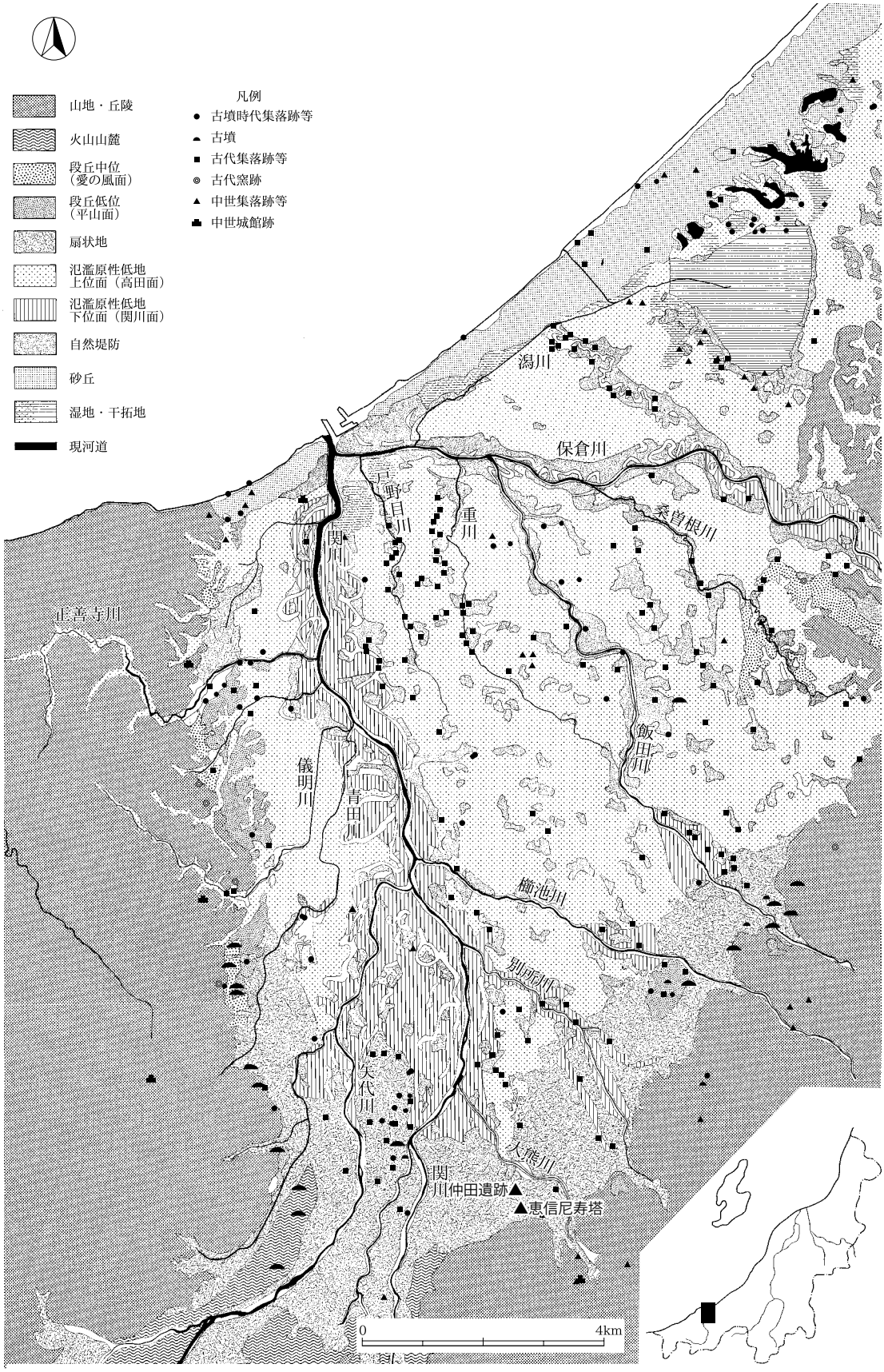
本稿では、恵信尼が晩年を過ごした「とひだのまき」について、郷土史家・宮腰幸（第１図）の地道な研究と丸山貢による写真記録を紹介するとともに、近年の考古学的調査の成果も踏まえた考察を行いたい。

第１図　恵信尼寿塔と宮腰幸

１　上越市板倉区の位置と歴史的環境

上越市板倉区は、新潟県の南西部、関川によって作り出された高田平野の南東隅に位置する（第２図）。板倉には、信越国境の関田山地から流れる大熊川・別所川によって作り出された扇状地が広がり、地域全体が緩傾斜地となっている。

古代においては、越後国頸城郡板倉郷に相当する。中世に入ると、板倉は国司や在庁官人によって開発された「保」（国衙領）となり、「田井保」（貞和３（1347）年 11 月 16 日沙弥某施行状／居多神社文書）に相当する［花ヶ前 2003］。また、「とひだのまき」と隣接する熊川地区は、戦国期に箕冠城の城下町の一部であったものが、近世に現在の集落に移行したとされている［小村ほか1989］。本稿で取り上げる仲田遺跡は、現在の熊川集落の前身であった可能性がある。



第2図　高田平野の地形と恵信尼寿塔・仲田遺跡の位置
（北陸地方建設局北陸技術事務所1981、新潟県農地部農村総合整備課1980・1981を改変）

2　恵信尼寿塔

（1）恵信尼寿塔の存在

恵信尼は、生前に丈七尺の五重の石の塔を塔師に作らせた。このことは、「恵信尼書状」の第七通と第八通に書かれている。この五輪塔の所在については諸説あった。上越市板倉区米増五りん田の五輪塔（第11図右）、妙高市吉木の勝徳寺境内の五輪塔（第11図左）が、その候補として挙げられてきた。1959年に発表された梅原隆章（富山大学）の論文によって、板倉区米増の五輪塔が恵信尼の寿塔として比定され、西本願寺はこれを支持した。これにより、板倉区米増にある五輪塔が恵信尼寿塔とされ、1963年には「本願寺国分別院」の飛地境内として整備された（第3図）。2005年には、「ゑしんの里記念館」として整備され、五輪塔は現在、その一角に安置されている。

第3図　恵信尼寿塔（1973年頃撮影、新潟県教育委員会埋蔵文化財包蔵地カードより）

（2）恵信尼寿塔の発見

恵信尼寿塔は、戦後から郷土史家によって関心がもたれていたとされる。大場厚順［2003］は、その発見の経緯から、評価に至る一連の検討を詳細に行っているので、ここではその概略を紹介する。

恵信尼寿塔が学界に公になったのは、梅原隆章が宮腰幸の案内で現地調査したことが始まりとされる。梅原により、「比丘尼墓」と呼び伝えられていた五輪塔が紹介された。しかし、この五輪塔には「恵信尼書状」と決定的な相違があった。恵信尼は丈七尺の五輪塔を作らせたとするが、この五輪塔の高さは七尺ない。梅原は、曲八寸をもって一尺とする「もんぎ」という尺度が、奈良・京都の寺で使用されていることと対比した。そして、この尺度を用いれば、七寸に相当するとした。井上鋭夫［1966］は、この考え方や時期において否定的な見解を示したが、妙高市吉木の勝徳寺境内の五輪塔を寿塔と考えていた白銀賢瑞をはじめ、山崎寛隆等によって支持され、今日に至る。

（3）恵信尼寿塔の発掘調査

恵信尼寿塔は、1954年4月に米増青年会（会長：宮腰英武）により発掘調査されている。調査には、直江津の中澤正治が立ち会ったとされる（第4・6～10図）。正式な報告はなく明らかでないことが多いが、丸山貢撮影の写真には調査時の様子が垣間見られる。やぐらを組み石塔を移動した様子（第4･5図）、鶴嘴やスコップを用いて掘削している様子（第5図）、五輪塔下部から採取した土壌を観察している様子（第6図）等が撮影されている。写真を見る限り、発掘調査とはいえ、今日的な調査手順はとられておらず、下部遺構の検出等は行われていないことが分かる。

なお、井上鋭夫［1966］は、調査に携わっていないものの、遺骨が出土しなかったことに言及している。酸性土壌の日本列島においては、骨は火葬していなければ残ることは極めて稀である。土葬による中世墓から遺骨が出土する事例は少なく、五輪塔下部から遺骨が出土しなかったことは、一般的な状況といえる。すなわち、遺骨が出土しなかったことをもって、墓でないということはできない。また、石塔の下部に火葬骨を入れた骨壺が納められるようになるのは14世紀半ば以降であり［水澤2009］、出土品がなかったことは特異な状況ではない。

第4図　発掘調査風景（１）

第5図　発掘調査風景（２）

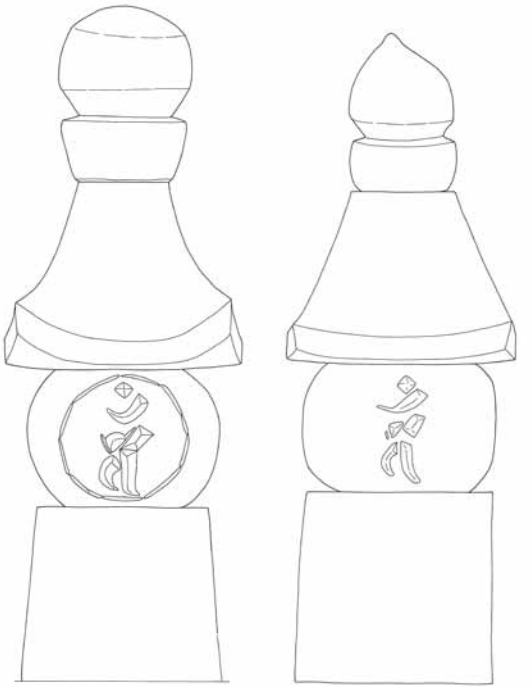
第6図　発掘調査風景（３）
戴帽しているのが中澤正治（以下、同）

第7図　発掘調査風景（４）

第8図　発掘調査風景（５）

第9図　発掘調査風景（６）

第10図　発掘調査風景（７）



第11図　恵信尼寿塔（右）と新井市吉木勝徳寺の五輪塔（左）の実測図（S=1/20）

（4）恵信尼寿塔の今日的評価

水澤幸一［2003］は、恵信尼寿塔を観察・実測し、公表している（第 11 図右）。石材は安山岩で、大きさは空風輪 40.5cm × 27.5cm、火輪 44cm × 58.5cm、水輪 33 × 49.5cm、地輪 49cm × 47.5 ～ 50.5cm、総丈 166.5cmの五尺五寸塔と評価している。

また、水澤は上越地域の五輪塔の調査をとおして、14 世紀代に 4 尺を超える少数の大型塔が造られ始められたとした［水澤 2003］。恵信尼寿塔のみを評価したわけではないが、恵信尼書状が書かれた年代が 1260 年前後と推定されることから、この年代観と完全には一致しない。五輪塔は、一般的に小型化し簡略的形態変化が見られるとされる［浅野 2001］。また、水輪の最大径が中間部付近にある特徴は、鎌倉～南北朝期に位置付けられる［岡本・加藤編 1967］。これらの状況を踏まえれば、恵信尼寿塔は鎌倉期に位置付けることができ、総体的により古い段階に位置付けることができる。北陸における五輪塔の出現は 13 世紀後半であり［水澤 2009］、恵信尼寿塔は最も古い段階の石塔といえるかもしれない。五輪塔の形態変遷に関する研究の動向を受けて、改めて検討を要する。

なお、水輪は寸胴タイプで、彫りの浅い「バン」が刻まれている。井上悦夫［1966］は、大日如来の種子である「バン」が刻まれていることを指摘し、恵信尼及び浄土真宗との関係に慎重な見解を示している。

（5）恵信尼寿塔周辺のかつての景観

恵信尼寿塔は、かつては水田の一角に、コブシの木と隣り合わせるように存在した。その様子を示す記録写真が、丸山貢によって残されている。当時、写真機はまだ広く普及しておらず、貴重な写真である。丸山は郷土史家・宮腰幸（第 1 図）の調査にカメラマンとして随行した経緯から、恵信尼寿塔の写真を各季節、撮影している。整備された現況とは著しく異なり、田園風景の中に、ひっそりとたたずんでいる様子を理解できる（第 12・13 図）。

1958 年 11 月、板倉区山部の西蓮寺・藤纏賢珠の案内による文学博士・金原省吾（新潟大学高田分校主事）の踏査、1959 年 6 月 6 日、恵信尼研究で著名な新潟佛教會長・蒲原霊英が参詣した際の写真記録も残されている。

第12図　恵信尼寿塔（1957年ころ撮影）

第13図　恵信尼寿塔（1962年ころ秋撮影）

第14図　金原省吾の踏査（1958年撮影）
五輪塔に手を触れているのが金原省吾

第15図　愛知県からの参詣者（1958年11月19日撮影）
前列右端が藤纏賢珠, 後列左端が宮腰幸

第16図　蒲原霊英一行参詣（１）（1959年撮影）

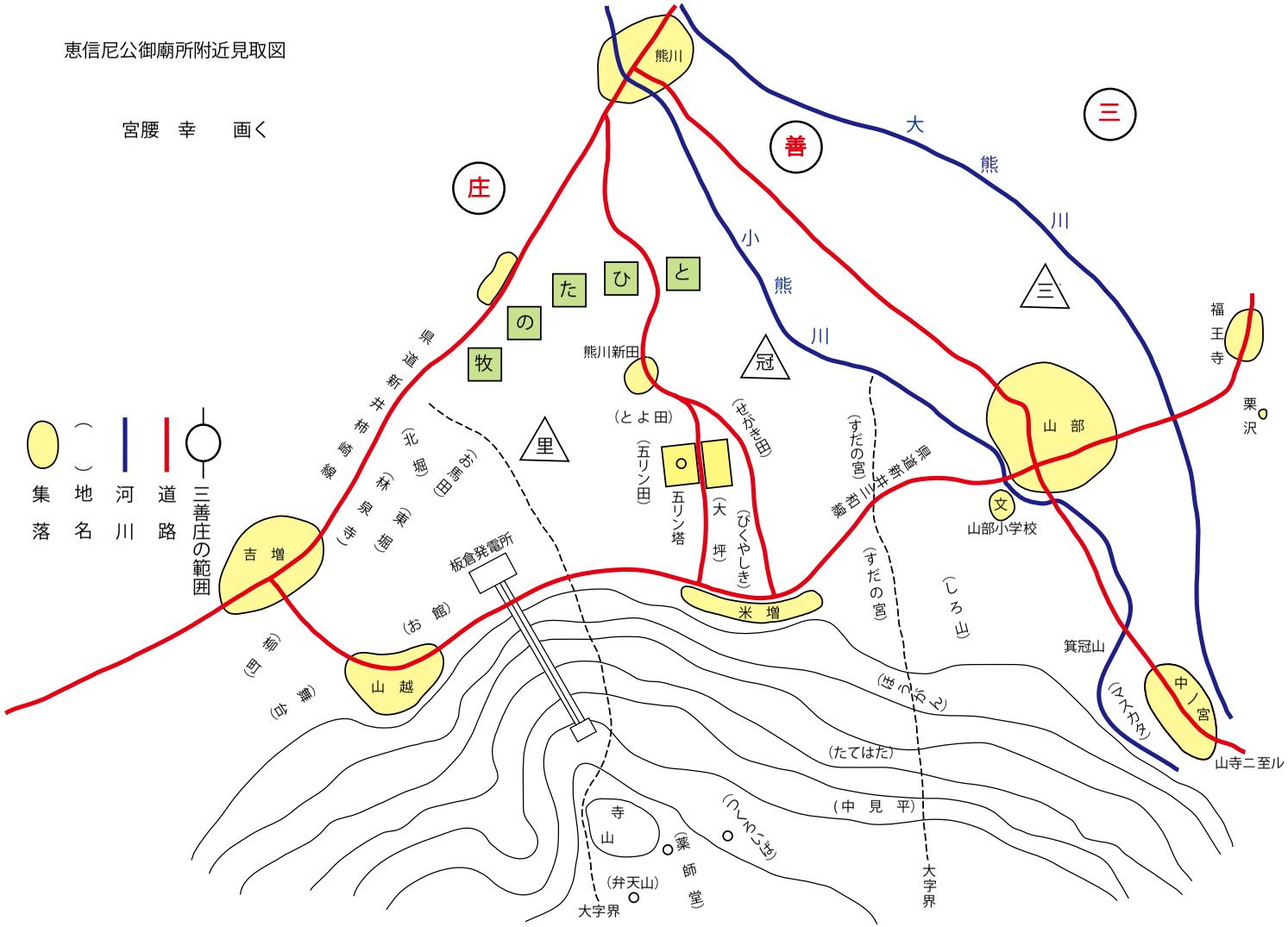
第17図　蒲原霊英一行参詣（２）（1959年撮影）

３　「とひだのまき」の位置

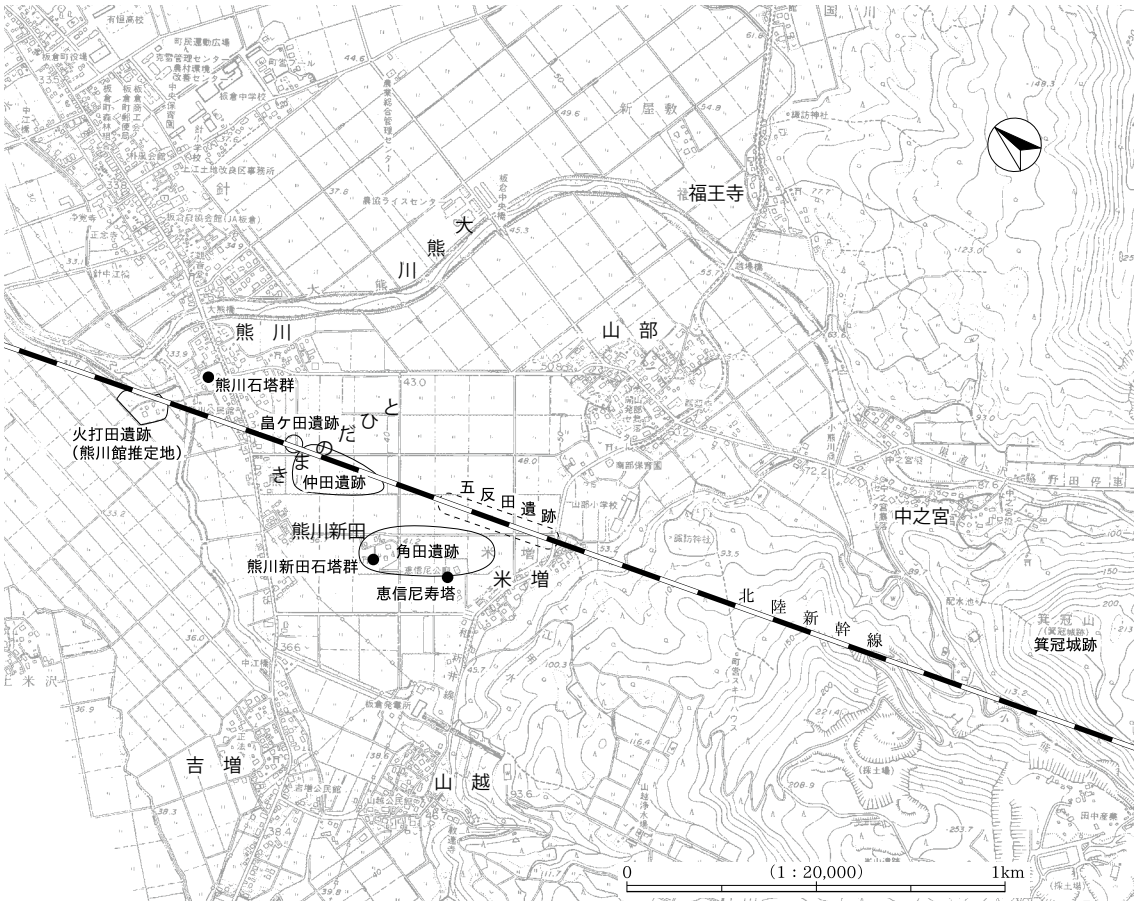
関東での布教後、恵信尼が越後に戻った理由については史料がなく不明である。断片的な状況証拠をもとに、大場厚順は上越市板倉区域に残した所領･財産の管理、孫たちの世話が目的であったとした。子は、板倉区域に住んでいたとされる。栗沢信連房は「栗沢」（第 18 図）、益方は玄藤寺地内の「マスカタ」、高野禅尼は「高野」に住み、小黒女房は安塚区の「小黒」に嫁いだとされる［大場 2003］。これらのことから板倉は、恵信尼にとって、ゆかりの地であったことは間違いないといってよいであろう。

さて、それでは「とひだのまき」は具体的に、何処に比定できるのであろうか。その位置については諸説ある［大場 2003］が、「とひ」を「樋」の転訛と解し、五輪塔がある米増地区の「とよ田」をあてることが一説となっている。宮腰幸は、小字名を丹念に調べることで、かつての土地利用を示す地名を明らかにし、「とひだのまき」を「とよ田」周辺に比定した。第 18 図は、宮腰が作成した図を、トレースしたものである。これを見ると、大字界と小熊川に挟まれた「とよ田」周辺が「とひだのまき」であることを明記している。「とよ田」の付近には、恵信尼寿塔がある「五里ん田」のほか、「お館」「びくやしき」という地名がある（第 18 図）。これらは、字のごとく、館や屋敷が存在したことを示す地名と理解してよかろう。「お馬田」の地名も注目される。京都に書状を届けるためには、馬が必要であることから、その飼育に用いた「牧」であるのかもしれない。

また、大場［2003］は、書状を持参する人が行き来するところの近くでなくてはならないとし、交通の利便性を「とひだのまき」の重要な条件とした。板倉は、平野と山地の境界付近に位置する。すなわち、



第18図　宮腰幸による「とひだのまき」推定地



第19図　「とひだのまき」と仲田遺跡・恵信尼寿塔（板倉町役場作成「板倉町全図その1」1：10,0000原図）

板倉周辺までは関川の流れが緩やかで、かつ水量が多いことから舟運を利用できる（第2図参照）。これより上流は、舟運を利用することは困難と考えられ、新井・板倉周辺は交通の要衝であった可能性が高い。関川から板倉へのアクセスは、大熊川などの支流を利用することを想定することができる。舟を利用しないとしても、川に沿って形成された自然堤防を伝うように「道」が存在した可能性も考えられよう。このように考えると、書状の持参者が馬を利用しようと舟を利用しようと、板倉が、必ずしも交通の利便性が悪いとは言えない。むしろ、「とひだのまき」の位置は、地縁を重視して考えるべきであろう。

4　仲田遺跡の調査成果

宮腰幸が示した「とひだのまき」周辺には、角田遺跡・仲田遺跡・五反田遺跡など、古代～中世の大規模な集落が展開する。中でも、仲田遺跡は、恵信尼寿塔の北300ｍに所在する中世集落である［加藤ほか2003］。関川の支流、大熊川・別所川が作り出した扇状地の扇端部に立地し、小熊川の旧流路に沿うように集落が検出された。仲田遺跡は、宮腰が「とひだのまき」と想定した範囲と重複するように広がる（第18・19図）。

北陸新幹線の建設に伴い、5,100㎡を発掘調査した結果、中世集落が極めて良好な状態で検出された。第20図のとおり、足の踏み場がないほど、建物の柱穴や井戸などの遺構が密集する範囲があった。

調査範囲からは、掘立柱建物31棟以上、井戸85基、土坑59基、溝17条など、膨大な数の遺構を検出したが、これらすべてが同時期に存在したわけではない。出土した遺物の年代から、11世紀後半～15世

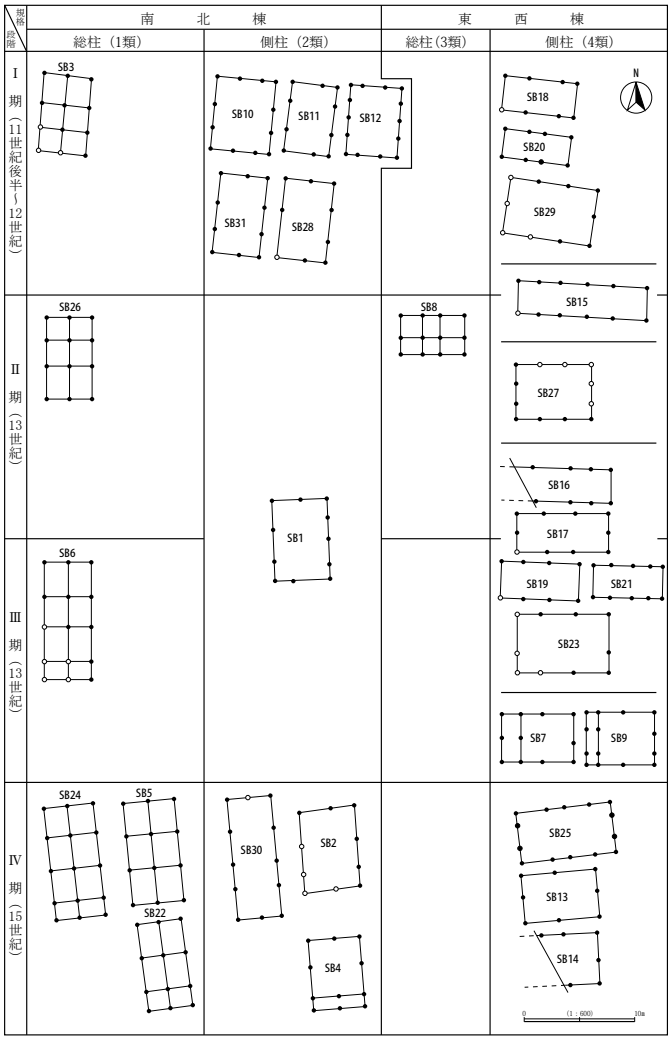
紀の400年間、ほぼ継続的に集落が展開したことが分かった。したがって、膨大な数の遺構は、その間に築かれた遺構が累積した結果といえる。一時期にどのような集落が展開したのかを知るためには、様々な角度から慎重に分析しなくてはならない。

分析においては、遺構の切り合い関係を重視した。また、掘立柱建物の主軸方向の相違にも有意な関係性があることを見出すことができた。掘立柱建物は、東西南北を強く意識して建てられたものの、その時々で、掘立柱建物の構造や方向が異なることが明らかになったのである。当時の人々が、計画的に集落を構築したことを読み取ることができよう。

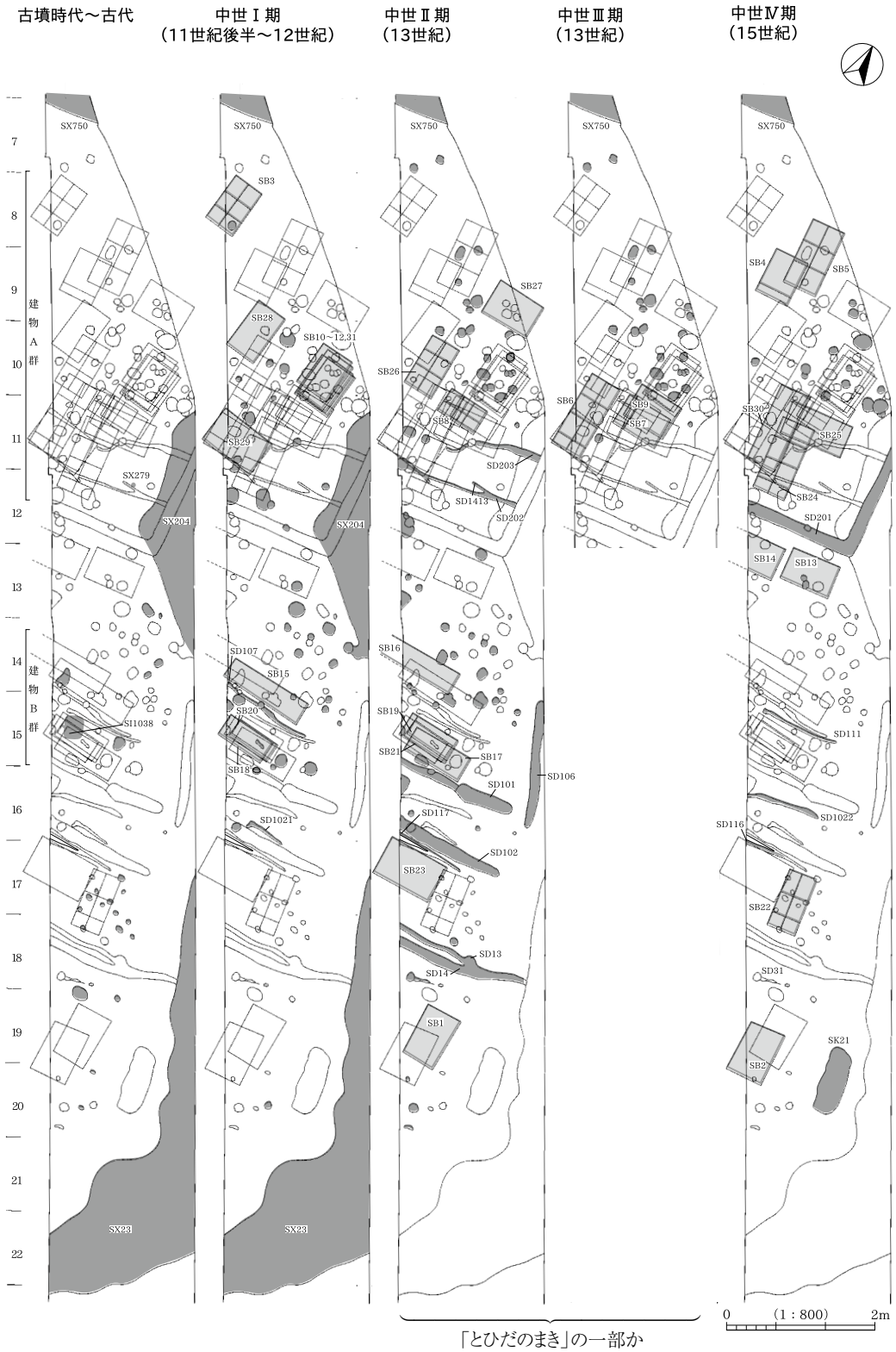
具体的に見ていくと、掘立柱建物の主軸が、やや東に偏る1群（N 4° E～N 7° E）、ほぼ南北方向を示す2群（N 0°～N 2° E）、やや西に偏る3群（N 5° W～N 7° W）に分類することができた。さらに、建物間の切り合い関係、井戸を介した切り合い関係を整理していくと、1群（Ⅰ期）→2群古段階（Ⅱ期）→2群新段階（Ⅲ期）→3群（Ⅳ期）と整理することができた（第21図）。そして、掘立柱建物との切り合い関係がある井戸から出土した遺物の年代観を考慮しながら各期の年代を特定した。

これらの分析を経て、仲田遺跡の中世集落は、Ⅰ期（11世紀後半～12世紀）、Ⅱ期（13世紀）、Ⅲ期（13世紀）、Ⅳ期（15世紀）に分解することができた（第22図）。そして、Ⅲ期とⅣ期の間に相当する14世紀の遺構・遺物はまったく見出されなかった。1361年（康安元年）には焼山が噴火しており、その影響を受けて集落を移転した可能性もあろう。実

第20図　仲田遺跡で発見された中世集落



第21図　仲田遺跡の掘立柱建物の構成と変遷



第 22 図　仲田遺跡における中世集落の変遷

際、焼山により近い妙高市の中世遺跡においては、甚大な被害を受けたとされる［新井市教育委員会ほか2000］。しかし、仲田遺跡の場合、明瞭な降灰の痕跡などを検出できておらず、調査範囲外に14世紀の集落が築かれた可能性も否定できない。15世紀には再び仲田遺跡に集落を築かれるものの長くは続かず、16世紀以降、集落は断絶する。おそらくはこの時期に、現在の集落の礎となった近世集落へと移行したのであろう。

おわりに　－「とひだのまき」と仲田遺跡－

宮腰幸が推定した「とひだのまき」が、仲田遺跡の調査範囲と重複することは、ほぼ確実と見てよい（第18・19図）。そして、発掘調査により中世集落が良好な状態で検出され、かつ、恵信尼が晩年を過ごした13世紀中頃にも集落が展開することが明らかとなった。宮腰の考察を勘案すれば、仲田遺跡は恵信尼と何らかの関係をもった集落と考えるべきであろう。少なくとも周辺地域においては中核的な中世集落であり、長期間、継続的に展開する。このような中世集落は、「館」等を除けば、あるようでなかなか見つからないものである。仲田遺跡は、宮腰がいう「三善庄」の中心地であったのかもしれない。

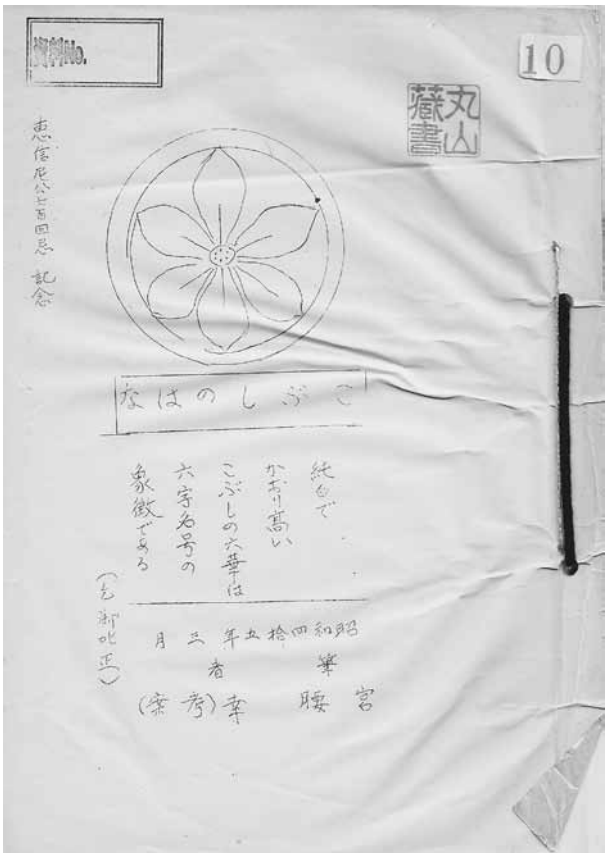
仲田遺跡から出土した遺物には、高級な輸入陶磁器や、西南日本に生育するイスノキで作られた櫛が6点あるなど、高級な遺物が目に付く。当時の交易の広さをうかがい知ることができるとともに、地域において重要な集落であったことを傍証するものである。

仲田遺跡の発掘調査範囲においては、宮腰が推定する「とひだのまき」の一部を観察したに過ぎないのである。地域史研究において、この一帯は極めて重要であり、埋蔵文化財保護はもちろんのこと、地域に残されている史料の保全にも努めなくてはならない。

宮腰幸の地道な研究は、『こぶしのはな』という冊子となっている（第23図）［宮腰1970］。極めて重要な記録が残されているにもかかわらず、私家版であるが故、この資料の存在そのものを知っていた研究者はどれだけいたであろうか。筆者も多分に漏れず、仲田遺跡の調査担当者でありながら、その存在すら知らなかった。

宮腰が地道な取り組みに基づき、積み上げてきた資料に触れたとき、この研究を何らかの形で保存し、永久に保管していく必要性を感じた。このことが、本稿を草する契機となったのである。できることであれば、地域の教育委員会や図書館など、公的機関で適切に保管・活用していくことが望まれよう。少なくとも複写を残し、末永く後世に宮腰の研究を伝えていくべきである。本研究が、その一つとなり、恵信尼研究の一助となれば幸いである。

（本文中、敬称略）



第23図　宮腰幸 著『こぶしのはな』

謝辞

本稿は、新潟県立歴史博物館で 2014 年に開催された「親鸞－なむの大地－」に寄稿する際、得た情報を基に執筆したものである。寄稿をお薦めくださった新潟大学・矢田俊文先生、新潟県立歴史博物館・前嶋敏氏に、深く感謝申し上げる次第である。

そして、資料を永年にわたって大切に保管され、本研究にそれを提供いただいた丸山貢氏に深く感謝申し上げたい。丸山氏の資料保管が無ければ、本研究において掲載した写真記録（第 1･4 ～ 10･12 ～ 16 図）は、すでに失われていたかもしれない。縁あって、それらの資料に触れることができ、ここに公表することができたのは、望外の喜びである。

本研究で公表した資料が、広く、末永く活用されていくことを望みたい。

引用文献

浅野晴樹　2001「墓葬と供養　供養の諸形態」『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会

新井市教育委員会・新井市遺跡発掘友の会　2000『新井市遺跡発掘 10 年のあゆみ』新井市教育委員会

井上鋭夫　1966「中世の頸南」『頸南－中頸城郡南部学術総合調査報告書－』新潟県文化財年報第六　新潟県教育委員会

梅原隆章　1959『真宗史の諸問題』顕真学苑

岡本　勇・加藤晋平編　1967『新潟県新井市における考古学的調査－大貝遺跡・石塔類－』立教大学博物館研究室調査報告 6　立教大学学校・社会教育講座博物館学研究室

大場厚順　2003「真宗の展開」『板倉町史　自然・通史編』板倉町

小村　弐ほか　1989『角川日本地名大辞典　15 新潟県』角川書店

加藤　学ほか　2003『仲田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 128 集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学　2014「恵信尼の里「とひだのまき」と中世遺跡」『親鸞となむの大地　越後と佐渡の精神的風土』親鸞となむの大地展実行委員会

花ヶ前盛明　2003「鎌倉・室町時代」『板倉町史　自然・通史編』板倉町

水澤幸一　2003「石造物」『上越市史叢書 8　考古－中・近世資料－』上越市

水澤幸一　2009「北陸の中世墓」『日本の中世墓』高志書院

宮　榮二・山田英雄監修　1986『日本歴史地名大系第 15 巻　新潟県の地名』平凡社

宮腰　幸　1970『こぶしのはな』私家版

研　究　紀　要

第　8　号

2015(平成27)年２月26日印刷　　編集・発行　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
2015(平成27)年２月27日発行　　〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地１
電 話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986
印刷・製本　株式会社　ハイングラフ
〒950-2022　新潟市西区小針１丁目11番８号
電 話　025（233）0321

『研究紀要』第８号　正誤表　［公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団2015］

頁・行	誤	正
21p　下から6行目 22p　19行目 23p　「おわりに」9行目、「引用・参考文献」1・2行目	安達	安立